

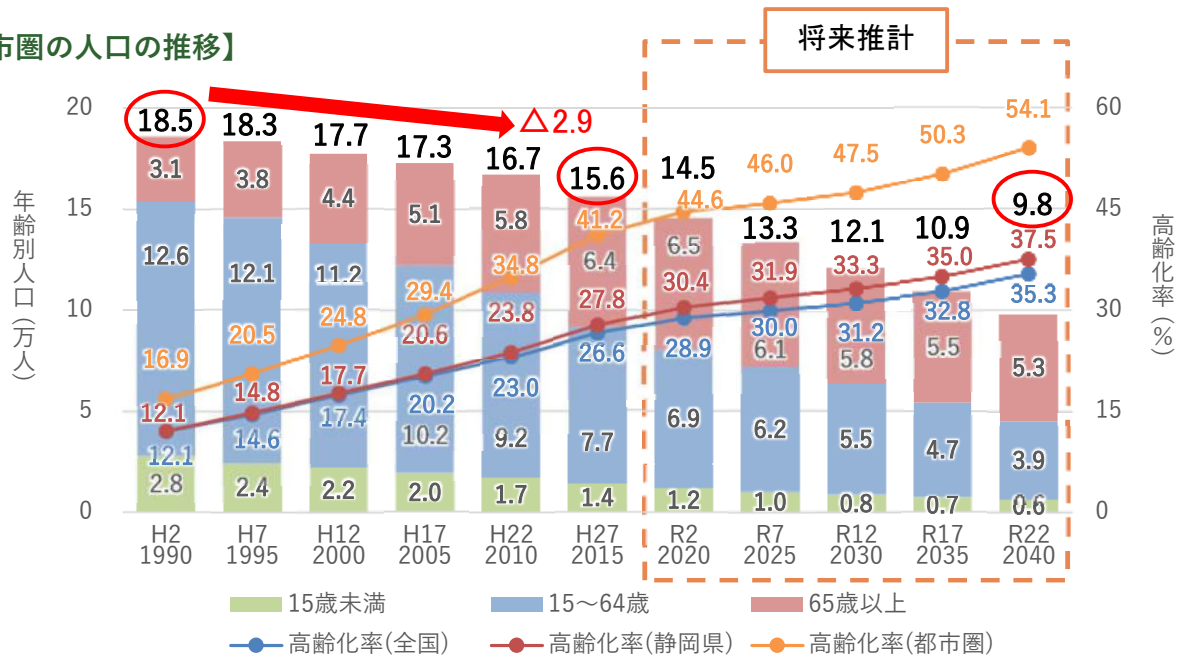
2. 伊豆東海岸都市圏の現況分析

2-1 都市圏の概況

(1) 人口動向

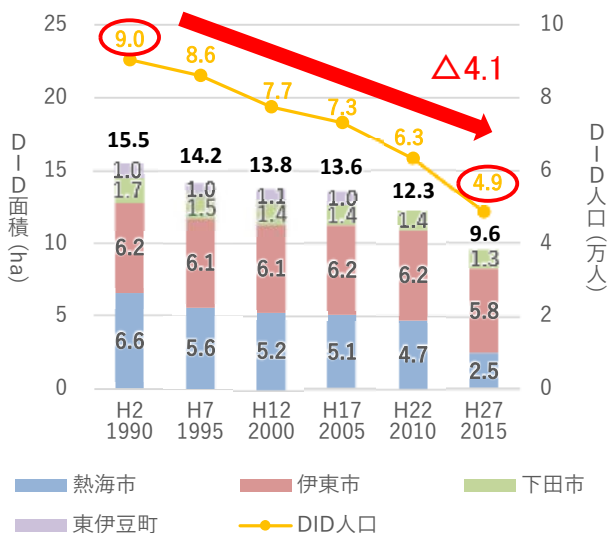
- 伊豆東海岸都市圏の人口は減少傾向にあり、令和22年（2040年）には平成2年（1990年）の約半分の9.8万人まで、減少することが予測されています。
- 高齢化率は増加傾向にあり、令和17年（2035年）には、50%を超過することが予測されており、2人に1人が高齢者となる都市圏となっています。
- DID地区（人口集中地区）については、人口・面積とも減少傾向にあり、人口は平成2年からの25年間で4.1万人減少しており、都市圏全体の減少数2.9万人を超えています。また、人口密度は静岡県平均を下回る水準となっています。

【都市圏の人口の推移】



出典) H27までは国勢調査、
R2以降は『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』
(国立社会保障・人口問題研究所)

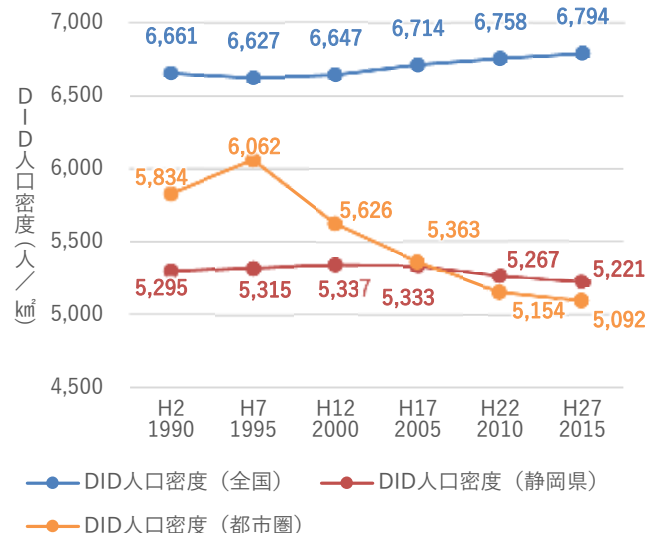
【都市圏のDID人口と面積の推移】



※河津町および南伊豆町はDID地区なし。

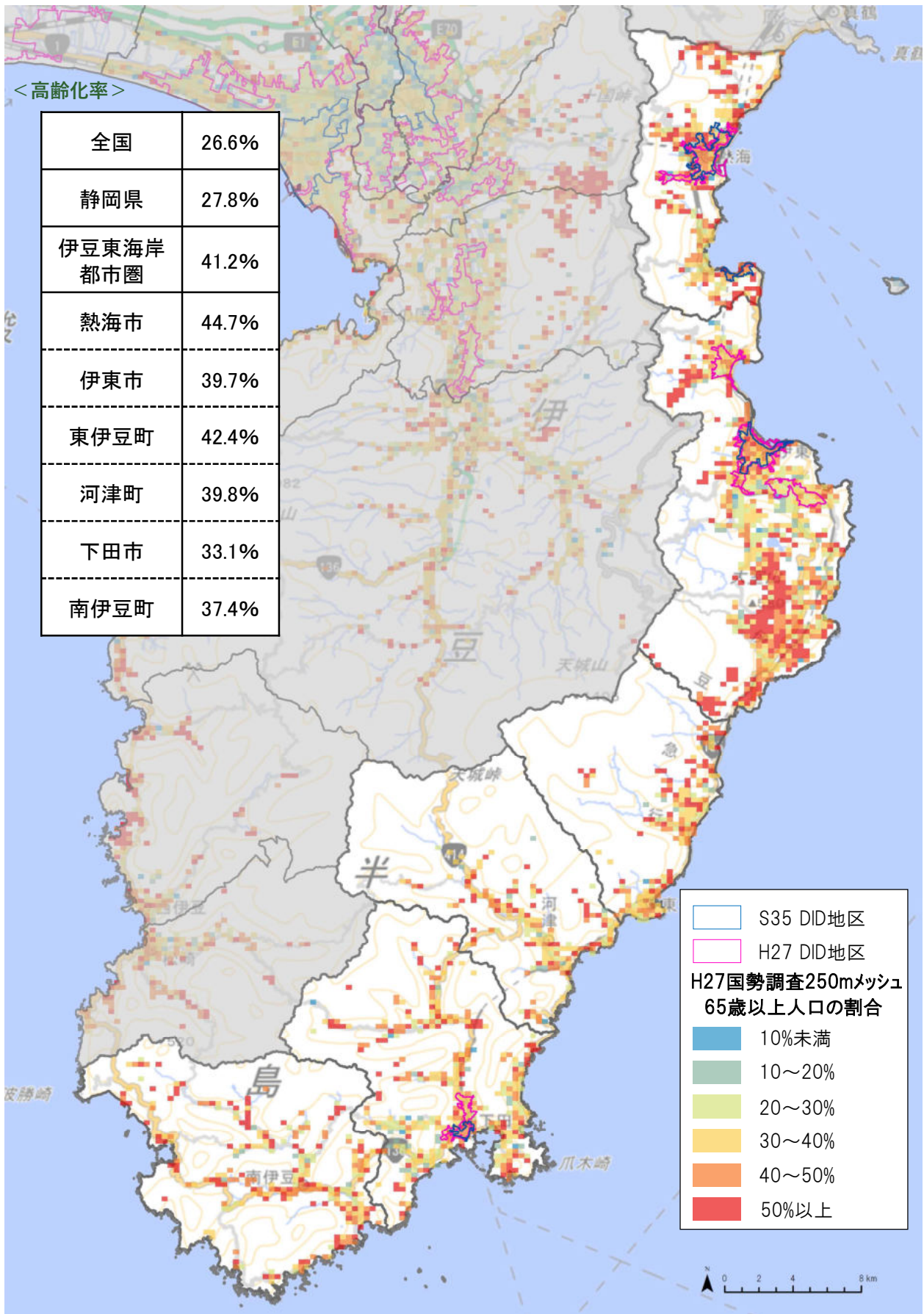
出典) 国勢調査

【都市圏のDID人口密度の推移】



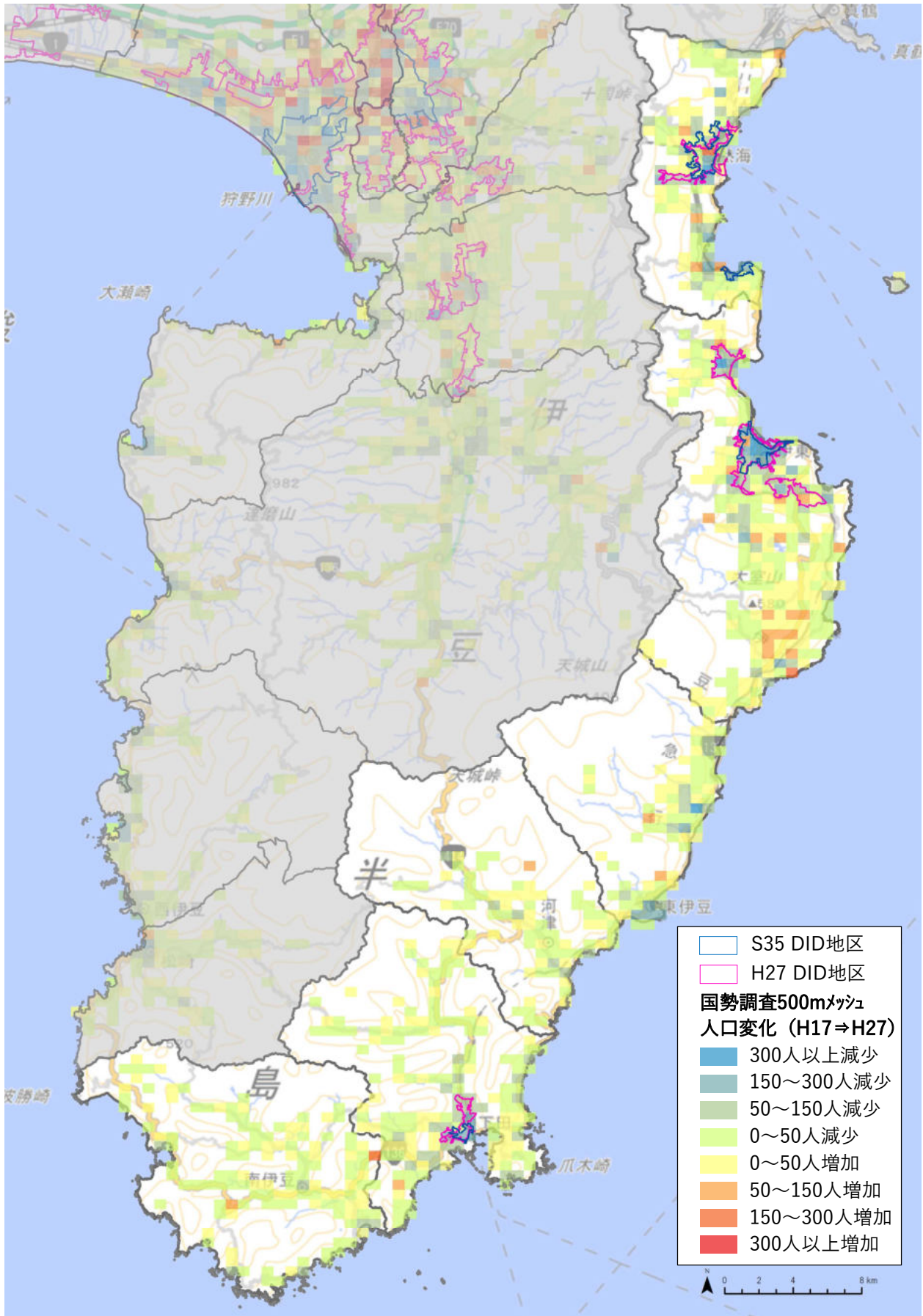
出典) 国勢調査

【伊豆東海岸都市圏で進む高齢化】



出典) 国勢調査

【市街地部の人口減少】

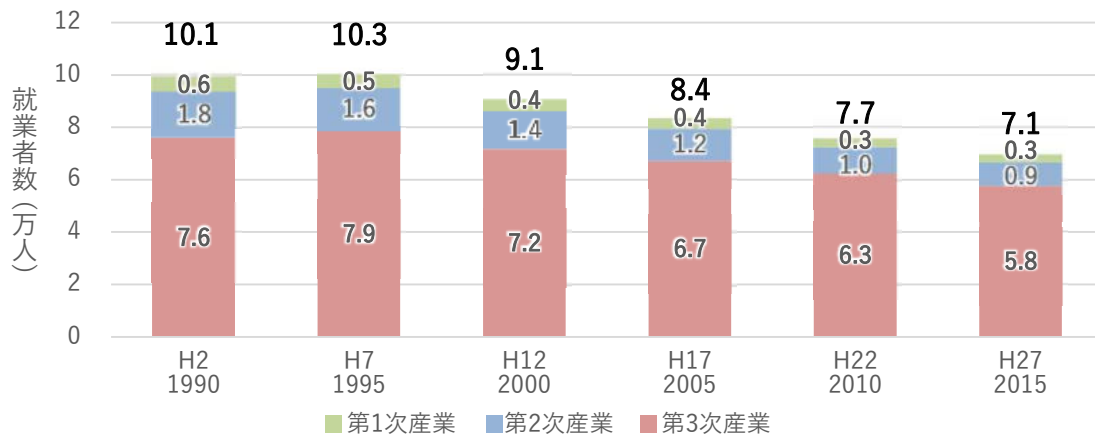


出典) 国勢調査

(2) 産業動向

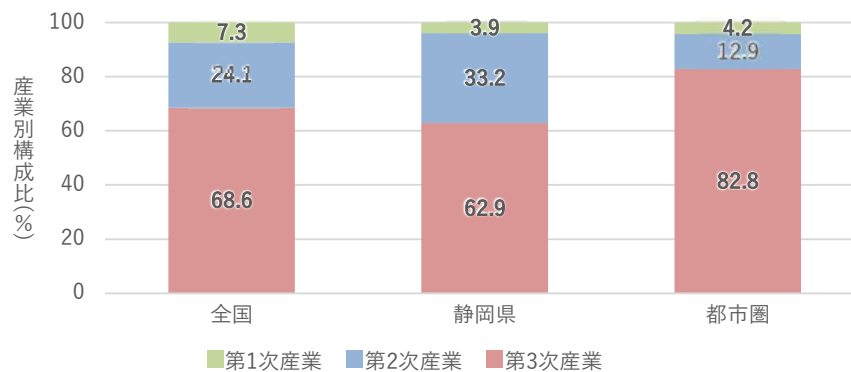
- 伊豆東海岸都市圏の就業者数は平成7年（1995年）をピークに減少が続いています。
- また、伊豆東海岸都市圏の第3次産業において、宿泊・飲食業の就業者割合は、全国や静岡県と比較して、かなり多い状況です。
- 製造品出荷額は平成12年（2000年）以降、減少が続いています。
- 商品販売額は平成24年（2012年）まで減少傾向にありましたが、近年は増加傾向にあります。

【都市圏の就業者数】



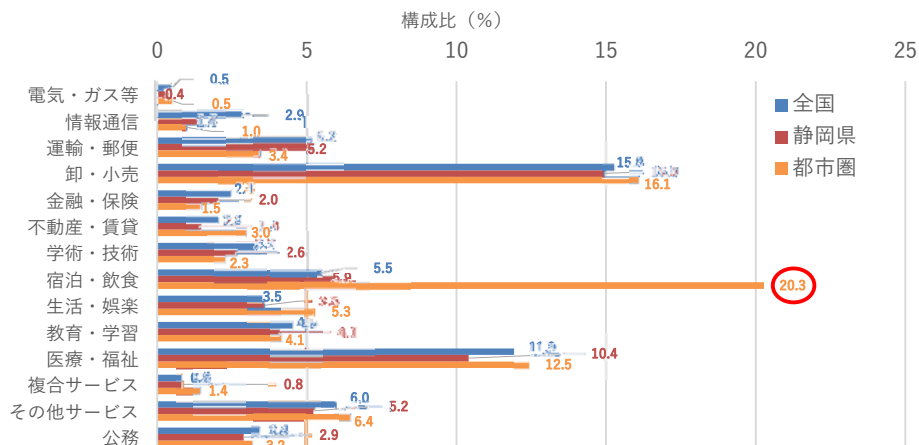
出典) 国勢調査

【産業別構成比 (H27)】



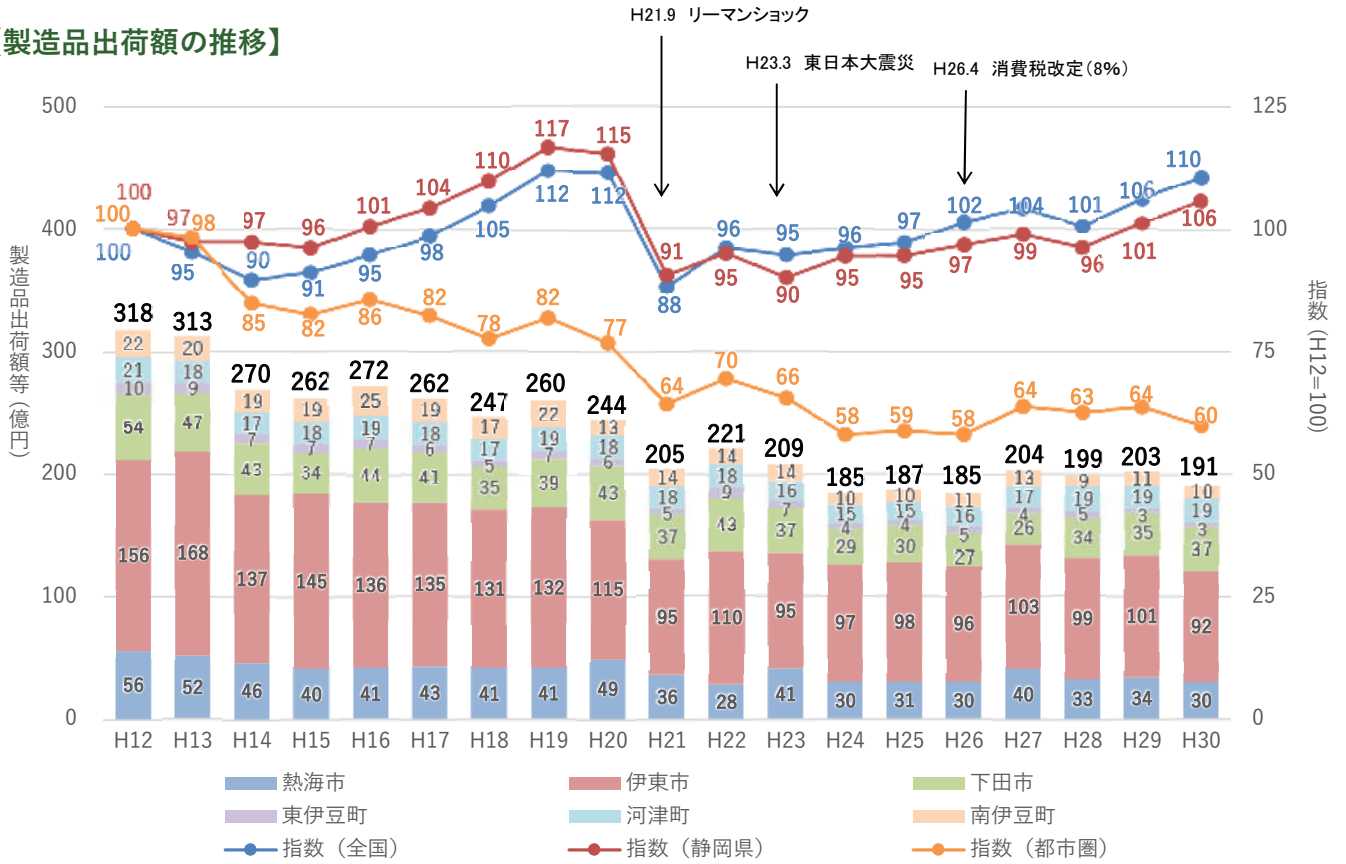
出典) 国勢調査

【第3次産業の就業者割合の比較 (H27)】



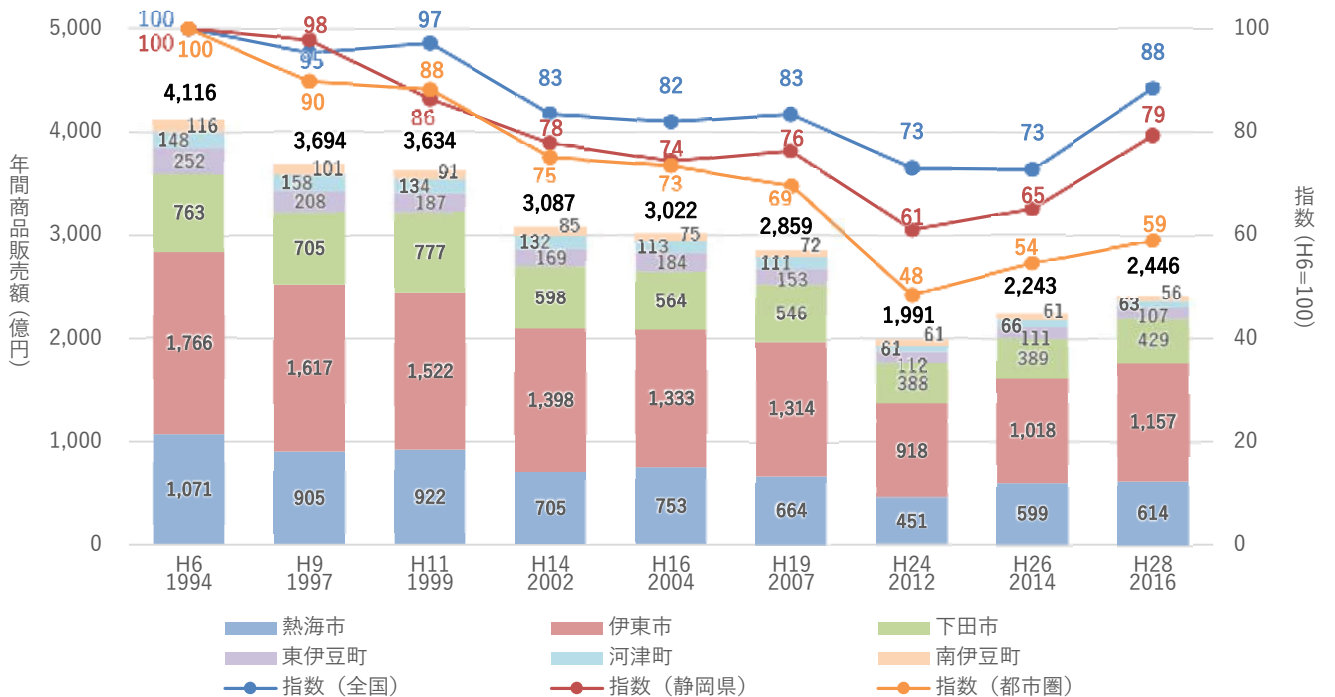
出典) 国勢調査

【製造品出荷額の推移】



出典) 工業統計調査

【年間商品販売額の推移】

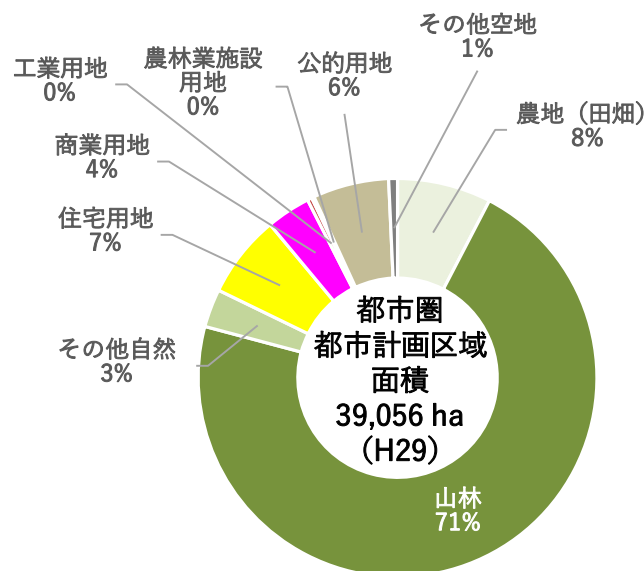


出典) 商業統計、経済センサス

(3) 土地利用

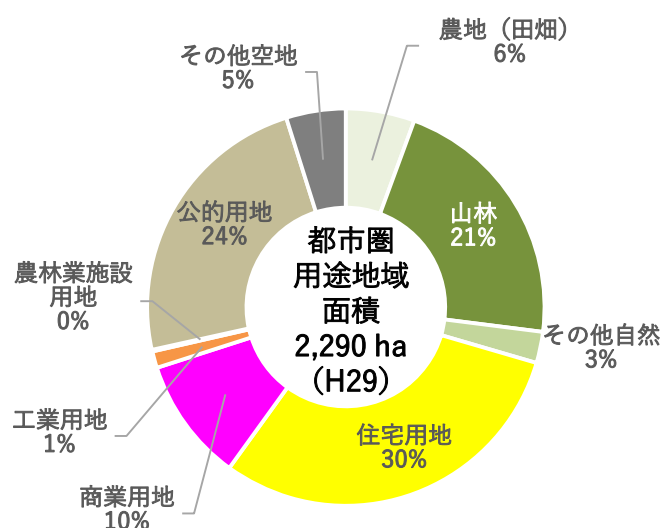
- 伊豆東海岸都市圏の都市計画区域内の土地利用は、山林が最も多くなっています。
- 用途地域内の土地利用は、住宅用地が最も多く、次いで公的用地、山林が多い状況です。

【都市計画区域内の土地利用面積割合（H29）】



出典）平成29年度都市計画基礎調査

【用途地域内の土地利用面積割合（H29）】

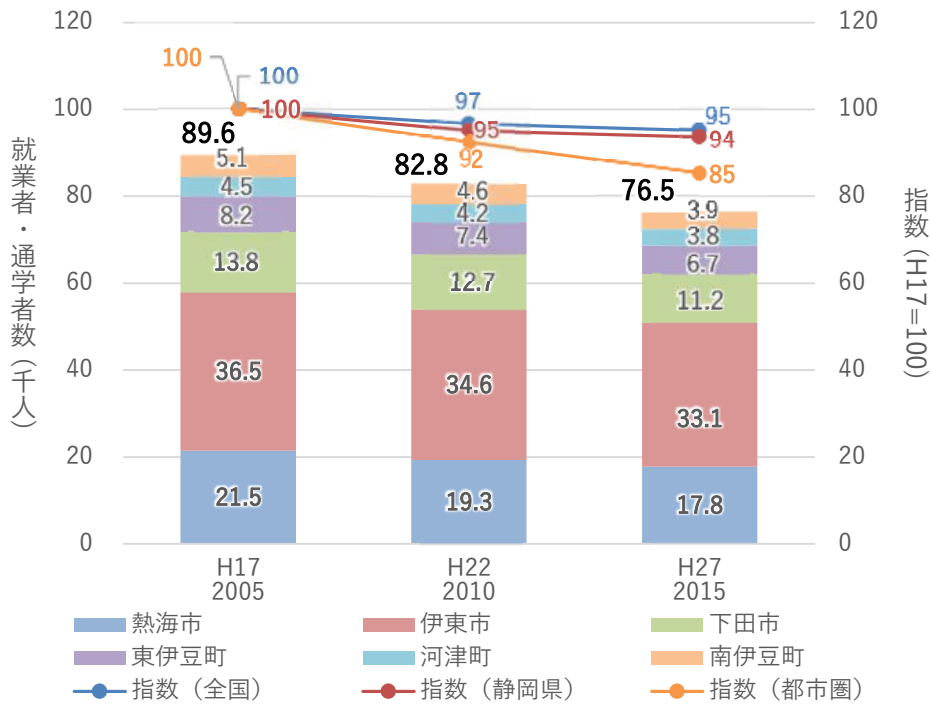


出典）平成29年度都市計画基礎調査

(4) 通勤通学流動

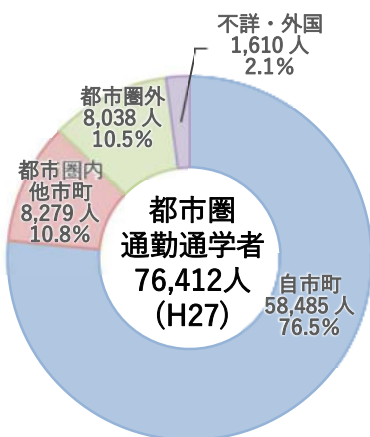
- 伊豆東海岸都市圏に居住する通勤通学者数は減少傾向にあり、その減少率は全国や静岡県と比較して、都市圏の方が約10ポイント大きくなっています。
- また、通勤通学者の内訳は自市町内への通勤通学が75%以上を占めており、都市圏内での通勤通学は85%以上となっています。

【伊豆東海岸都市圏に居住する通勤通学者数の推移(出発ベース)】



出典) 国勢調査

【伊豆東海岸都市圏に居住する通勤通学者数の推移従業地通学地の内訳(出発ベース)(H27)】



		勤務地(到着)										
		伊豆東海岸都市圏						小計	都市圏外	不詳・外国	計	
		熱海市	伊東市	下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町					
居住地(出発)	伊豆東海岸都市圏	熱海市	13,103	552	10	9	4	0	13,678	3,919	157	17,754
	伊東市	1,628	26,413	172	416	46	9	28,684	3,234	1,200	33,118	
	下田市	11	184	9,127	342	387	588	10,639	362	186	11,187	
	東伊豆町	42	861	392	4,822	269	21	6,407	225	24	6,656	
	河津町	8	165	534	463	2,482	41	3,693	136	7	3,836	
	南伊豆町	1	23	989	26	86	2,538	3,663	162	36	3,861	
小計		14,793	28,198	11,224	6,078	3,274	3,197	66,764	8,038	1,610	76,412	

出典) 国勢調査

(参考)伊豆東海岸都市圏外から都市圏内への通勤通学者数

		勤務地(到着)									
		伊豆東海岸都市圏						小計	都市圏外	不詳・外国	計
		熱海市	伊東市	下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町				
居住地(出発)	都市圏外	5,167	1,329	792	101	88	74	7,551			

出典) 国勢調査

□ 伊豆東海岸都市圏内から都市圏外への通勤通学者数は、熱海市や伊東市においては3,000人台と多い状況です。

□ 熱海市では、近隣の湯河原町や小田原市への通勤通学者が多くなっており、伊東市では、東駿河湾都市圏の4市（沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市）への通勤通学者が全体の50%を占めています。

【伊豆東海岸都市圏外への通勤通学者数（上位20市町）】

熱海市(N=3,919)

		居住地(出発)	
		熱海市	割合
勤務地 (到着)	1位	神奈川県 湯河原町	564 14.4%
	2位	静岡県 沼津市	494 12.6%
	3位	神奈川県 小田原市	436 11.1%
	4位	静岡県 三島市	412 10.5%
	5位	静岡県 伊豆の国市	161 4.1%
	6位	静岡県 函南町	157 4.0%
	7位	東京都 港区	116 3.0%
	8位	東京都 千代田区	106 2.7%
	9位	静岡県 清水町	65 1.7%
	10位	神奈川県 平塚市	64 1.6%
		神奈川県 箱根町	64 1.6%
	12位	静岡県 長泉町	59 1.5%
		東京都 中央区	59 1.5%
	14位	神奈川県 藤沢市	51 1.3%
	15位	東京都 品川区	48 1.2%
		東京都 渋谷区	48 1.2%
	17位	東京都 新宿区	39 1.0%
	18位	静岡県 静岡市 葵区	38 1.0%
	19位	東京都 文京区	37 0.9%
	20位	静岡県 伊豆市	35 0.9%

伊東市(N=3,228)

		居住地(出発)	
		伊東市	割合
勤務地 (到着)	1位	静岡県 沼津市	490 15.2%
	2位	静岡県 三島市	419 13.0%
	3位	静岡県 伊豆市	397 12.3%
	4位	静岡県 伊豆の国市	324 10.0%
	5位	神奈川県 小田原市	165 5.1%
	6位	神奈川県 湯河原町	87 2.7%
	7位	静岡県 函南町	73 2.3%
	8位	静岡県 長泉町	70 2.2%
	9位	東京都 港区	62 1.9%
	10位	静岡県 清水町	56 1.7%
	11位	神奈川県 箱根町	50 1.5%
	12位	静岡県 静岡市 葵区	48 1.5%
	13位	神奈川県 平塚市	46 1.4%
	14位	静岡県 富士市	43 1.3%
	15位	東京都 千代田区	41 1.3%
	16位	東京都 渋谷区	34 1.1%
	17位	静岡県 静岡市 駿河区	31 1.0%
		東京都 中央区	31 1.0%
	19位	東京都 品川区	30 0.9%
	20位	東京都 新宿区	28 0.9%

下田市(N=364)

		居住地(出発)	
		下田市	割合
勤務地 (到着)	1位	静岡県 松崎町	121 33.2%
	2位	静岡県 西伊豆町	61 16.8%
	3位	静岡県 沼津市	34 9.3%
	4位	静岡県 三島市	25 6.9%
		静岡県 伊豆市	25 6.9%
	6位	静岡県 伊豆の国市	12 3.3%
	7位	静岡県 静岡市 葵区	6 1.6%
	8位	静岡県 清水町	5 1.4%
		東京都 港区	5 1.4%
	10位	静岡県 焼津市	4 1.1%
	11位	静岡県 静岡市 清水区	3 0.8%
		東京都 江戸川区	3 0.8%
		神奈川県 小田原市	3 0.8%
	14位	静岡県 富士市	2 0.5%
	15位	静岡県 御殿場市	2 0.5%
		静岡県 函南町	2 0.5%
		静岡県 長泉町	2 0.5%
		東京都 世田谷区	2 0.5%
		東京都 三鷹市	2 0.5%
		神奈川県 横浜市 神奈川区	2 0.5%

東伊豆町(N=225)

		居住地(出発)	
		東伊豆町	割合
勤務地 (到着)	1位	静岡県 沼津市	47 20.9%
	2位	静岡県 三島市	26 11.6%
	3位	静岡県 伊豆市	21 9.3%
	4位	静岡県 伊豆の国市	15 6.7%
	5位	東京都 港区	11 4.9%
	6位	静岡県 西伊豆町	10 4.4%
	7位	神奈川県 小田原市	5 2.2%
	8位	静岡県 静岡市 駿河区	4 1.8%
		静岡県 松崎町	4 1.8%
	10位	静岡県 富士市	3 1.3%
		静岡県 長泉町	3 1.3%
		東京都 大田区	3 1.3%
		神奈川県 横浜市 西区	3 1.3%
	14位	静岡県 静岡市 葵区	2 0.9%
		静岡県 浜松市 中区	2 0.9%
		静岡県 焼津市	2 0.9%
		静岡県 函南町	2 0.9%
		東京都 渋谷区	2 0.9%
		東京都 葛飾区	2 0.9%
		東京都 小金井市	2 0.9%

河津町(N=136)

		居住地(出発)	
		河津町	割合
勤務地 (到着)	1位	静岡県 伊豆市	25 18.4%
	2位	静岡県 伊豆の国市	19 14.0%
	3位	静岡県 沼津市	17 12.5%
	4位	静岡県 松崎町	16 11.8%
	5位	静岡県 西伊豆町	11 8.1%
	6位	静岡県 三島市	9 6.6%
	7位	静岡県 富士市	4 2.9%
	8位	神奈川県 川崎市 川崎区	3 2.2%
	9位	静岡県 静岡市 葵区	2 1.5%
		静岡県 御殿場市	2 1.5%
		静岡県 長泉町	2 1.5%
		東京都 中央区	2 1.5%
		東京都 港区	2 1.5%
		東京都 渋谷区	2 1.5%
		東京都 足立区	2 1.5%
	16位	静岡県 浜松市 西区	1 0.7%
		静岡県 磐田市	1 0.7%
		静岡県 裾野市	1 0.7%
		福島県 二本松市	1 0.7%
		茨城県 阿見町	1 0.7%

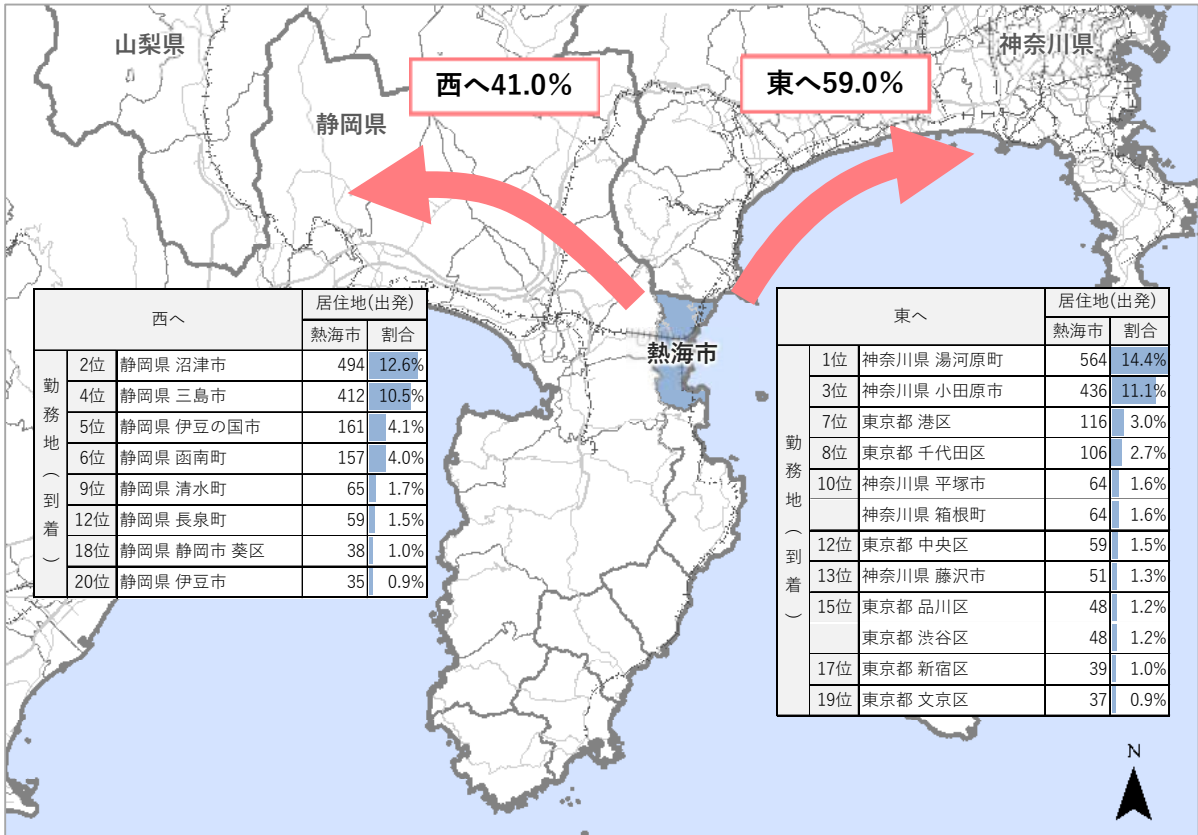
南伊豆町(N=162)

		居住地(出発)	
		南伊豆町	割合
勤務地 (到着)	1位	静岡県 松崎町	74 45.7%
	2位	静岡県 西伊豆町	30 18.5%
	3位	静岡県 三島市	6 3.7%
	4位	静岡県 伊豆の国市	5 3.1%
	5位	静岡県 御殿場市	4 2.5%
		静岡県 伊豆市	4 2.5%
	7位	静岡県 静岡市 葵区	3 1.9%
		静岡県 沼津市	3 1.9%
	9位	静岡県 函南町	2 1.2%
		東京都 調布市	2 1.2%
	11位	静岡県 静岡市 駿河区	1 0.6%
		静岡県 浜松市 中区	1 0.6%
		静岡県 富士市	1 0.6%
		山形県 米沢市	1 0.6%
		埼玉県 さいたま市 大宮区	1 0.6%
		東京都 千代田区	1 0.6%
		東京都 港区	1 0.6%
		東京都 文京区	1 0.6%
		東京都 渋谷区	1 0.6%
		東京都 板橋区	1 0.6%

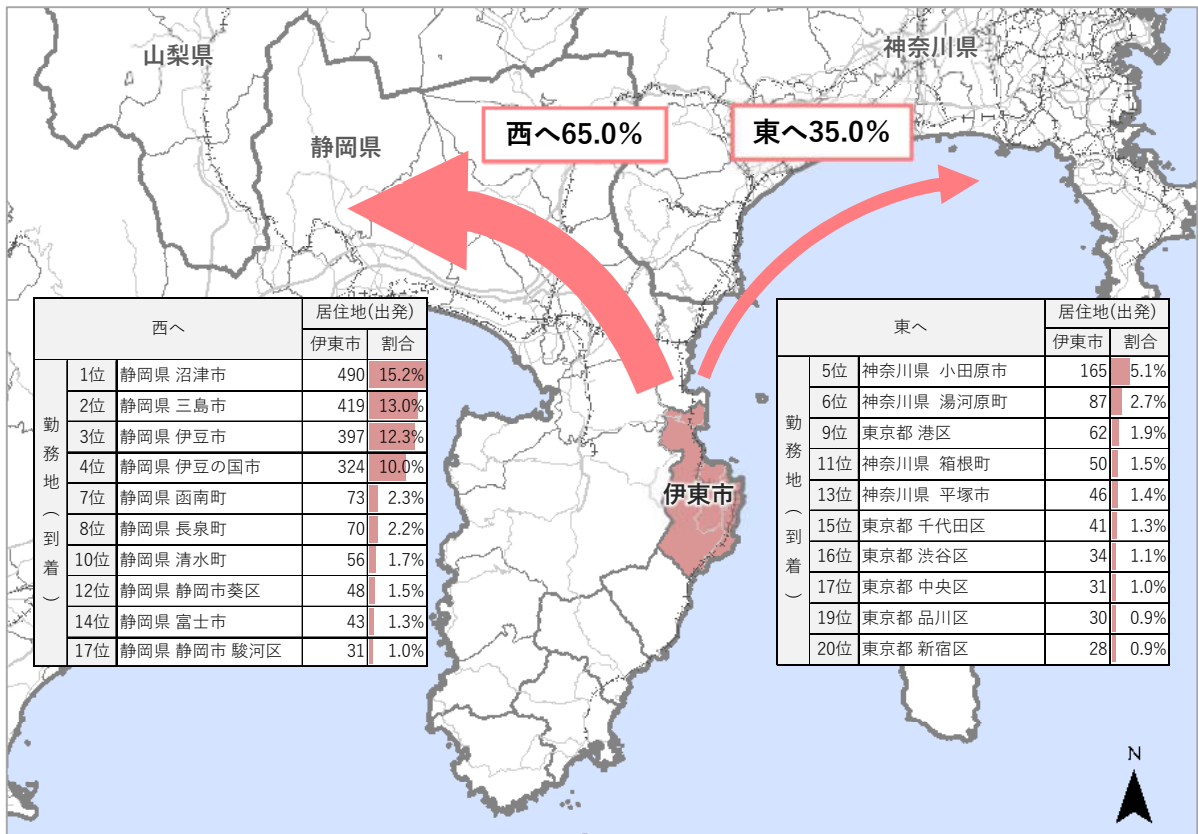
出典) 国勢調査

【伊豆東海岸都市圏外への通勤通学者数】

熱海市

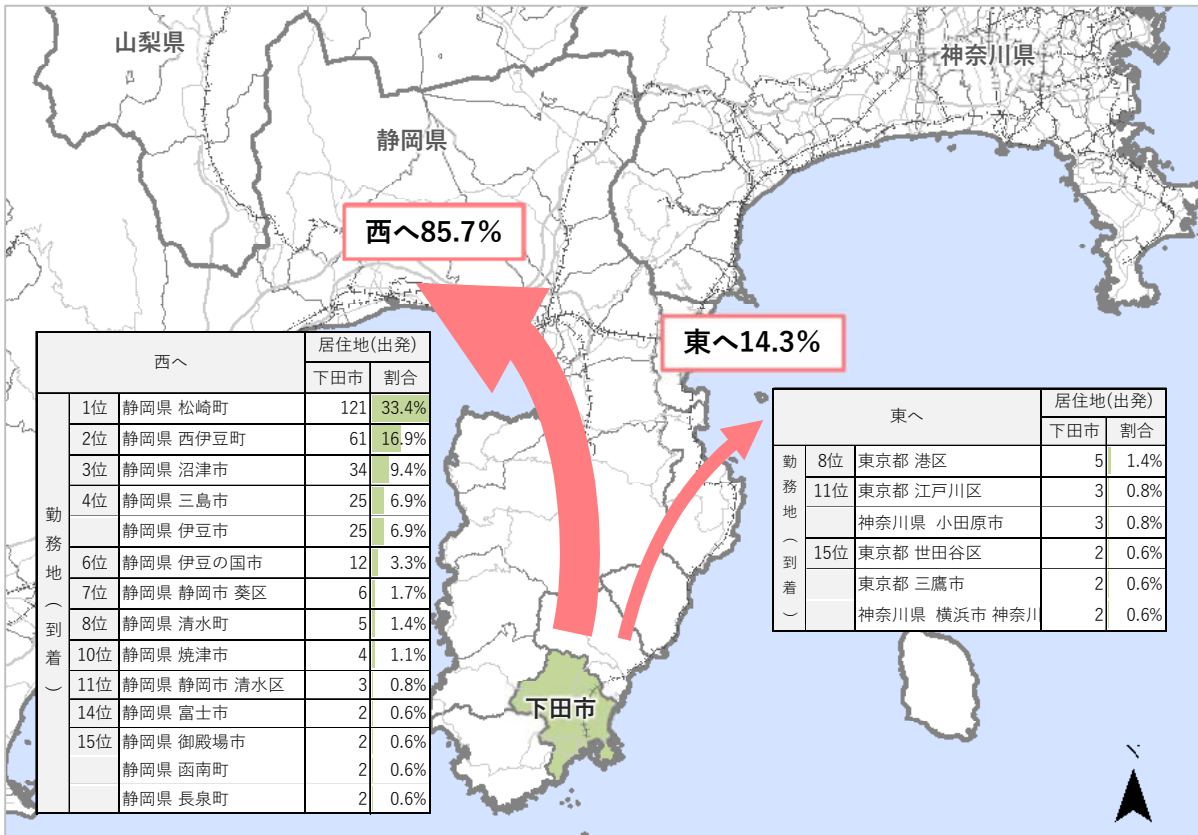


伊東市

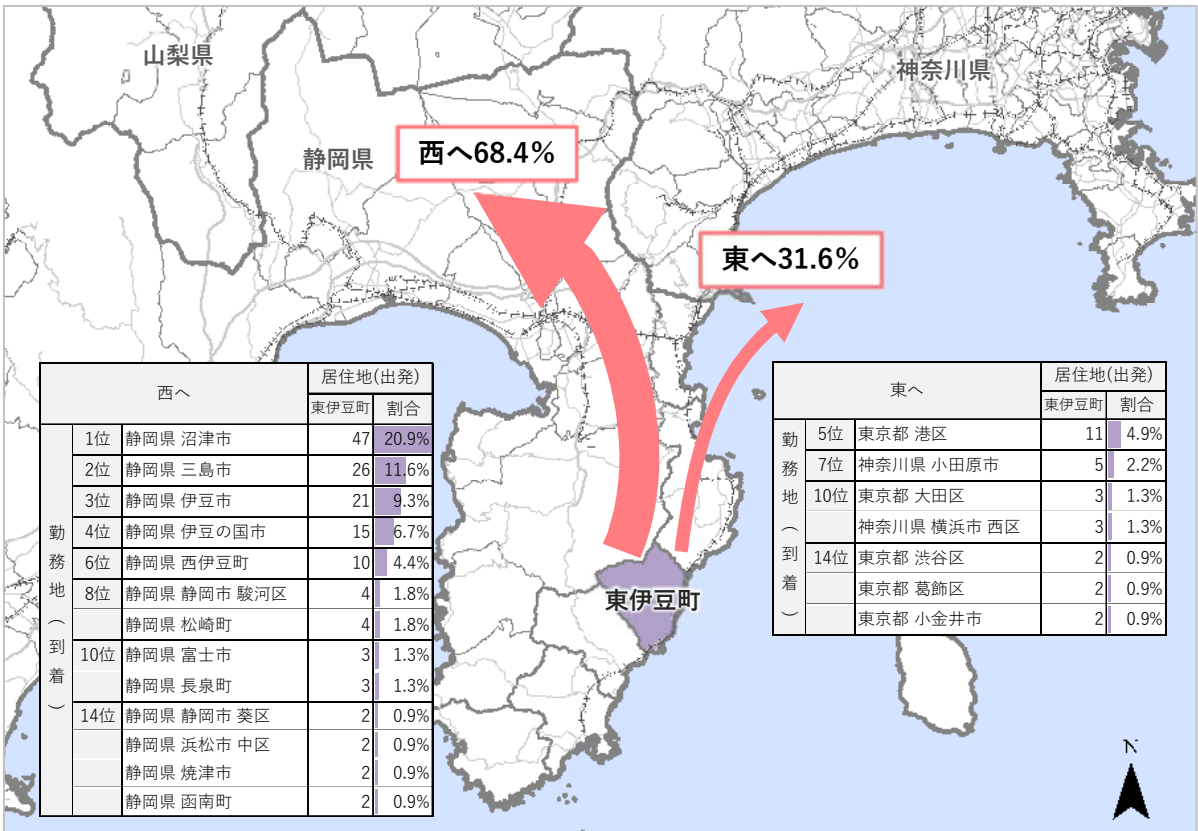


※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

下田市

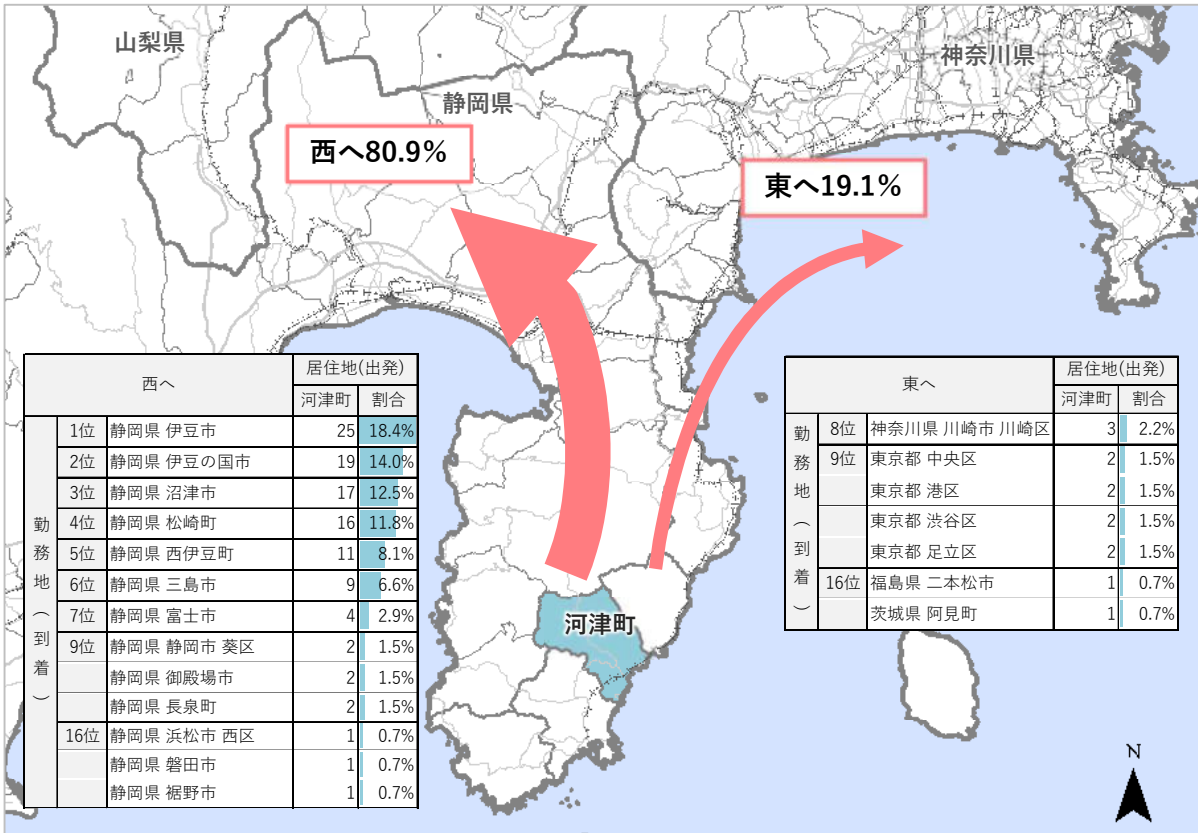


東伊豆町

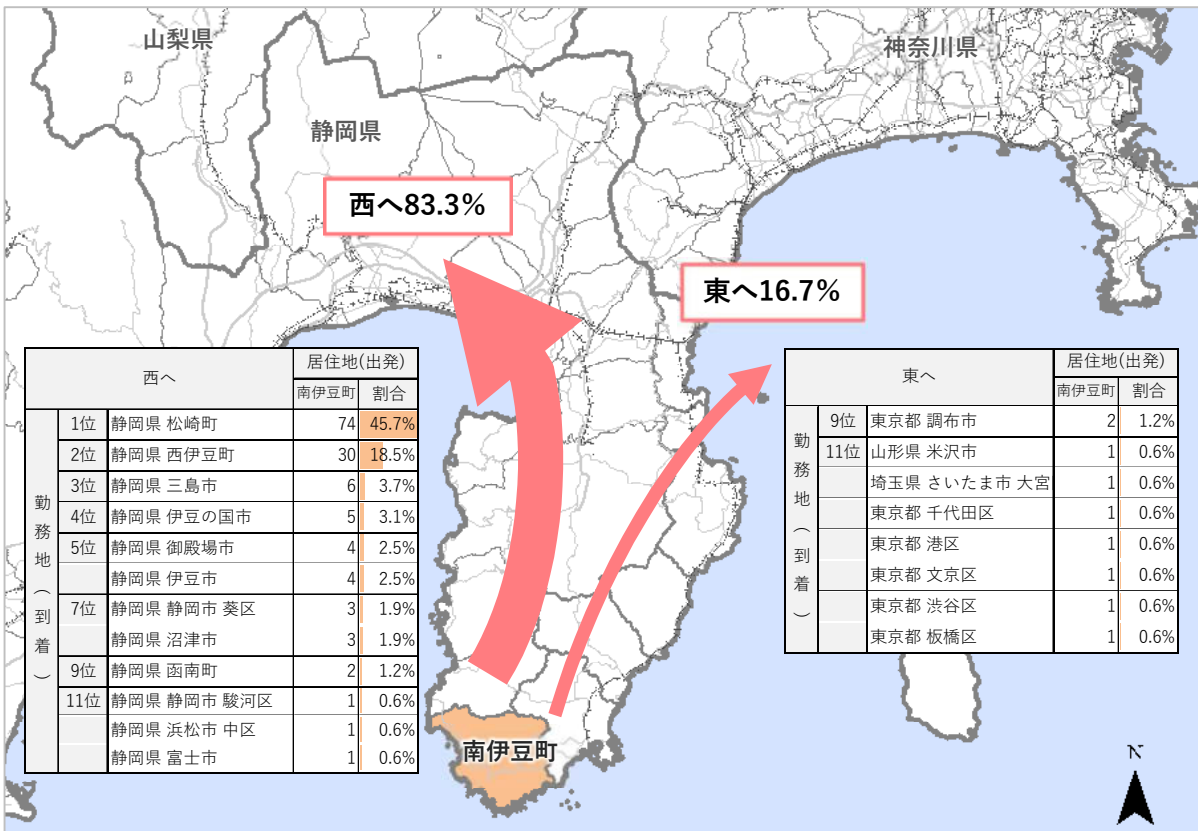


※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

河津町



南伊豆町



※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

□ 伊豆東海岸都市圏外からの通勤通学者数は、都市圏外への通勤通学者数と同様の傾向があり、熱海市において約5,000人と最も多く、次いで伊東市が約1,000人となっています。

□ 熱海市では、近隣の湯河原町や小田原市からの通勤通学者が多く、伊東市では、東駿河湾都市圏の4市（沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市）への通勤通学者が全体の50%以上を占めています。

【伊豆東海岸都市圏外からの通勤通学者数（上位20市町）】

熱海市(N=5,167)

		勤務地(到着)	
		熱海市	割合
居住地 (出発)	1位	神奈川県 湯河原町	1247 24.1%
	2位	静岡県 三島市	640 12.4%
	3位	静岡県 函南町	635 12.3%
	4位	神奈川県 小田原市	501 9.7%
	5位	静岡県 沼津市	358 6.9%
	6位	静岡県 伊豆の国市	249 4.8%
	7位	神奈川県 真鶴町	210 4.1%
	8位	静岡県 長泉町	106 2.1%
	9位	静岡県 富士市	81 1.6%
	10位	静岡県 清水町	76 1.5%
	11位	神奈川県 平塚市	61 1.2%
	12位	静岡県 裾野市	57 1.1%
		静岡県 伊豆市	57 1.1%
	14位	神奈川県 藤沢市	39 0.8%
	15位	神奈川県 茅ヶ崎市	37 0.7%
		神奈川県 南足柄市	37 0.7%
	17位	静岡県 静岡市 駿河区	36 0.7%
		静岡県 御殿場市	36 0.7%
	19位	静岡県 静岡市 清水区	35 0.7%
	20位	神奈川県 秦野市	30 0.6%

伊東市(N=1,329)

		勤務地(到着)	
		伊東市	割合
居住地 (出発)	1位	静岡県 伊豆市	260 19.6%
	2位	静岡県 伊豆の国市	202 15.2%
	3位	静岡県 三島市	132 9.9%
	4位	静岡県 沼津市	114 8.6%
	5位	静岡県 函南町	74 5.6%
	6位	神奈川県 湯河原町	47 3.5%
	7位	静岡県 長泉町	43 3.2%
	8位	神奈川県 小田原市	39 2.9%
	9位	静岡県 清水町	30 2.3%
	10位	静岡県 富士市	19 1.4%
	11位	静岡県 松崎町	13 1.0%
	12位	静岡県 静岡市 葵区	9 0.7%
		静岡県 裾野市	9 0.7%
	14位	神奈川県 秦野市	8 0.6%
		静岡県 静岡市 駿河区	8 0.6%
		静岡県 静岡市 清水区	8 0.6%
	17位	東京都 世田谷区	7 0.5%
		東京都 町田市	7 0.5%
		神奈川県 横浜市 港北区	7 0.5%
		神奈川県 真鶴町	7 0.5%

下田市(N=792)

		勤務地(到着)	
		下田市	割合
居住地 (出発)	1位	静岡県 松崎町	298 37.6%
	2位	静岡県 西伊豆町	205 25.9%
	3位	静岡県 沼津市	24 3.0%
		静岡県 伊豆市	24 3.0%
	5位	静岡県 伊豆の国市	22 2.8%
	6位	静岡県 三島市	20 2.5%
	7位	静岡県 富士市	12 1.5%
	8位	静岡県 函南町	9 1.1%
	9位	静岡県 清水町	7 0.9%
	10位	静岡県 静岡市 葵区	6 0.8%
		静岡県 藤枝市	6 0.8%
	12位	神奈川県 藤沢市 葵区	5 0.6%
		静岡県 島田市	5 0.6%
		静岡県 焼津市	5 0.6%
		静岡県 裾野市	5 0.6%
		静岡県 長泉町	5 0.6%
	17位	東京都 新宿区	4 0.5%
	18位	埼玉県 所沢市	3 0.4%
		神奈川県 横浜市 神奈川区	3 0.4%
		神奈川県 横浜市 港南区	3 0.4%

東伊豆町(N=101)

		勤務地(到着)	
		東伊豆町	割合
居住地 (出発)	1位	静岡県 松崎町	19 18.8%
	2位	静岡県 沼津市	8 7.9%
	3位	静岡県 伊豆の国市	7 6.9%
	4位	静岡県 三島市	4 4.0%
		静岡県 函南町	4 4.0%
	6位	神奈川県 藤沢市	3 3.0%
		静岡県 伊豆市	3 3.0%
		静岡県 西伊豆町	3 3.0%
	9位	茨城県 土浦市	2 2.0%
		東京都 三鷹市	2 2.0%
		神奈川県 横浜市 都筑区	2 2.0%
		神奈川県 鎌倉市	2 2.0%
		神奈川県 大和市	2 2.0%
		静岡県 長泉町	2 2.0%
	15位	福島県 いわき市	1 1.0%
		福島県 須賀川市	1 1.0%
		栃木県 日光市	1 1.0%
		群馬県 伊勢崎市	1 1.0%
		群馬県 草津町	1 1.0%
		埼玉県 さいたま市 北区	1 1.0%

河津町(N=88)

		勤務地(到着)	
		河津町	割合
居住地 (出発)	1位	静岡県 松崎町	23 26.1%
	2位	静岡県 西伊豆町	10 11.4%
	3位	静岡県 沼津市	7 8.0%
		静岡県 伊豆市	7 8.0%
	5位	静岡県 伊豆の国市	6 6.8%
	6位	静岡県 三島市	4 4.5%
	7位	静岡県 清水町	3 3.4%
	8位	千葉県 松戸市	2 2.3%
		静岡県 静岡市 葵区	2 2.3%
	10位	栃木県 矢板市	1 1.1%
		群馬県 前橋市	1 1.1%
		埼玉県 春日部市	1 1.1%
		埼玉県 草加市	1 1.1%
		千葉県 八千代市	1 1.1%
		東京都 新宿区	1 1.1%
		東京都 渋谷区	1 1.1%
		東京都 杉並区	1 1.1%
		東京都 国立市	1 1.1%
		神奈川県 横浜市 中区	1 1.1%
		神奈川県 横浜市 戸塚区	1 1.1%

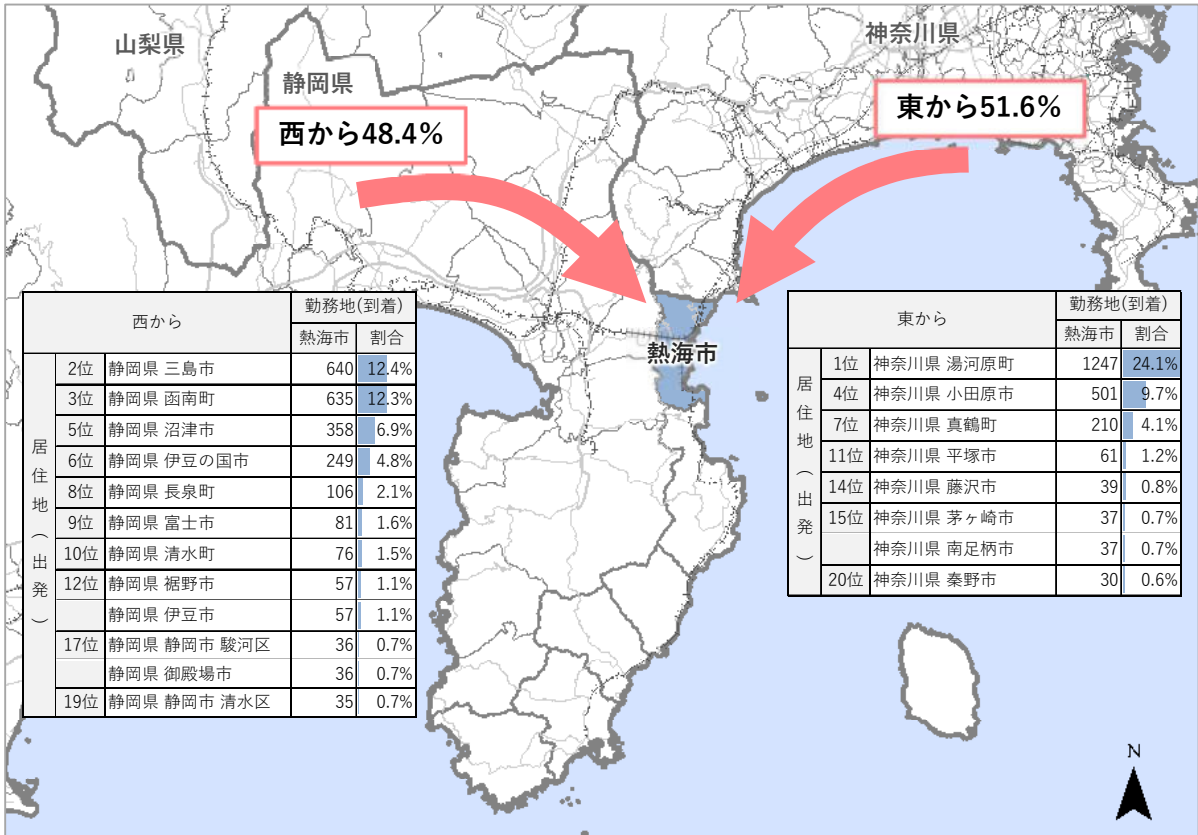
南伊豆町(N=74)

		勤務地(到着)		
		南伊豆町	割合	
居住地 (出発)	1位	静岡県 松崎町	37 50.0%	
	2位	静岡県 西伊豆町	14 18.9%	
	3位	神奈川県 相模原市 中央区	3 4.1%	
		静岡県 沼津市	3 4.1%	
		静岡県 函南町	3 4.1%	
	6位	東京都 中央区	2 2.7%	
		神奈川県 小田原市	2 2.7%	
	8位	埼玉県 幸手市	1 1.4%	
		東京都 中野区	1 1.4%	
		神奈川県 横浜市 南区	1 1.4%	
		神奈川県 横浜市 戸塚区	1 1.4%	
		神奈川県 横浜市 港南区	1 1.4%	
		神奈川県 厚木市	1 1.4%	
		静岡県 焼津市	1 1.4%	
		静岡県 裾野市	1 1.4%	
		静岡県 伊豆市	1 1.4%	
		静岡県 伊豆の国市	1 1.4%	
		—	—	—
		—	—	—
		—	—	—

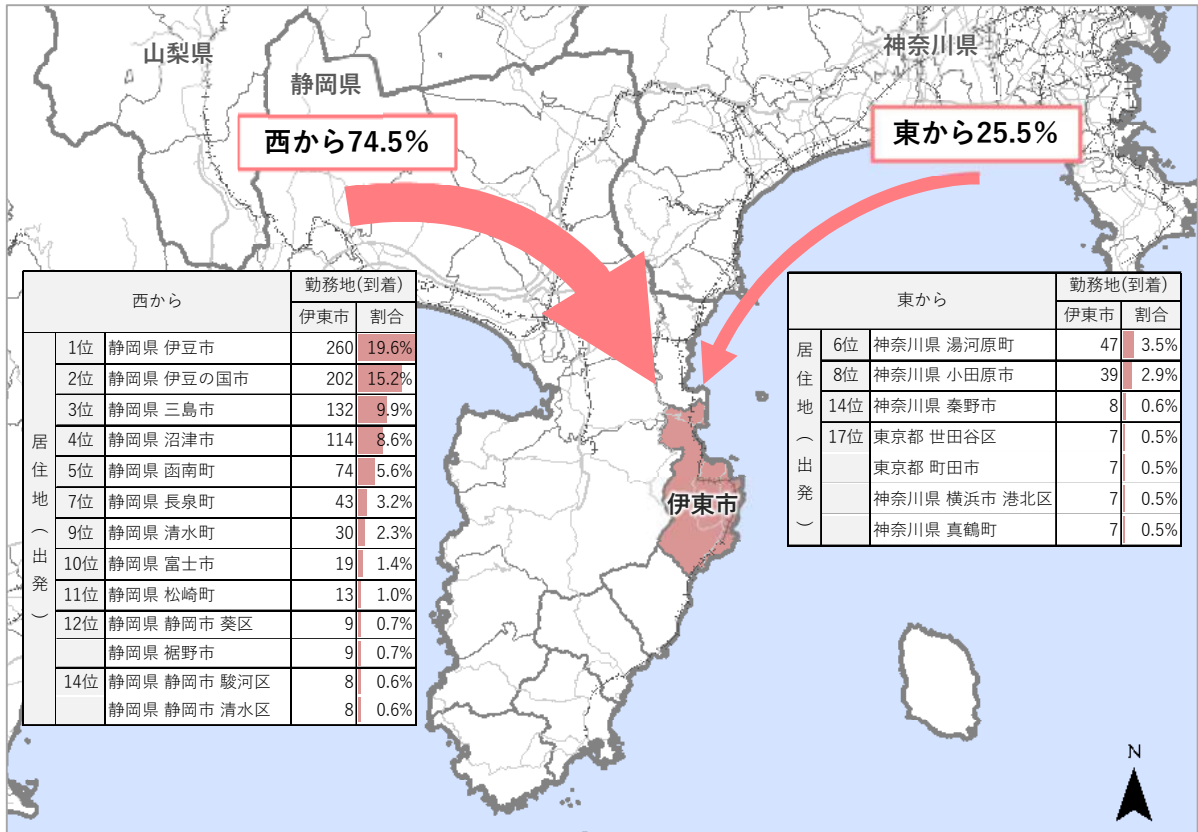
出典) 国勢調査

【伊豆東海岸都市圏外からの通勤通学者数】

熱海市

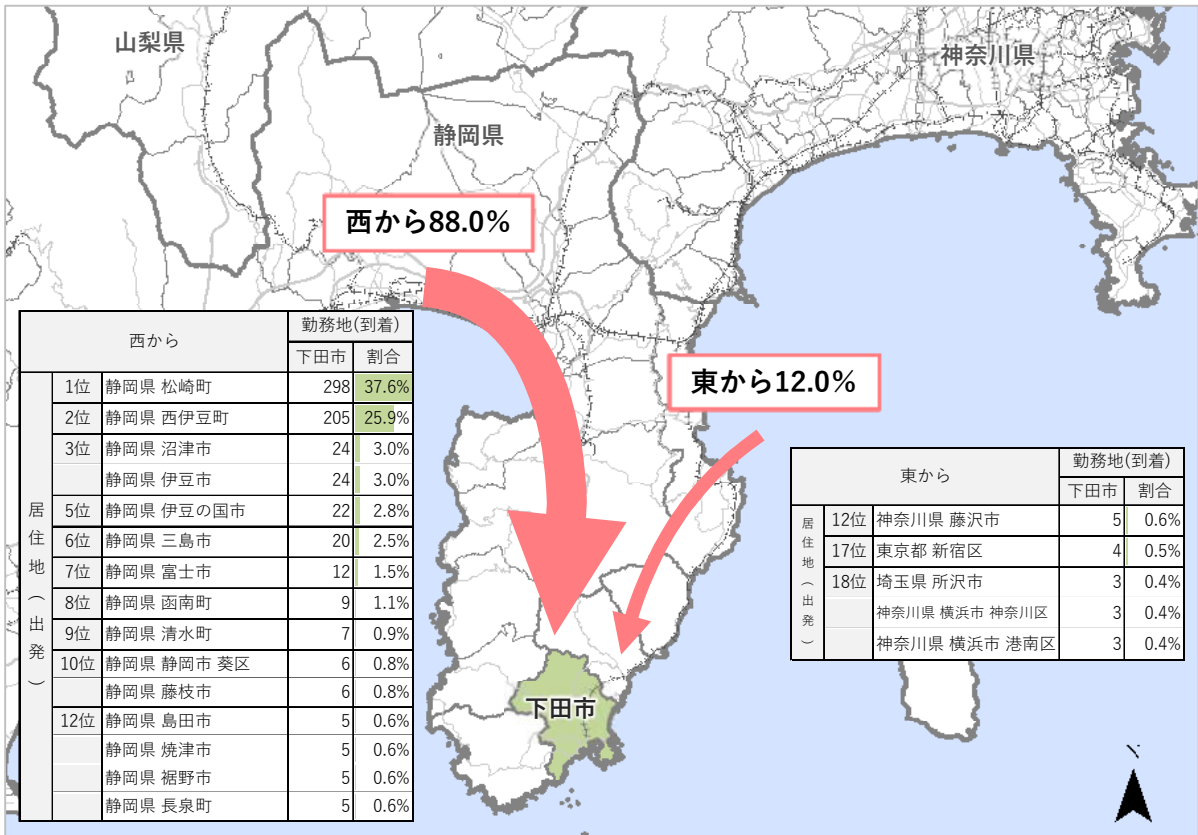


伊東市

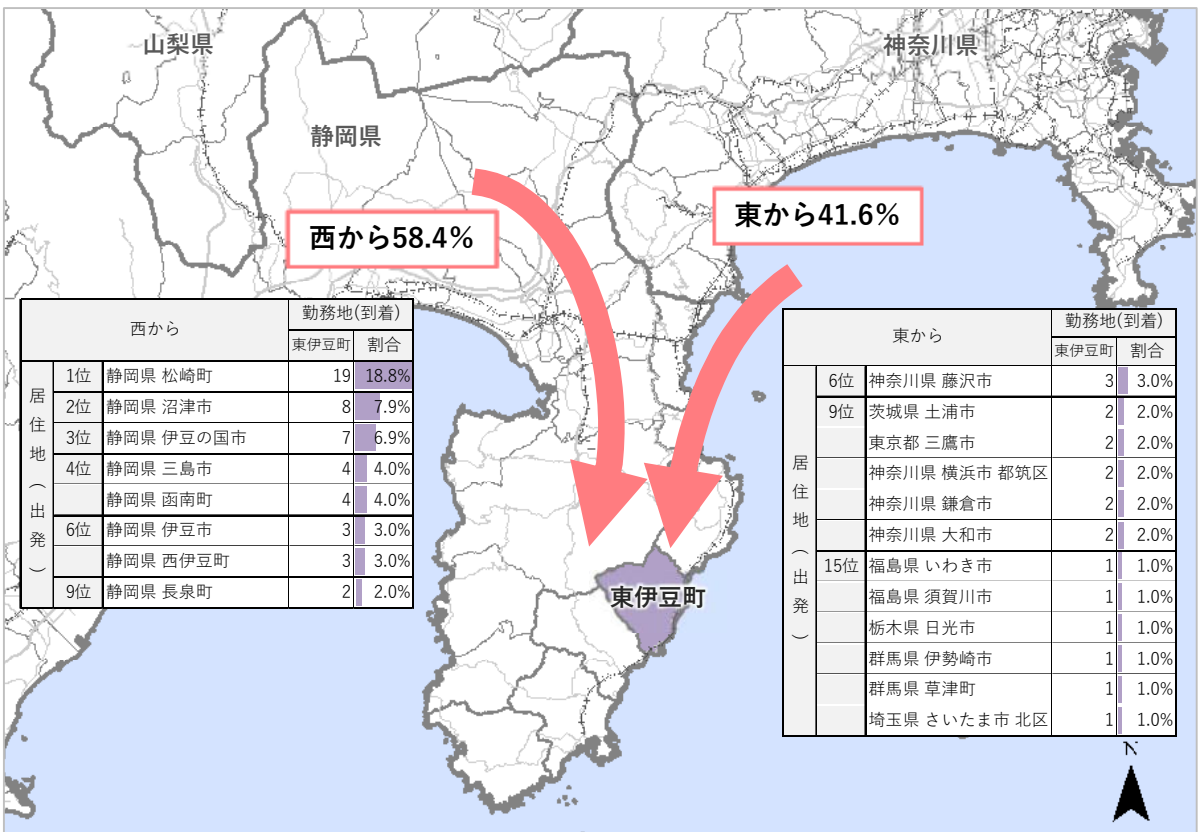


※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

下田市

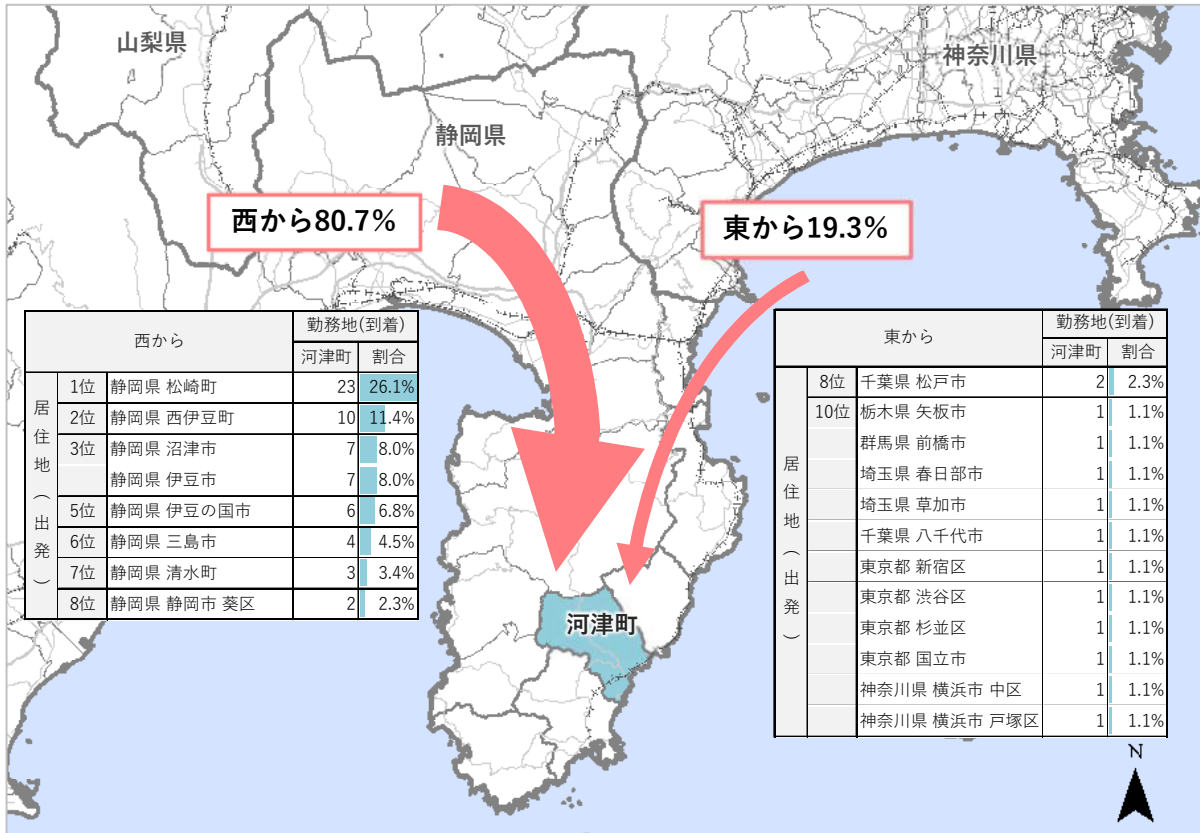


東伊豆町

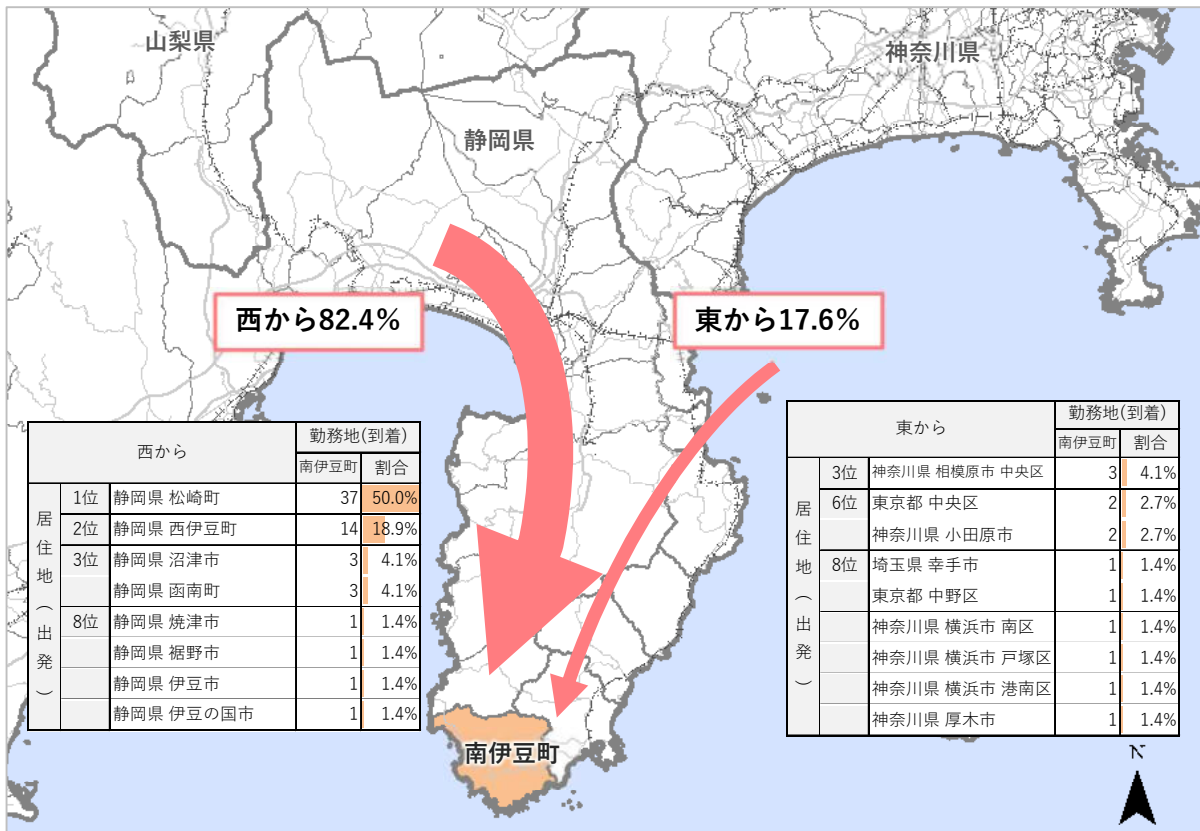


※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

河津町



南伊豆町



※リストは、上位20の市町のみ表示
出典) 国勢調査

(5) 防災

- 南海トラフ巨大地震等の発生が切迫化するとともに、市街地における液状化やがけ崩れ等の発生、沿岸部における津波による被害が懸念されています。
- 特に津波被害について、津波高の高い地域では17mに達し、到達時間も3分と非常に短時間になることが予測されており、甚大な被害の発生が懸念されています。
- 伊豆東海岸都市圏は山地が多く大雨等による土砂災害の危険性が高い都市圏となっており、特に都市圏南部の下田市と南伊豆町で、面積当たりの土砂災害警戒区域数が多い状況となっています。

【想定地震の震度・津波到達時間・津波高】

想定地震	南海トラフ巨大地震 東側ケース（レベル2）	元禄型関東地震 （レベル2）	相模トラフ沿いの 最大クラスの地震（ケース1）
報告資料	第一次報告（H25.6）	第一次報告（H25.6）	相模トラフ沿いで発生する地震の 地震動、津波浸水想定（H27.1）
熱海市	・震度：6弱	・震度：6強 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：6～9m	・震度：6弱 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：10～14m ・津波高（初島）：11～18m
伊東市	・震度：6弱	・震度：6強 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：5～8m	・震度：6弱 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：11～17m
東伊豆町	・震度：6弱 ・最短津波到達時間：11分 ・最大浸水深：14m	・震度：5強 ・最短津波到達時間：6分 ・津波高：4～6m	・震度：5強 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：8～11m
河津町	・震度：5強 ・最短津波到達時間：17分 ・最大浸水深：13m	・震度：5強 ・最短津波到達時間：9分 ・津波高：5～6m	・震度：5弱 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：8～10m
下田市	・震度：5強 ・最短津波到達時間：12分 ・最大浸水深：33m	・震度：5弱 ・最短津波到達時間：10分 ・津波高：5～10m	・震度：5弱 ・最短津波到達時間：3分 ・津波高：7～10m
南伊豆町	・震度：5強 ・最短津波到達時間：4分 ・最大浸水深：26m	・震度：5弱 ・最短津波到達時間：18分 ・津波高：4～9m	・震度：4 ・最短津波到達時間：19分 ・津波高：4～10m

出典）第4次地震被害想定資料（静岡県）

【都市圏別土砂災害警戒区域の指定状況（R2.3.31現在）】

都市圏名	土砂災害警戒区域				面積 (km ²)	1km ² 当たりの 土砂災害警戒区域 (箇所)
	土石流 (箇所)	地滑り (箇所)	急傾斜地 (箇所)	計 (箇所)		
伊豆東海岸都市圏	908	16	1,282	2,206	578.70	3.8
東駿河湾都市圏	1,035	14	1,569	2,618	1,276.93	2.1
岳南都市圏	162	4	470	636	634.03	1.0
静岡中部都市圏	1,508	112	3,067	4,717	1,991.90	2.4
棒南・南遠都市圏	57	6	783	846	197.98	4.3
西遠都市圏	797	156	3,457	4,448	2,050.31	2.2
東遠都市圏	299	25	1,710	2,034	359.88	5.7
松崎町	104	1	144	249	85.19	2.9
西伊豆町	92	1	138	231	105.54	2.2
川根本町	55	10	195	260	496.88	0.5

出典）静岡県HP 土砂災害（特別）警戒区域の指定状況、
国土地理院 全国都道府県市区町村別面積

【市町別土砂災害警戒区域の指定状況（R2.3.31現在）】

	市町名	土砂災害警戒区域				面積 (km ²)	1km ² 当たりの 土砂災害警戒区域 (箇所)
		土石流 (箇所)	地滑り (箇所)	急傾斜地 (箇所)	計 (箇所)		
1位	菊川市	83	4	611	698	94.19	7.4
2位	下田市	256	0	346	602	104.38	5.8
3位	御前崎市	16	1	351	368	65.56	5.6
4位	南伊豆町	304	1	285	590	109.94	5.4
5位	掛川市	216	21	1099	1336	265.69	5.0
6位	熱海市	105	1	195	301	61.78	4.9
7位	伊豆の国市	140	2	312	454	94.62	4.8
8位	牧之原市	41	5	420	466	111.69	4.2
9位	藤枝市	235	37	500	772	194.06	4.0
10位	森町	79	18	393	528	133.91	3.9
11位	伊豆市	579	11	589	1179	363.97	3.2
12位	袋井市	49	0	274	323	108.33	3.0
13位	伊東市	107	2	259	368	124.10	3.0
14位	松崎町	104	1	144	249	85.19	2.9
15位	島田市	234	42	540	846	315.70	2.7
16位	湖西市	5	0	226	231	86.56	2.7
17位	河津町	105	6	130	241	100.69	2.4
18位	函南町	37	1	105	143	65.16	2.2
19位	西伊豆町	92	1	138	231	105.54	2.2
20位	清水町	2	0	17	19	8.81	2.2
21位	静岡市	1010	32	1967	3009	1411.83	2.1
22位	磐田市	93	0	255	348	163.45	2.1
23位	沼津市	124	0	256	380	186.96	2.0
24位	浜松市	571	138	2309	3018	1558.06	1.9
25位	三島市	22	0	95	117	62.02	1.9
26位	長泉町	2	0	36	38	26.63	1.4
27位	東伊豆町	31	6	67	104	77.81	1.3
28位	焼津市	29	1	60	90	70.31	1.3
29位	富士宮市	109	2	296	407	389.08	1.0
30位	富士市	53	2	174	229	244.95	0.9
31位	小山町	47	0	78	125	135.74	0.9
32位	裾野市	52	0	60	112	138.12	0.8
33位	吉田町	0	0	12	12	20.73	0.6
34位	川根本町	55	10	195	260	496.88	0.5
35位	御殿場市	30	0	21	51	194.90	0.3
静岡県(35市町)		5,017	345	12,853	18,215	777.35	2.3

県平均以上



※塗りつぶしは、伊豆東海岸都市圏
出典) 静岡県HP 土砂災害(特別)警戒区域の指定状況、
国土地理院 全国都道府県市区町村別面積

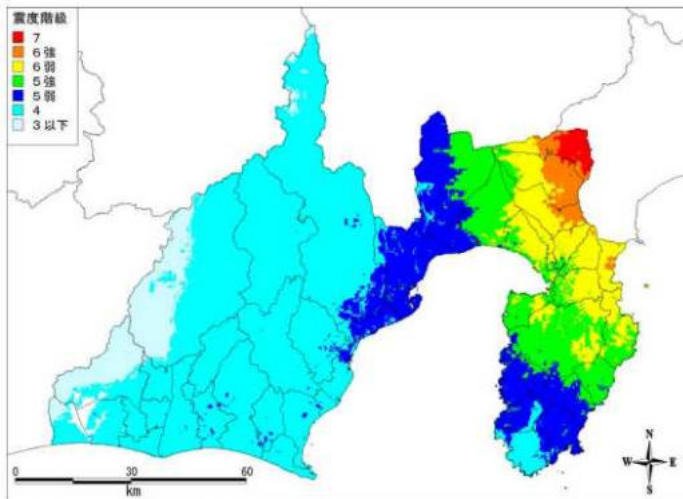
(6) 激甚化する自然災害

- 南海トラフ、相模トラフ巨大地震など、大規模地震の切迫性が一段と増しており、都市圏内外の連携強化や緊急輸送路の強化、冗長性の確保など、地震災害に備えた基盤整備が必要です。
- また、頻発化・激甚化する局地的豪雨に対し、土砂崩れ等の発生による地域の孤立化を防ぐための対策が求められます。

【南海トラフ巨大地震の予測等】

<相模トラフ沿いの最大クラスの地震の予測震度分布>

<土砂崩れの様子>

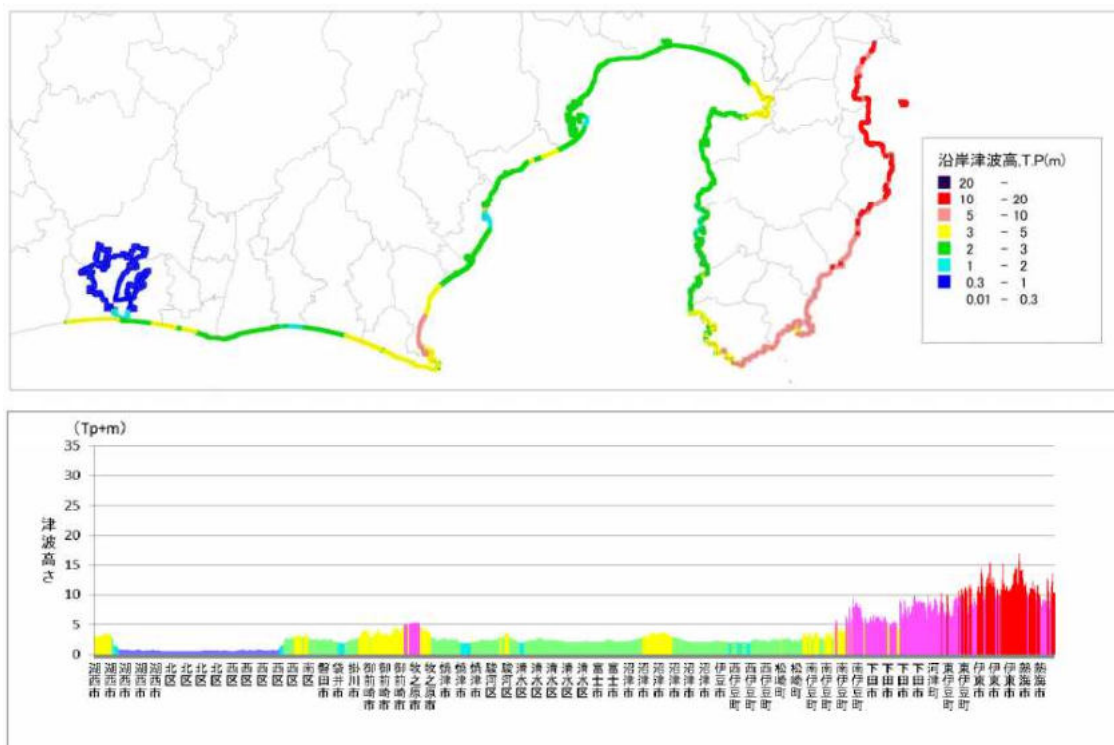


出典) 静岡県第4次地震被害想定



※国道135号、静岡県伊東市赤沢
2020年7月4日午前5時

<相模トラフ沿いの最大クラスの地震の予測津波高>

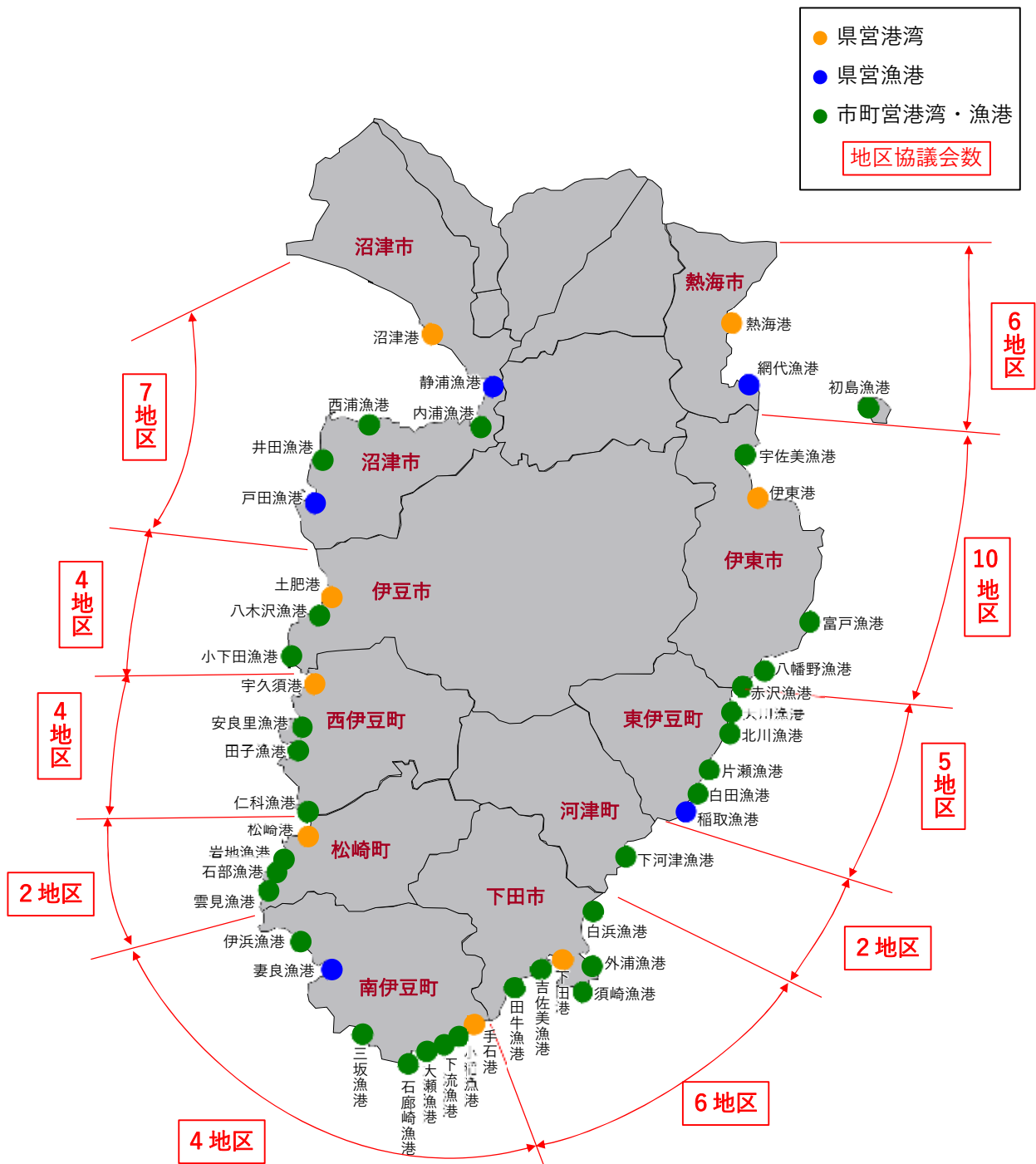


出典) 静岡県第4次地震被害想定

(7) 津波対策

- 静岡県では、県内各地域で津波対策の検討組織を設立し、検討を実施しています。
- 伊豆東海岸都市圏では、沿岸の33地区において、地区協議会を設置しています。
- 各地区協議会にて、住民や観光客の迅速かつ主体的な避難を最重要の対策とし、避難を後押しするソフト対策を推進しています。
- 観光を中心とする産業や海岸線の景観や利用に配慮して、新たな施設整備や既存施設のかさ上げは当面の間、行わないものとしています。

【津波対策の地区協議会設置状況】

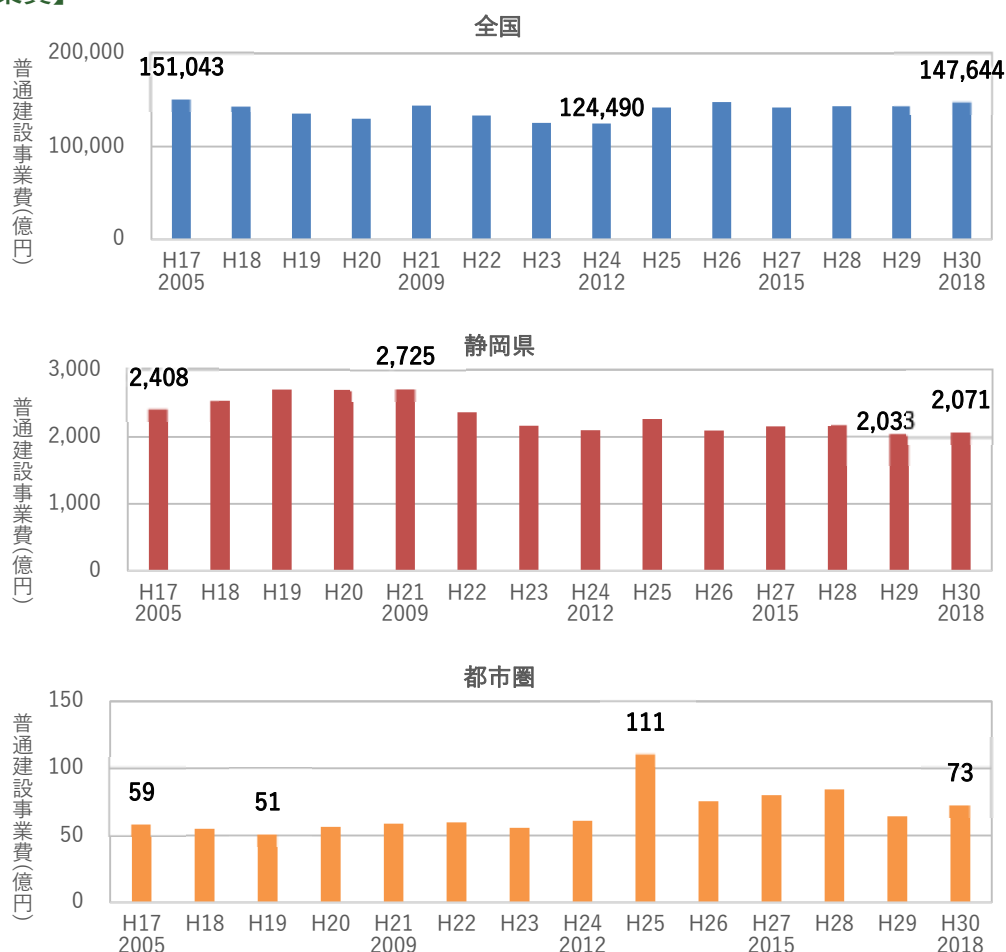


出典) 「静岡モデル推進検討会」資料

(8) 維持管理費の増大と新規投資費の抑制

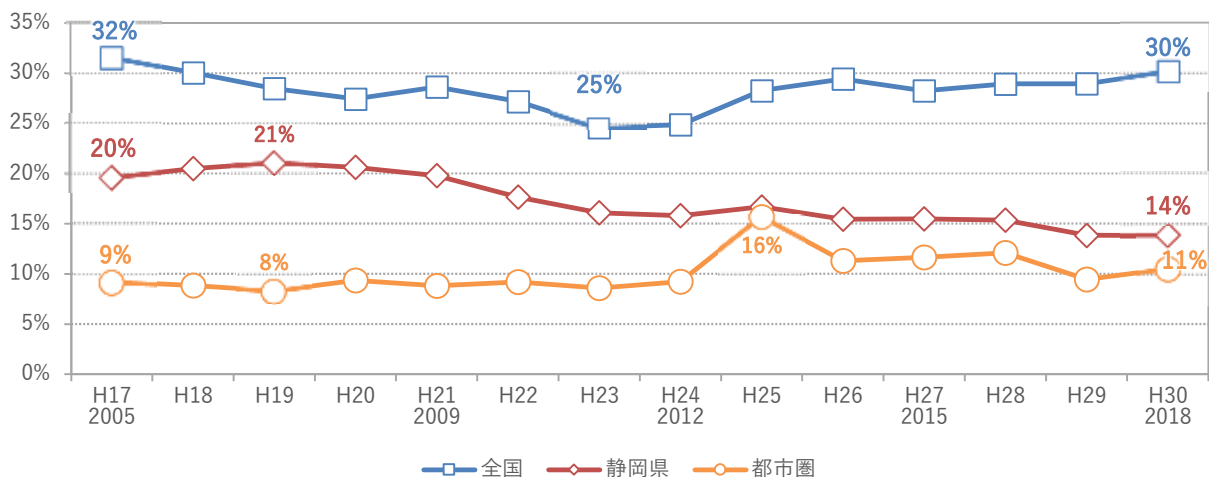
- 人口減少、超高齢社会による財政制約が高まっており、高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋りょう、上下水道管等社会資本の維持管理費が増大し、市民一人当たりが負担するコストの増加が予想されます。
- 都市圏全体では、普通建設事業費のうち維持管理費（更新整備費）の占める割合は8割を超えており、今後も更に新規整備費は抑制されると想定されます。

【普通建設事業費】



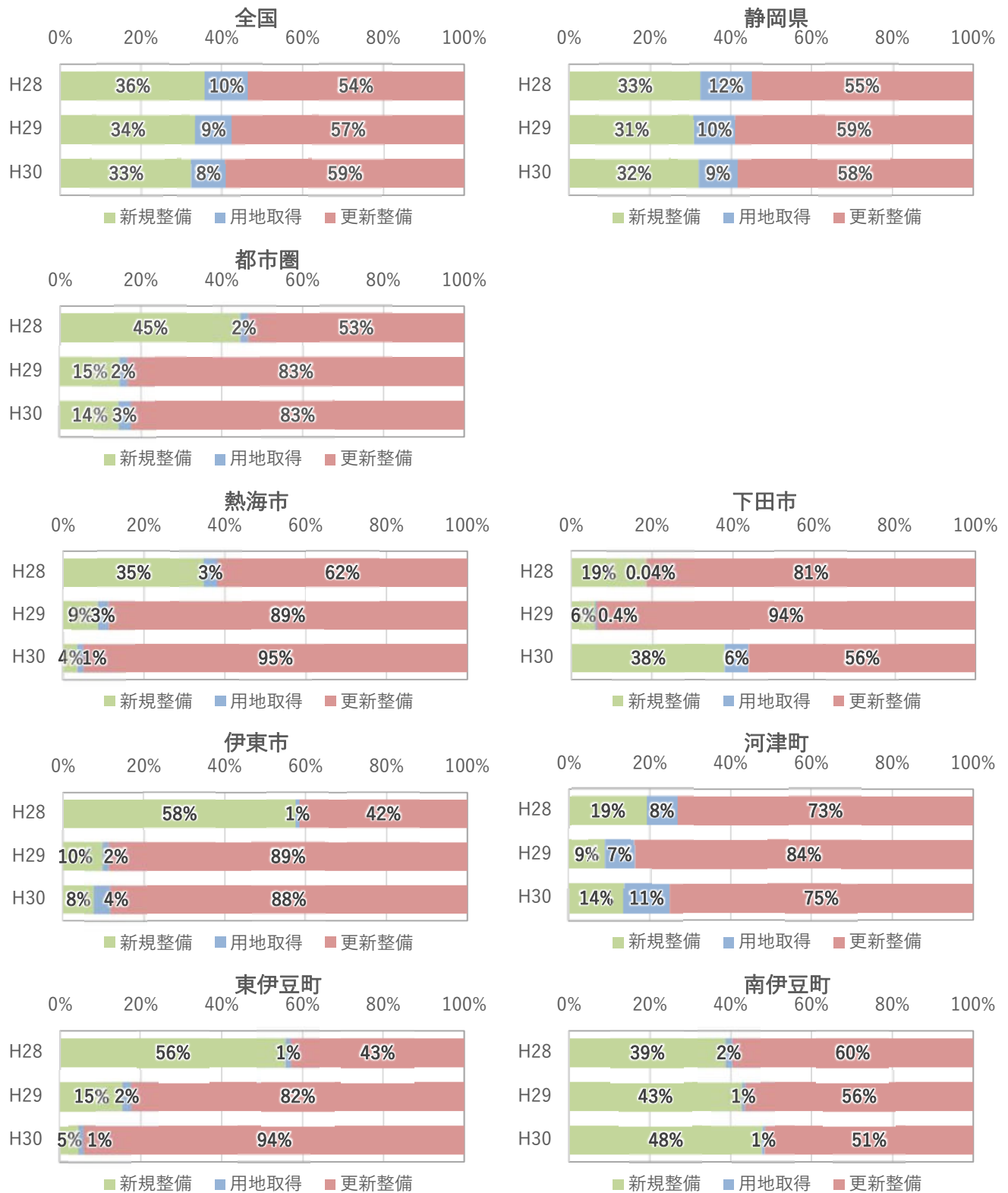
【歳出額に占める普通建設事業費の推移】

普通建設事業費/歳出額



出典) 市町村別決算状況調査 (総務省)

【普通建設事業費の内訳の推移】



用語) 新規整備：新たに公共施設等を整備したものに、既存の道路、橋りょう等の拡幅及び歩道、車線の増設並びに既存の公共施設等への機能強化など
更新整備：施設の耐震化工事、老朽化による改築や建て替え、建て替えに係る解体及び設備の更新など

出典) 市町村別決算状況調査 (総務省)

(9) 医療施設

- 伊豆東海岸都市圏には、第2次救急医療機関が7箇所設置されていますが、第3次救急医療機関はありません。（南伊豆町には、第2次救急医療機関もありません。）
- 最寄りの第3次救急医療機関である順天堂大学附属静岡病院（伊豆の国市）への所要時間は、最大で1時間27分程度を要する状況です。（令和元年度現在）

【医療施設の立地と想定搬送ルート】

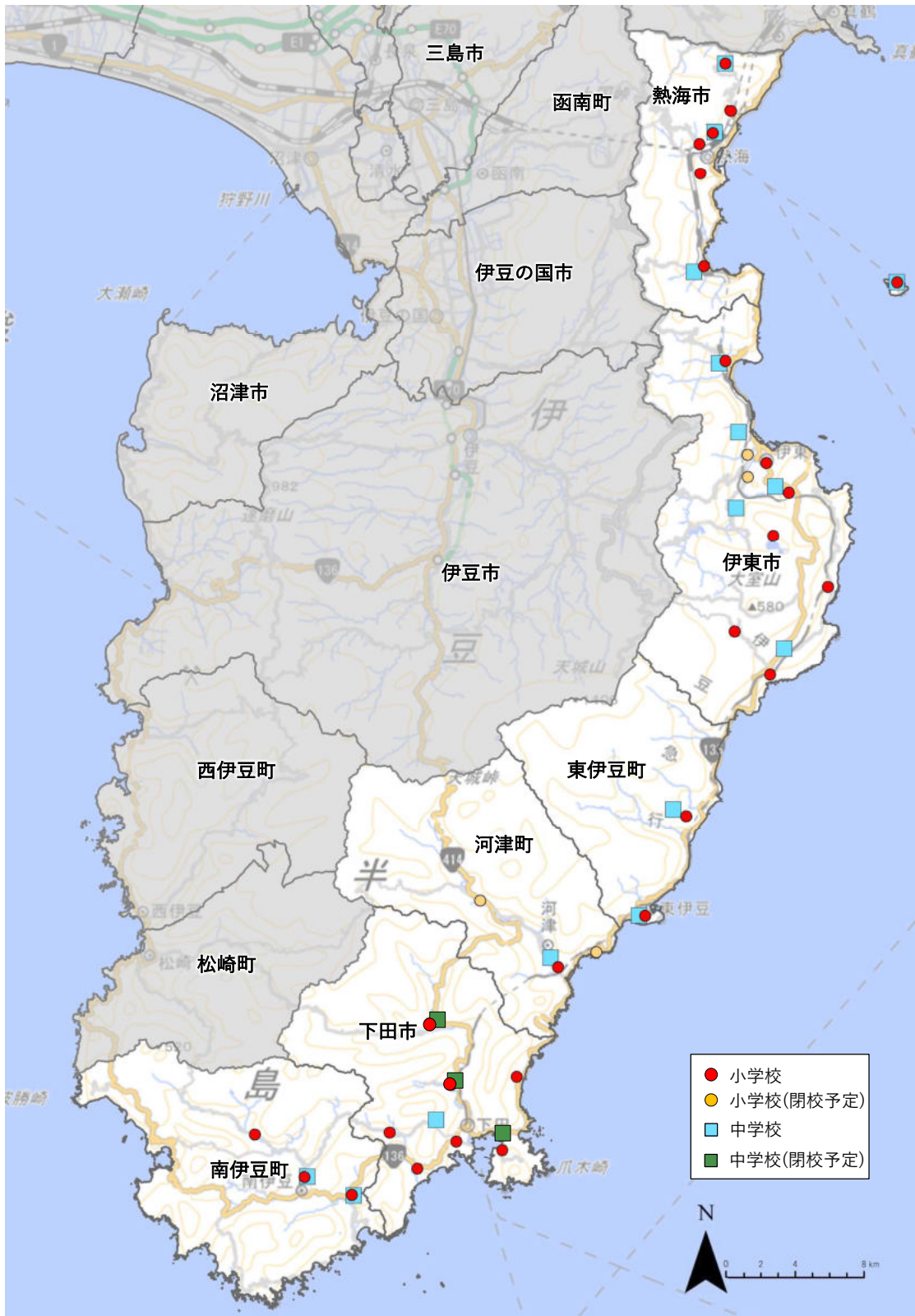


※所要時間は平成27年度全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度を用いて算出。出発地は南伊豆町役場とする。
 天城北道路開通による時間短縮効果は国土交通省沼津河川国道事務所R1.9.13記者発表資料より18分とした。
 出典）国土数値情報ダウンロード、第8次静岡県保健医療計画

(10) 小学校・中学校

□ 伊豆東海岸都市圏では、沿岸部を中心に小学校（31校）・中学校（18校）が立地しています。
（令和3年度現在）

【小学校・中学校の立地状況】



※南伊豆町の2つの中学校は、今後統廃合の予定あり
 ※下田市の4つの中学校は、令和4年4月に統合予定

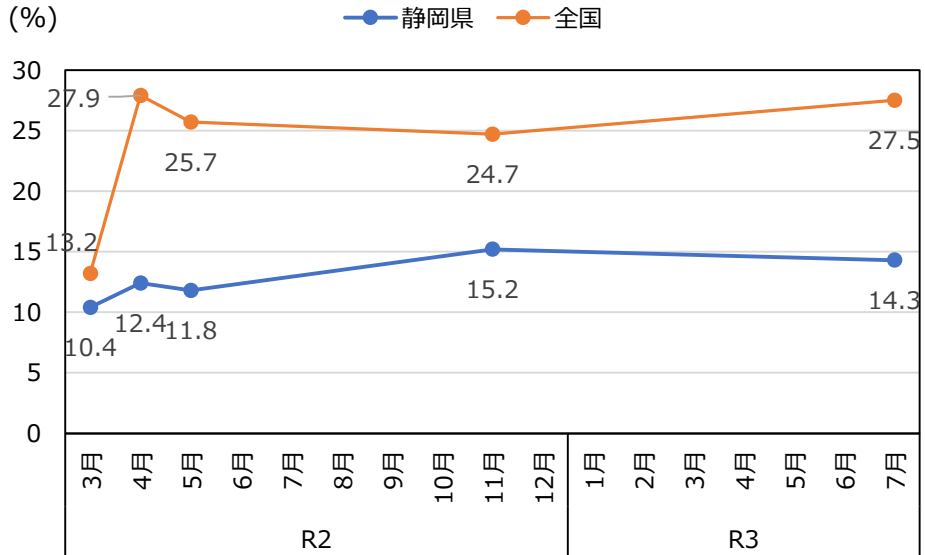
出典) 国土数値情報ダウンロード

(11) コロナ禍における社会経済状況の変化

①テレワークの実施状況

□ テレワーク率は、10～15%となっており、全国平均と比べると低い状況となっています。

■静岡県のテレワーク率



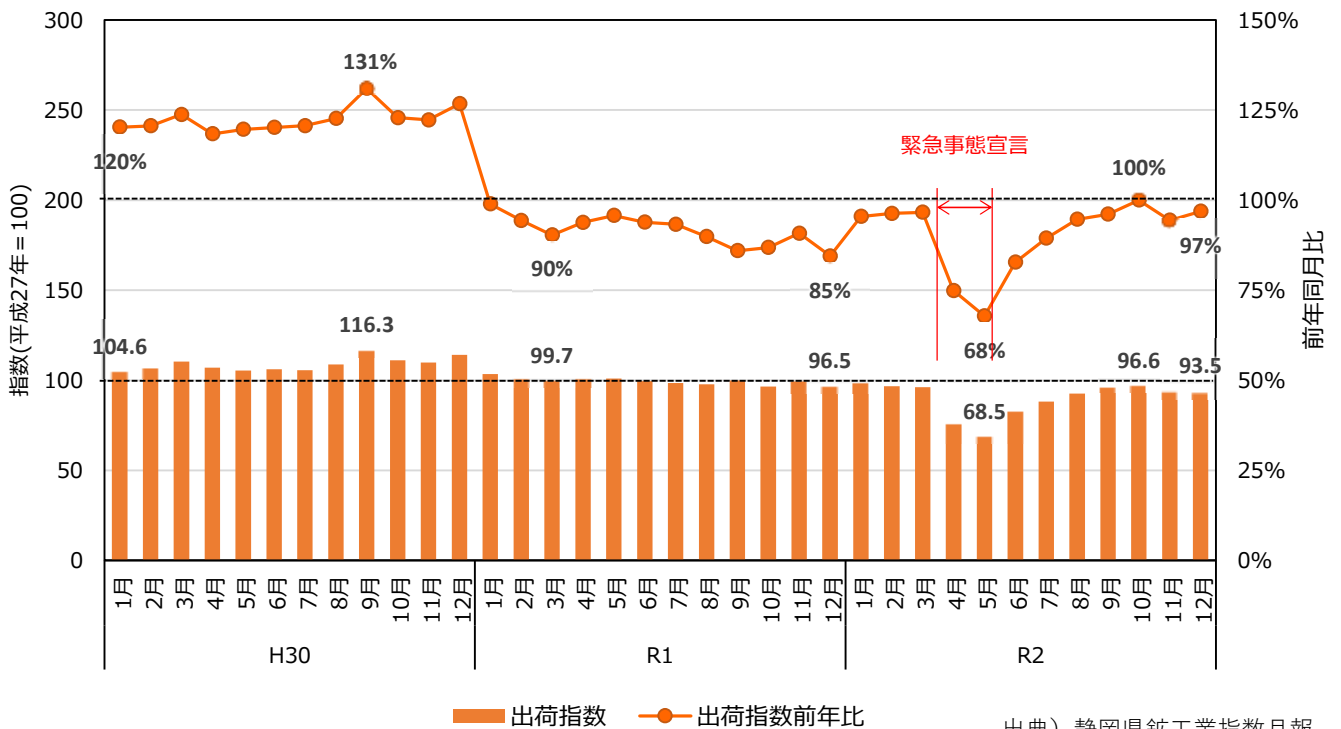
n = R2.3月：21,448、4月：25,769、5月：21,000、11月：15,603、R3.7月：25,809

出典) 新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査 第1～5回(パーソル総合研究所)

②工業への影響

□ 生産指数と出荷指数は、令和元年は概ね100程度で推移していましたが、令和2年4～5月の緊急事態宣言中には70程度まで減少しました。その後は順調に回復し90以上で推移しています。

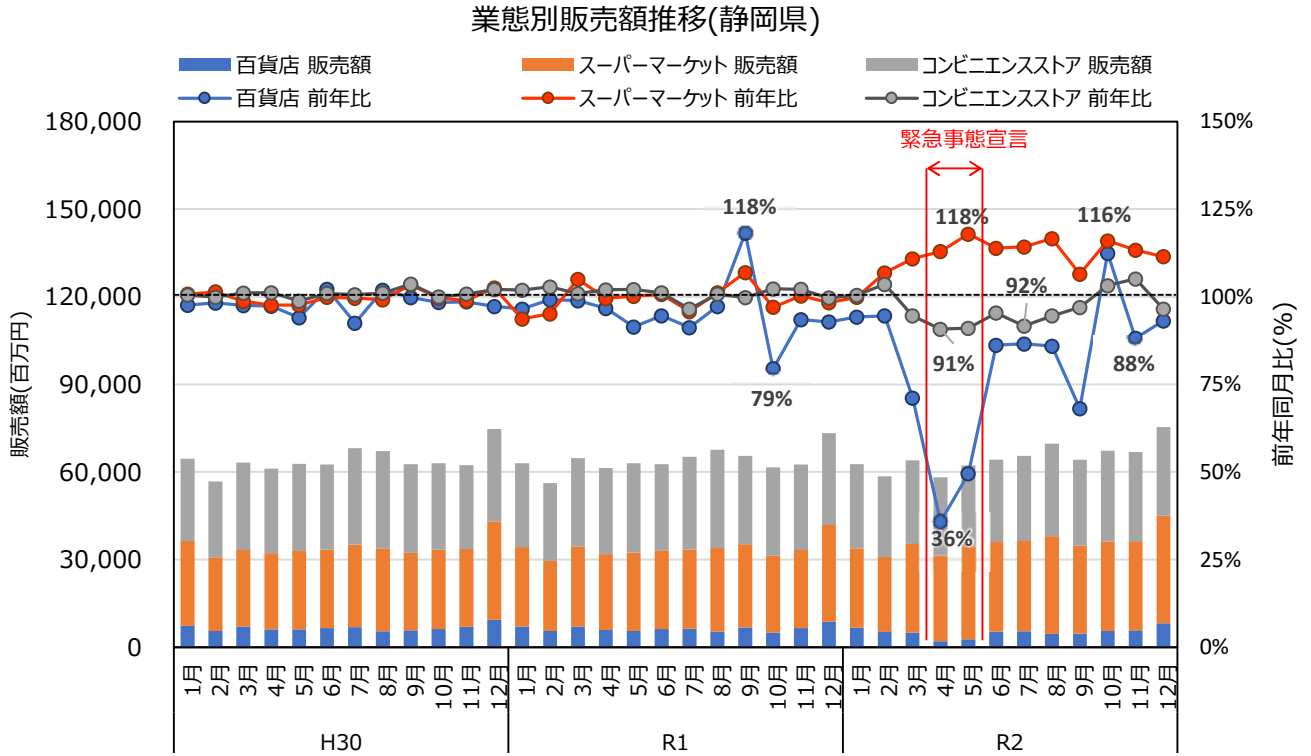
鉱工業出荷指数推移(静岡県)



出典) 静岡県鉱工業指数月報

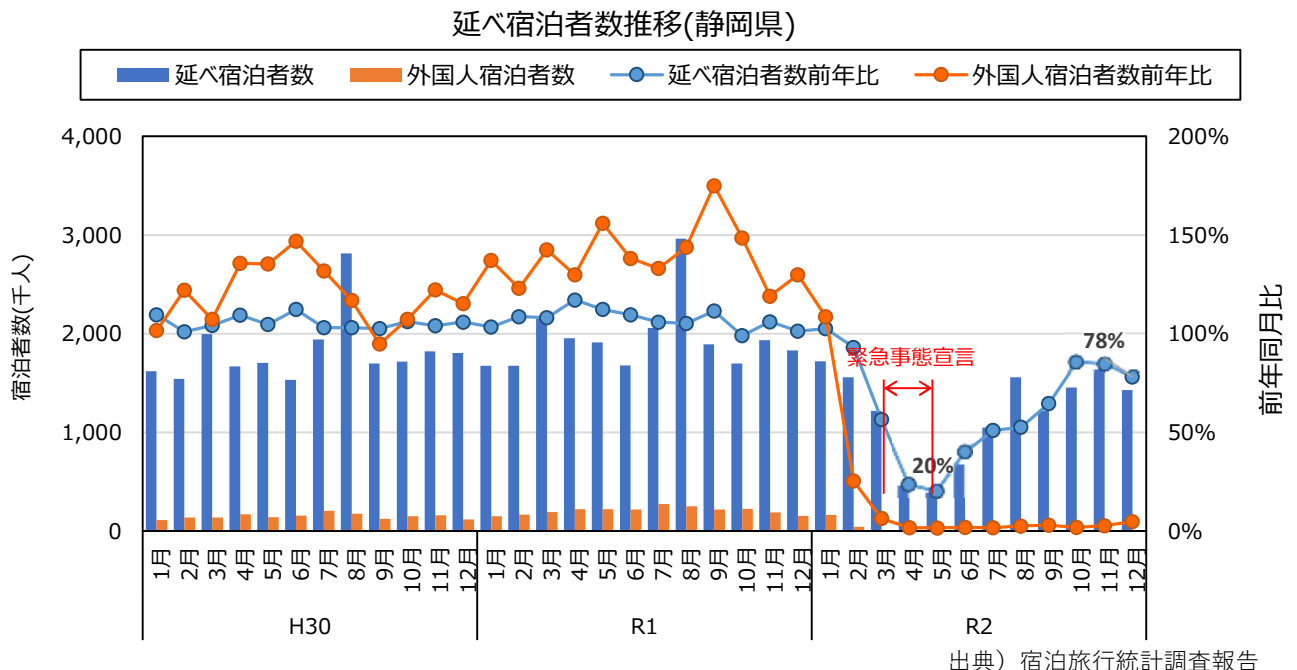
③商業への影響

□百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストアの販売額の推移としては、影響の大きかった百貨店では、緊急事態宣言中に前年同月比40%未満まで落ち込みましたが、宣言解除後には徐々に増加傾向にあります。一方で、スーパーマーケットでは前年同月比120%近くまで増加が見られ、緊急事態宣言解除もその傾向が続いています。



④観光への影響

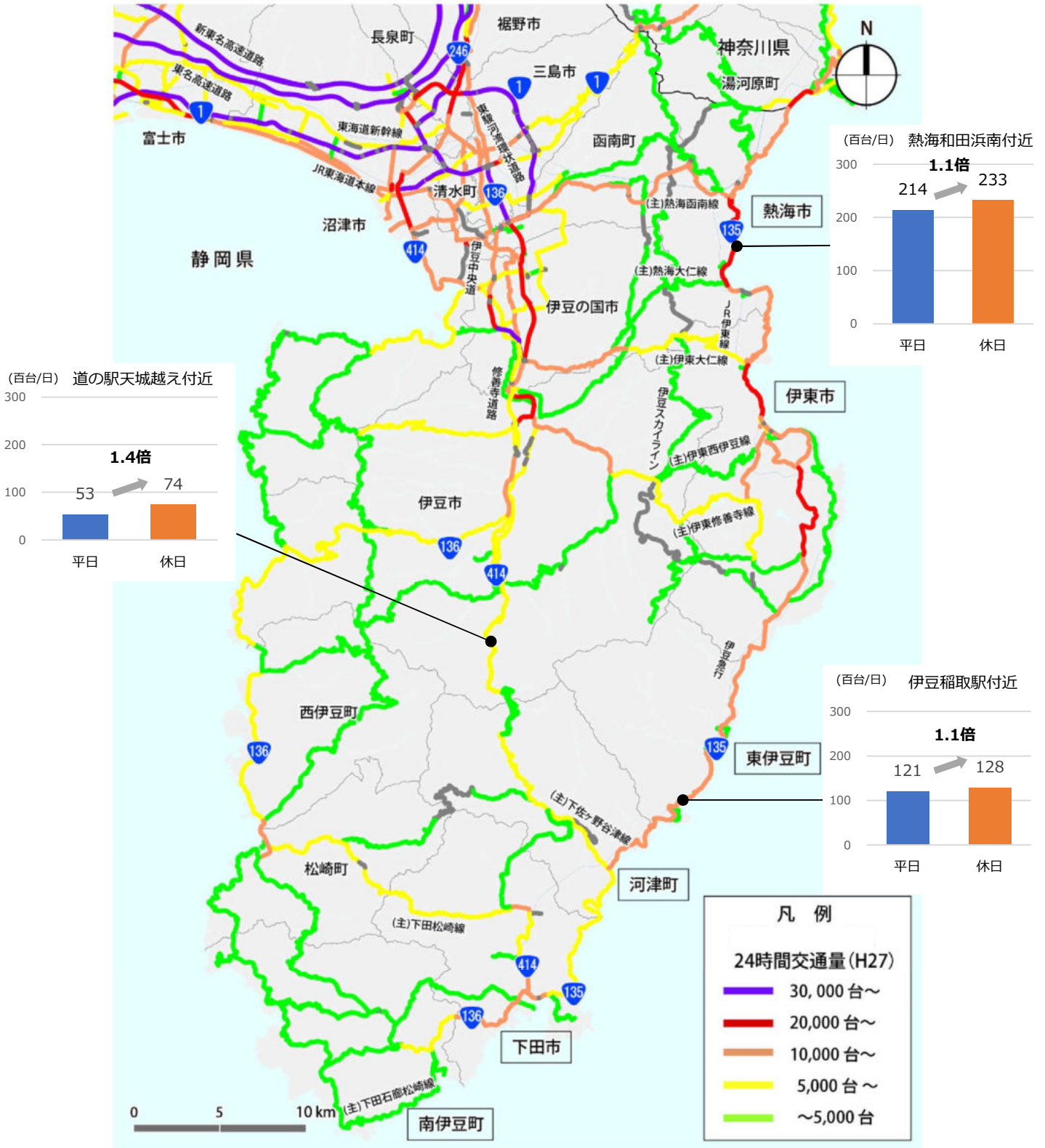
□延べ宿泊者数は、令和2年4~5月の緊急事態宣言中には前年同月比20%程度まで減少しました。その後は順調に回復し令和2年10月には前年同月比80%程度になっています。外国人宿泊者数は、令和元年に増加傾向が見られていましたが、緊急事態宣言中に前年同月比0%近くまで落ち込み、令和2年12月においても回復が見られない状況となっています。



(2) 交通量の状況

- 国道135号は、伊豆東海岸都市圏内のほとんどの区間において交通量が10,000台/日を超えており、特に熱海市街や伊東市街においては、20,000台/日を超えています。
- 幹線道路の交通量は、平日よりも休日の方が多くなっており、国道135号では約1.1倍、国道414号では約1.4倍となっています。

【平日24時間交通量】



図の出典) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 (一般交通量調査)
 グラフの出典) 平成30年度トラフィックカウンター交通量 (静岡県警察本部交通部交通規制課)

(3) 混雑状況

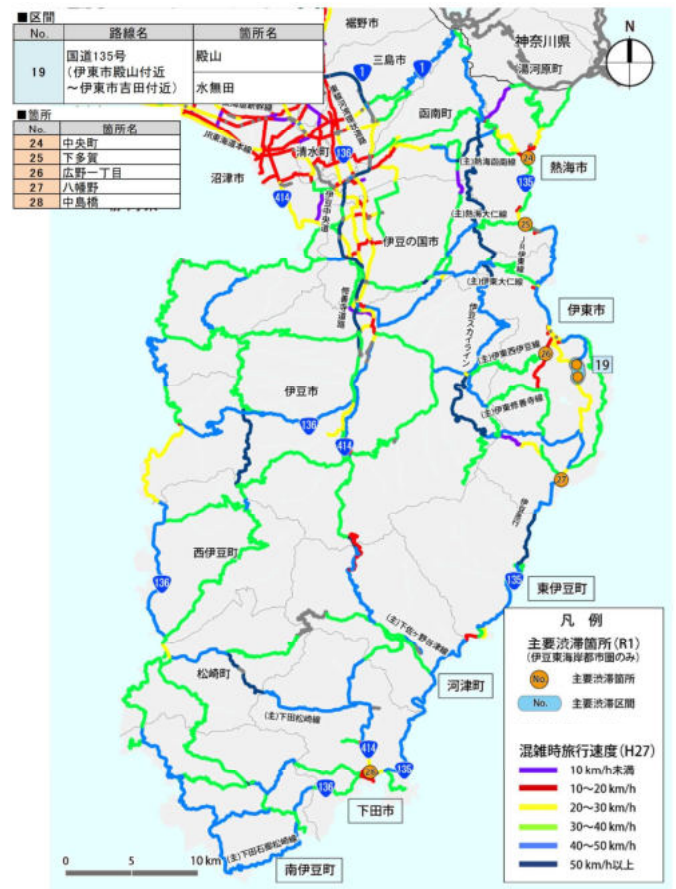
- 熱海市内の国道135号では、熱海市中央町～下多賀の区間において混雑度が1.75を超えており、慢性的に混雑している状況です。
- 伊東市内は国道135号を中心にピーク時に混雑する区間があります。
- 下田市内は、市街地中心部の中島橋交差点が主要渋滞箇所を選定されており、ピーク時に混雑する箇所となっています。
- 伊豆東海岸都市圏内では、市街地内の国道135号に主要渋滞箇所が残存している状況です。
- その他市町では、目立った混雑は発生していません。

【混雑度】



出典) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
(一般交通量調査)

【混雑時旅行速度と主要渋滞箇所】



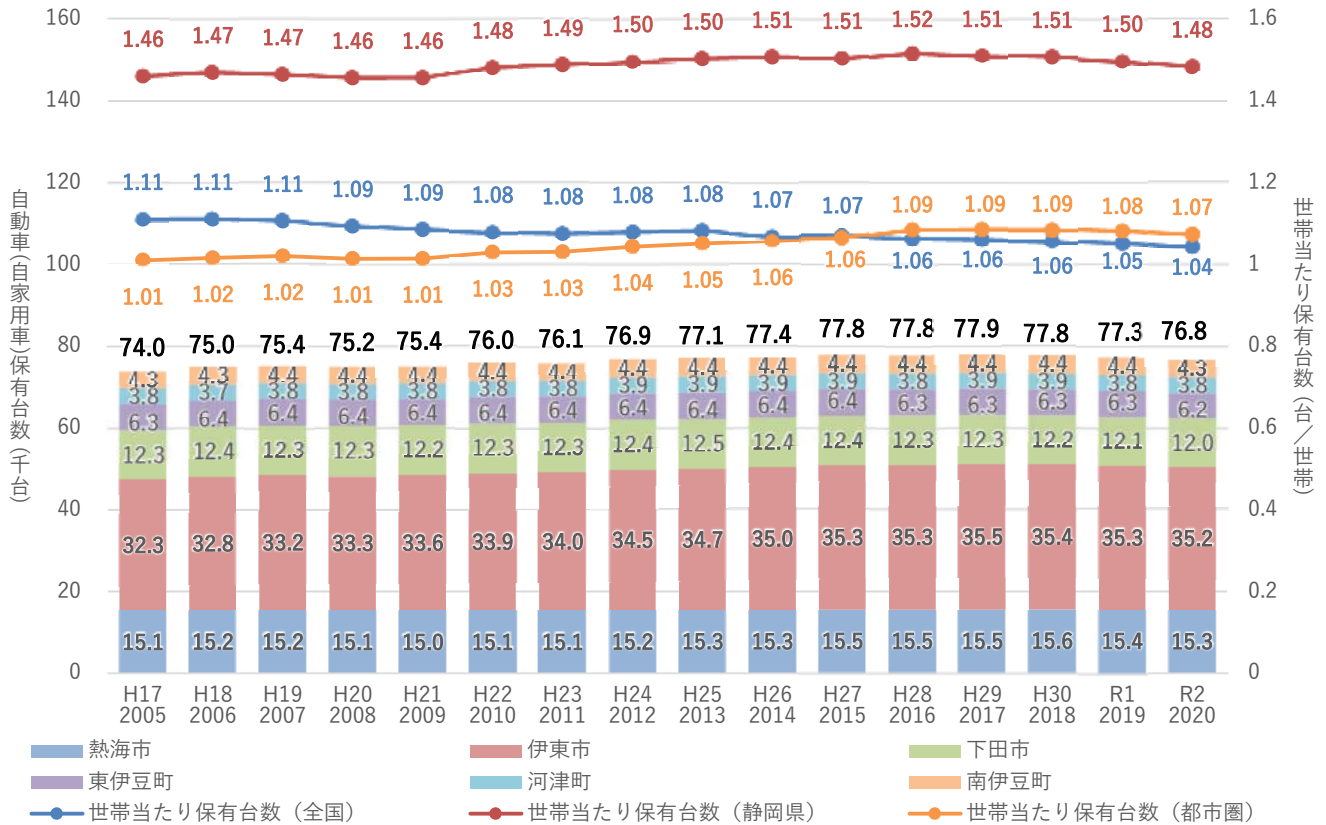
出典) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
(一般交通量調査)

※上下線別混雑時旅行速度のうち低い方の速度を表記
静岡県道路交通渋滞対策推進協議会
(令和2年9月30日時点)

(4) 自動車保有台数

- 令和2年（2020年）の伊豆東海岸都市圏の自動車保有台数は、76.8千台となっており、近年はほぼ横ばいで推移しています。
- 令和2年（2020年）の静岡県の世帯当たりの自動車保有台数は1.48台で、全国値の1.04台を大きく上回っていますが、伊豆東海岸都市圏では1.07台で、全国値と同水準で推移しています。

【自動車保有台数の推移】



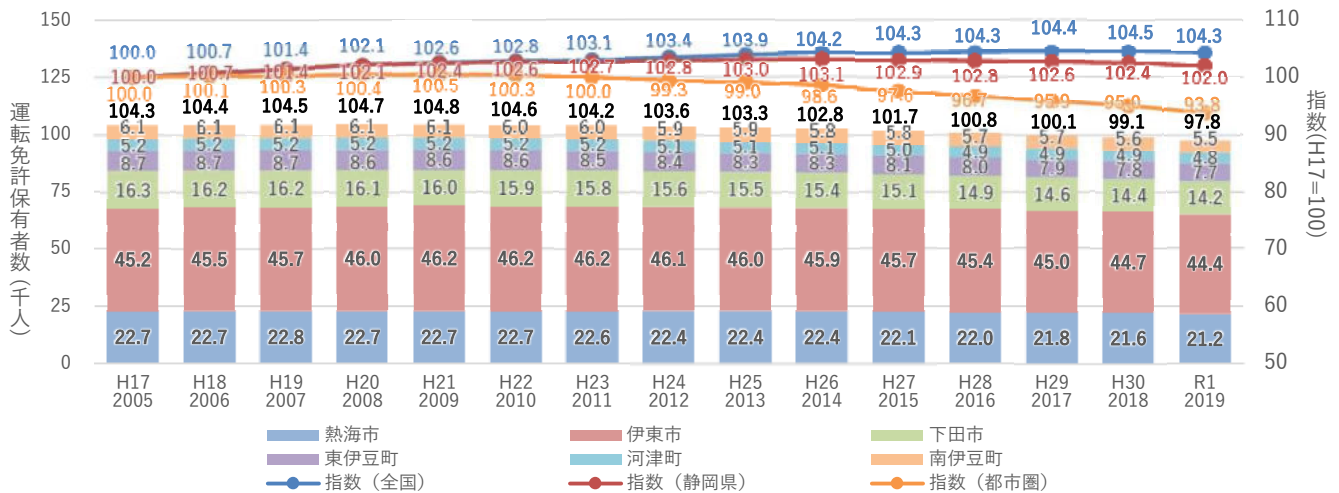
自動車保有台数(千台)	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020
全国	56,018	56,824	57,237	57,278	57,411	57,637	57,888	58,483	59,114	59,810	60,279	60,595	61,019	61,355	61,544	61,585
静岡県	1,984	2,019	2,042	2,052	2,063	2,075	2,085	2,110	2,128	2,150	2,166	2,176	2,191	2,205	2,212	2,215
都市圏	74	75	75	75	75	76	76	77	77	77	78	78	78	78	77	77

出典) 静岡県自動車保有台数調査、
一般財団法人自動車検査登録情報協会

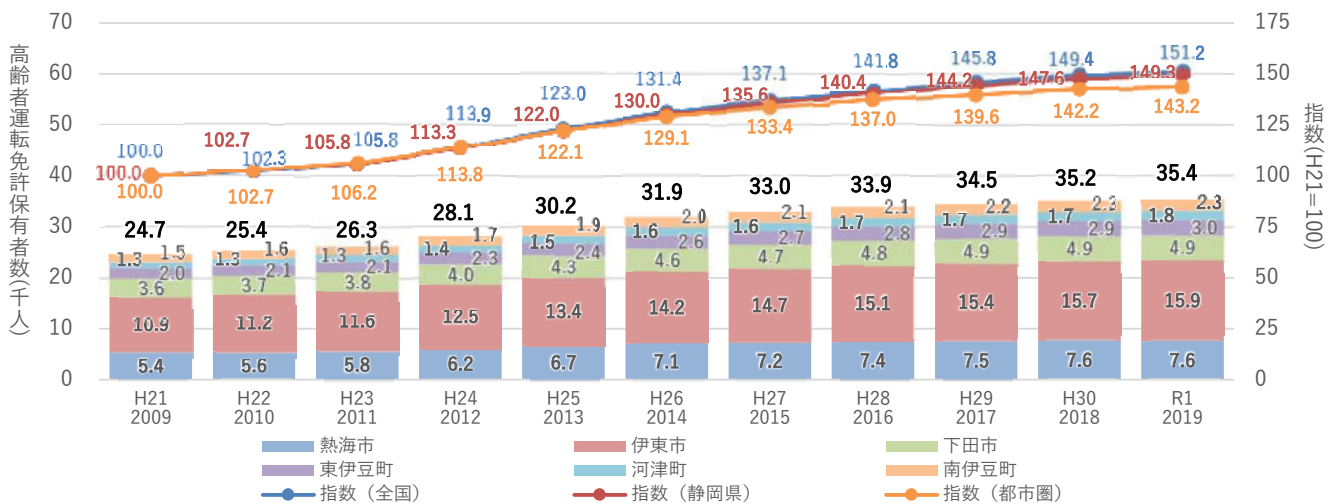
(5) 運転免許保有状況

- 平成17年（2005年）比において、全国および静岡県の運転免許保有者は2~4ポイント増加していますが、伊豆東海岸都市圏は平成21年（2009年）をピークに6ポイント減少しています。
- 運転免許保有者のうち高齢者割合は、全国・静岡県・伊豆東海岸都市圏ともに約4~5割（H21比）増加しています。

【運転免許保有者数の推移】



【運転免許保有者数のうち、高齢者数の推移】

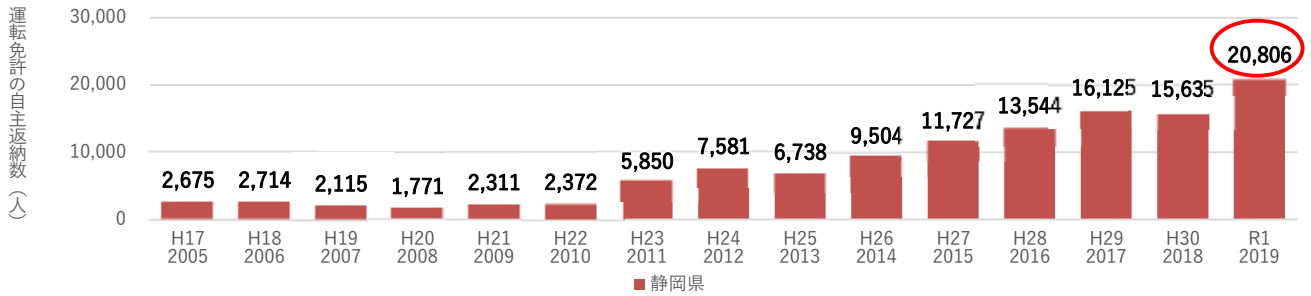


運転免許保有者数(千人)		H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
全国	総数	78,799	79,330	79,907	80,448	80,812	81,010	81,215	81,488	81,860	82,076	82,150	82,206	82,255	82,315	82,158
	高齢者(65歳以上)	-	-	-	-	12,471	12,754	13,190	14,210	15,342	16,389	17,101	17,680	18,184	18,635	18,852
静岡県	総数	2,495	2,511	2,530	2,547	2,556	2,559	2,562	2,565	2,571	2,571	2,568	2,564	2,560	2,555	2,544
	高齢者(65歳以上)	-	-	-	-	438	450	463	496	534	569	594	615	631	646	654
都市圏	総数	104	104	105	105	105	105	104	104	103	103	102	101	100	99	98
	高齢者(65歳以上)	-	-	-	-	25	25	26	28	30	32	33	34	35	35	35

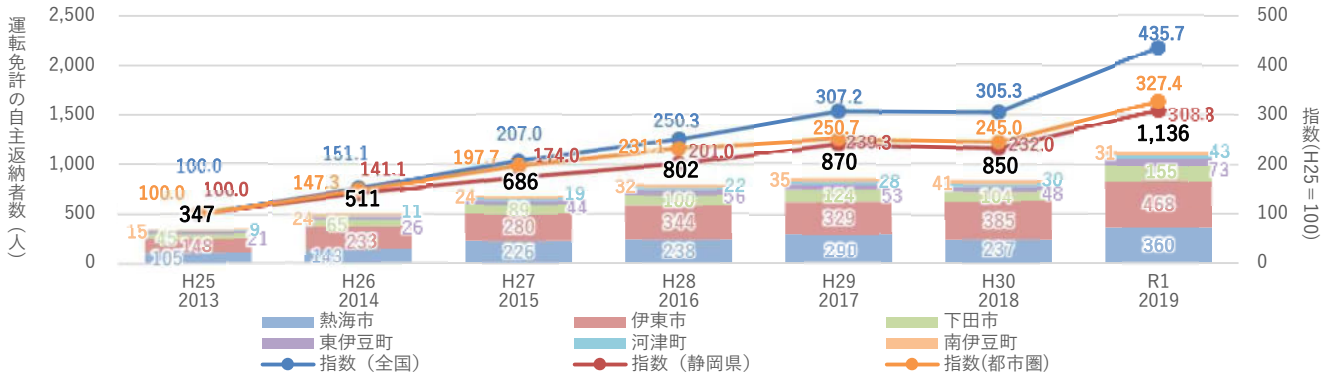
出典) 静岡県統計年鑑(静岡県)、交通安全白書(内閣府)、静岡県警本部提供資料

- 静岡県では、令和元年（2019年）で2万人を超える方が、運転免許を自主返納しています。
- 運転免許の自主返納者数は年々増加傾向にあり、平成25年（2013年）比で、全国は約4倍、静岡県と伊豆東海岸都市圏では約3倍となっています。
- 自主返納者のうち高齢者が占める割合は、直近3年間では97%と高い値で推移しています。

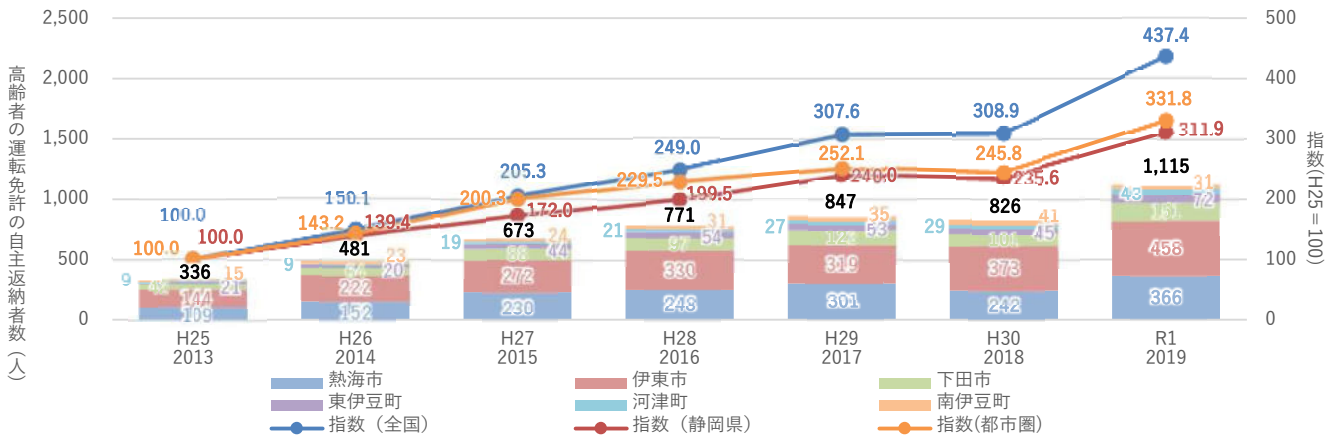
【静岡県の運転免許の自主返納者数の推移】



【運転免許の自主返納者数の推移】



【運転免許の自主返納者数のうち、高齢者数の推移】



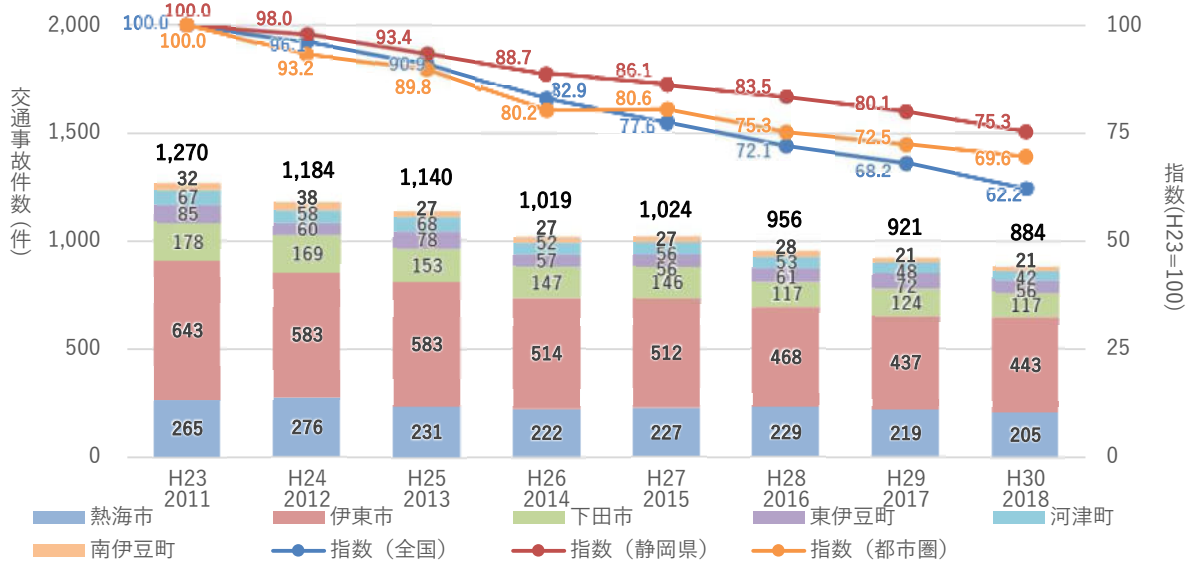
運転免許自主返納者数		H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
全国	総数	19,025	23,203	19,457	29,150	51,086	65,605	72,735	117,613	137,937	208,414	285,514	345,313	423,800	421,190	601,022
	高齢者(65歳以上)	17,410	21,374	18,149	28,097	49,251	63,159	69,805	111,852	131,595	197,552	270,159	327,629	404,817	406,517	575,559
静岡県	総数	2,675	2,714	2,115	1,771	2,311	2,372	5,850	7,581	6,738	9,504	11,727	13,544	16,125	15,635	20,806
	高齢者(65歳以上)	2,496	2,510	1,992	1,683	2,188	2,221	5,598	7,273	6,465	9,011	11,118	12,896	15,516	15,229	20,163
都市圏	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	347	511	686	802	870	850	1,136
	高齢者(65歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	336	481	673	771	847	826	1,115

出典) 運転免許統計(警察庁)、静岡県警本部提供資料

(6) 交通事故状況

- 伊豆東海岸都市圏の交通事故件数は、年々減少傾向にあります。
- 高齢者関連交通事故件数は、大きな減少は見られず、高齢者関連事故の割合は、全国や静岡県と比較し、多い状況となっています。
- 事故類型別の割合は、追突事故が38.8%と最も多くなっており、渋滞による影響が考えられます。

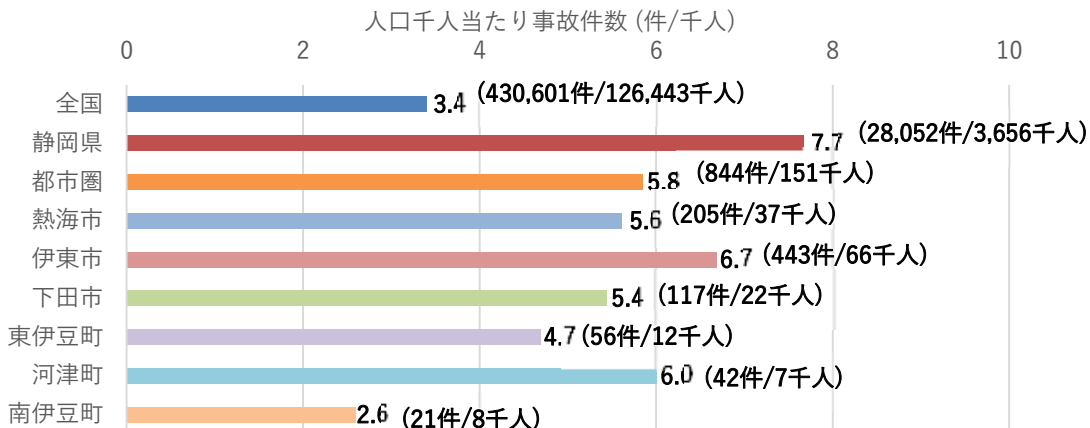
【交通事故件数の推移】



事故件数(件)	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018
全国	692,084	665,157	629,033	573,842	536,899	499,201	472,165	430,601
静岡県	37,238	36,484	34,779	33,039	32,079	31,082	29,824	28,052
都市圏	1,270	1,184	1,140	1,019	1,024	956	921	884

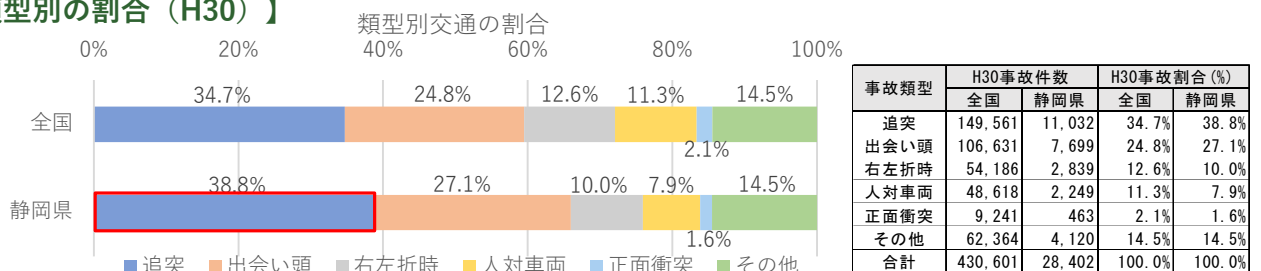
出典) 道路交通に関する統計、交通年鑑(静岡県警察本部)

【人口千人当たり交通事故件数(H30)】



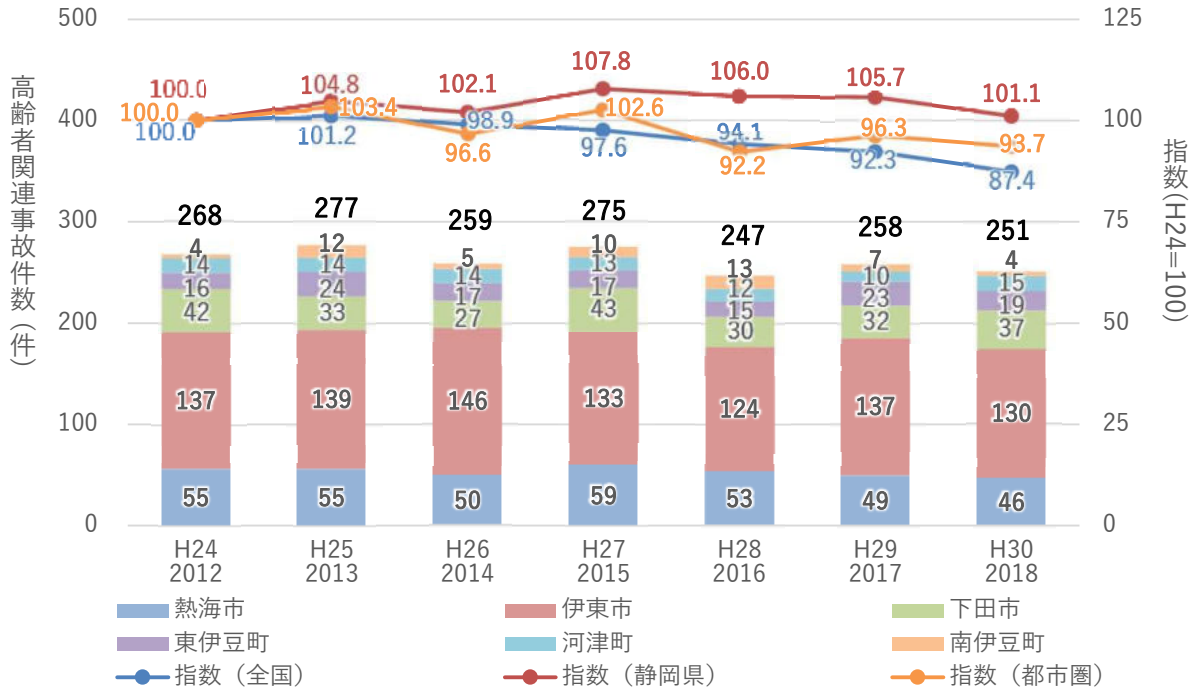
出典) 道路交通に関する統計、社会・人口統計体系、交通年鑑(静岡県警察本部)

【事故類型別の割合(H30)】



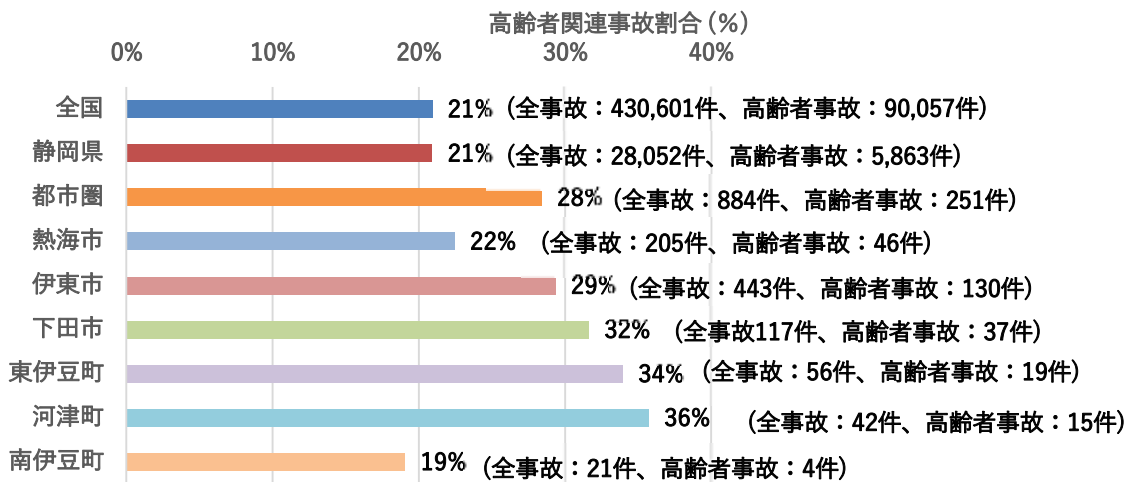
出典) 道路交通に関する統計、交通年鑑(静岡県警察本部)

【高齢者関連交通事故件数の推移】



事故件数(件)	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018
全国	103,001	104,245	101,855	100,551	96,877	95,114	90,057
静岡県	5,800	6,077	5,924	6,252	6,147	6,131	5,863
都市圏	268	277	259	275	247	258	251

【高齢者関連事故の割合 (H30)】



※65歳以上の者が原付車以上の車両を運転し第1当事者となった事故件数
出典) 交通年鑑 (静岡県警察本部)、道路交通に関する統計

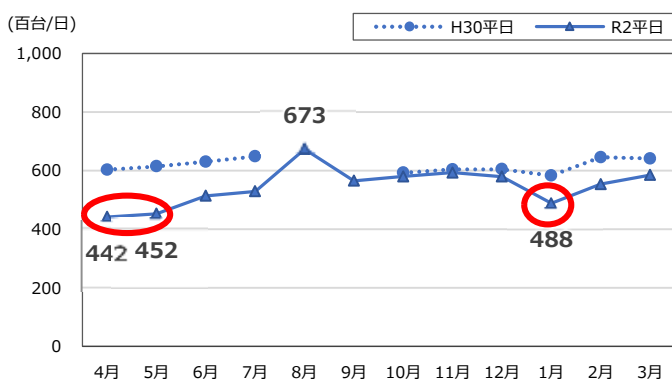
(7) コロナ禍における交通量の変化

①伊豆半島全体の交通量

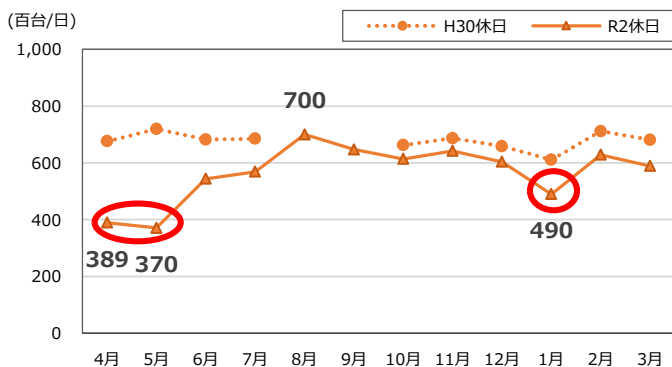
- 令和2年4~5月の緊急事態宣言中は、平成30年と比較して交通量が大きく減少し、平日で26~27%減、休日で42~48%減となり、休日の方がより大きい影響がありました。
- 緊急事態宣言解除後（令和2年6月以降）は、GoToトラベルキャンペーンの開始とともに平成30年に近い台数まで交通量が回復しましたが、令和2年12月のキャンペーン停止(感染拡大)とともに再び1割前後の減少傾向となっています。

■5箇所計の断面交通量

【平日】



【休日】



■交通量調査箇所



(台/日)	平日			休日			休日-平日		
	H30	R2	R2/H30	H30	R2	R2/H30	H30	R2	R2/H30
4月	60,254	44,157	-27%	67,546	38,925	-42%	7,293	-5,232	-72%
5月	61,411	45,250	-26%	71,911	37,035	-48%	10,500	-8,215	-78%
6月	63,047	51,364	-19%	68,181	54,361	-20%	5,135	2,998	58%
7月	64,808	52,924	-18%	68,476	56,887	-17%	3,668	3,963	108%
8月	—	67,328	—	—	70,019	—	—	2,691	—
9月	—	56,514	—	—	64,697	—	—	8,183	—
10月	59,255	57,974	-2%	66,230	61,356	-7%	6,975	3,382	48%
11月	60,365	59,278	-2%	68,651	64,170	-7%	8,286	4,892	59%
12月	60,457	57,927	-4%	65,827	60,348	-8%	5,370	2,421	45%
1月	58,306	48,775	-16%	61,027	48,976	-20%	2,721	201	7%
2月	64,552	55,331	-14%	71,111	62,865	-12%	6,559	7,534	115%
3月	64,135	58,498	-9%	68,089	58,862	-14%	3,954	363	9%
平均	61,659	50,409	-14%	67,705	52,192	-20%	6,046	1,783	30%

データ) トラフィックカウンター交通量 (静岡県警察本部交通部交通規制課)
 ※平成30年8~9月は地点③端末不良のため値なしとした

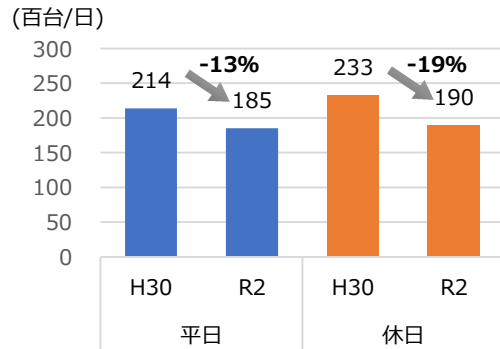
②観測地点別の年平均交通量

- 国道135号の交通量は、平成30年と比較して令和2年は平日で約1割、休日で約2割減少しました。
- 国道136号の交通量は、観測地点の中で減少幅が最も大きく、平成30年と比較して令和2年は平日27%減、休日30%減となっています。
- 国道414号の交通量は、平成30年と比較して令和2年は平日で13%減、休日で16%減少しました。

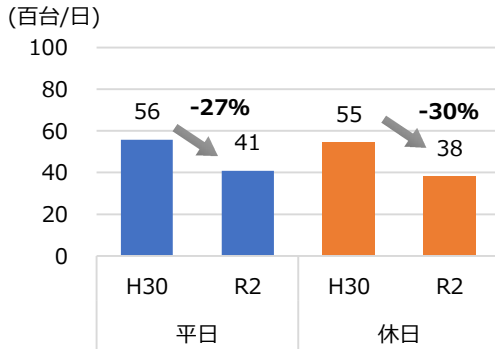
■交通量調査箇所



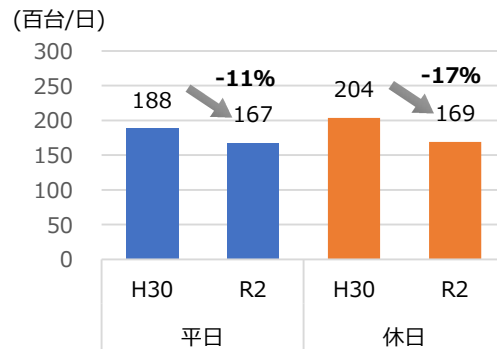
① 国道135号 熱海和田浜南付近



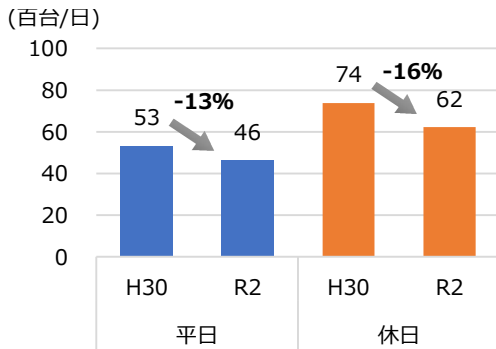
④ 国道136号 大平IC付近



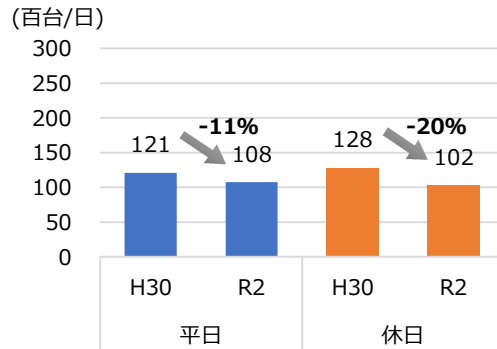
② 国道135号 熱海市上多賀付近



⑤ 国道414号 道の駅天城越え付近



③ 国道135号 伊豆稲取駅付近



年平均交通量(台/日)	平日			休日		
	H30	R2	R2/H30	H30	R2	R2/H30
①国道135号 熱海和田浜南付近	21,384	18,508	-13%	23,281	18,966	-19%
②国道135号 熱海市上多賀付近	18,837	16,737	-11%	20,369	16,899	-17%
③国道135号 伊豆稲取駅付近	12,082	10,762	-11%	12,835	10,225	-20%
④国道136号 大平IC付近	5,572	4,083	-27%	5,463	3,826	-30%
⑤国道414号 道の駅天城越え付近	5,312	4,635	-13%	7,388	6,226	-16%

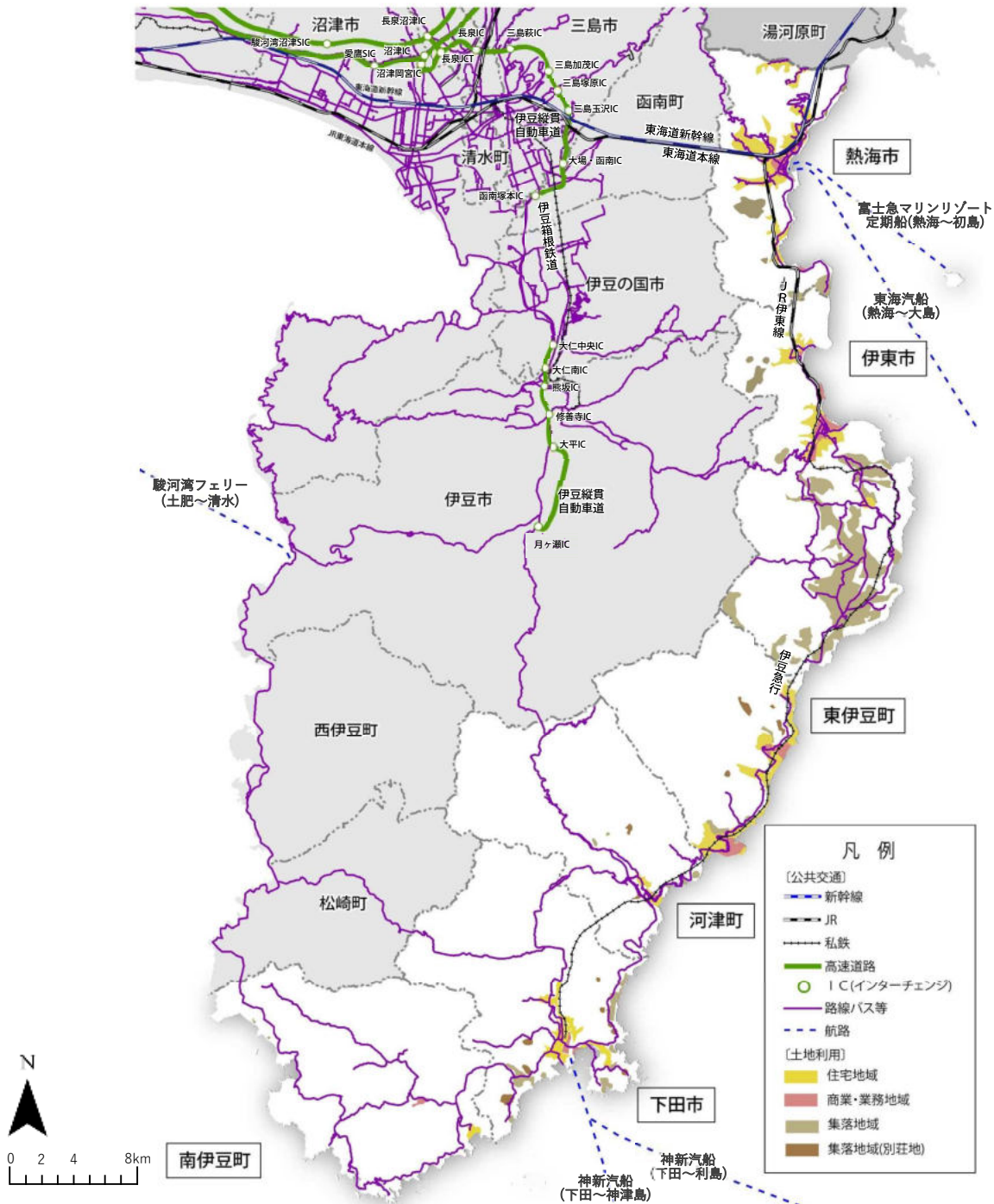
データ) トラフィックカウンター交通量 (静岡県警察本部交通部交通規制課)

2-3 公共交通の現況分析

(1) 公共交通網の状況

- 鉄道は、熱海駅から海岸線沿いにJR伊東線、伊豆急行線が運行されています。
- 路線バスは、熱海市、伊東市は市内を、東伊豆町以南は市町間を中心に、鉄道網を補完する形で運行されています。

【都市圏の公共交通網】

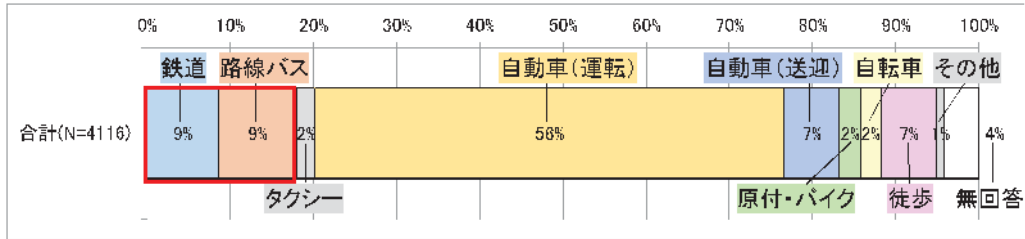


出典) 国土交通省国土数値情報ダウンロード、東海バスHP、伊豆箱根バスHP、各市町HP、駿河湾フェリーHP、富士急マリリゾートHP、東海汽船HP、神新汽船HP
 ※路線バス、コミュニティバス、デマンド交通は重複している区間がある
 ※季節限定の航路は除く

(2) 公共交通の利用実態

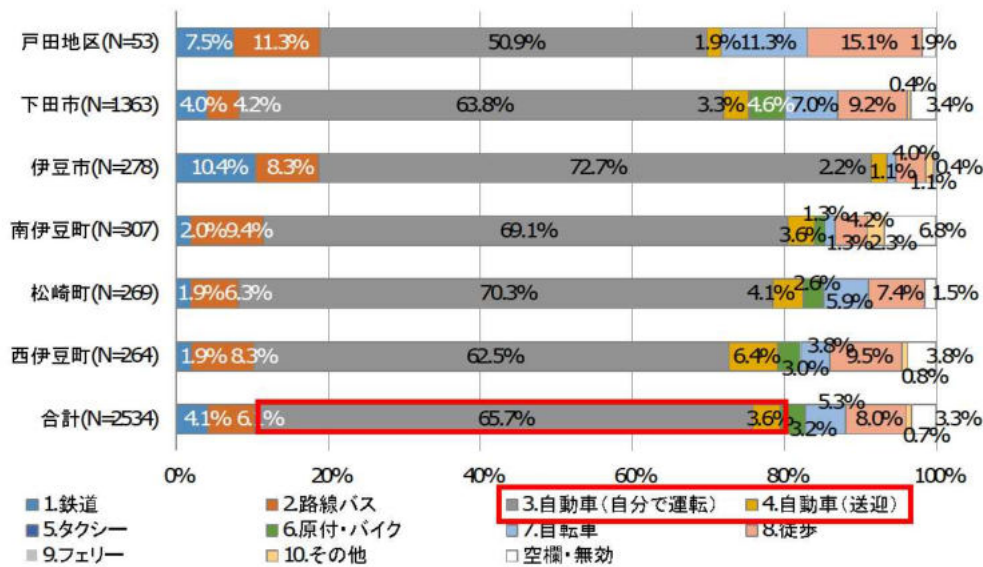
□ 地域の交通手段は、自動車での移動が最も多く、鉄道や路線バス等の公共交通を利用した移動は少ない状況です。

【生活移動で主に利用する交通手段（東伊豆・中伊豆地域）】



出典) 東伊豆・中伊豆地域公共交通網形成計画（平成30年（2018年）3月）
地域住民アンケート調査

【通勤・通学時の交通手段（南伊豆・西伊豆地域）】

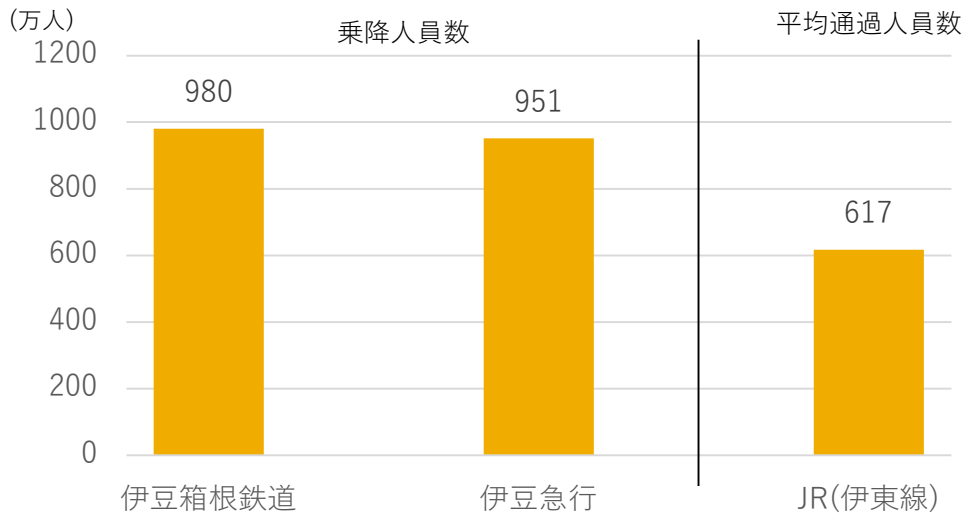


出典) 南伊豆・西伊豆地域公共交通網形成計画（平成28年（2016年）3月）
住民アンケート

①鉄道の利用状況

- 鉄道の乗降人員数は、伊豆箱根鉄道で980万人、伊豆急行で951万人となっています。
- JR伊東線の通過人員数は、路線平均で617万人となっています。

鉄道各社の乗降人員数※1、平均通過人員数※2（H30）

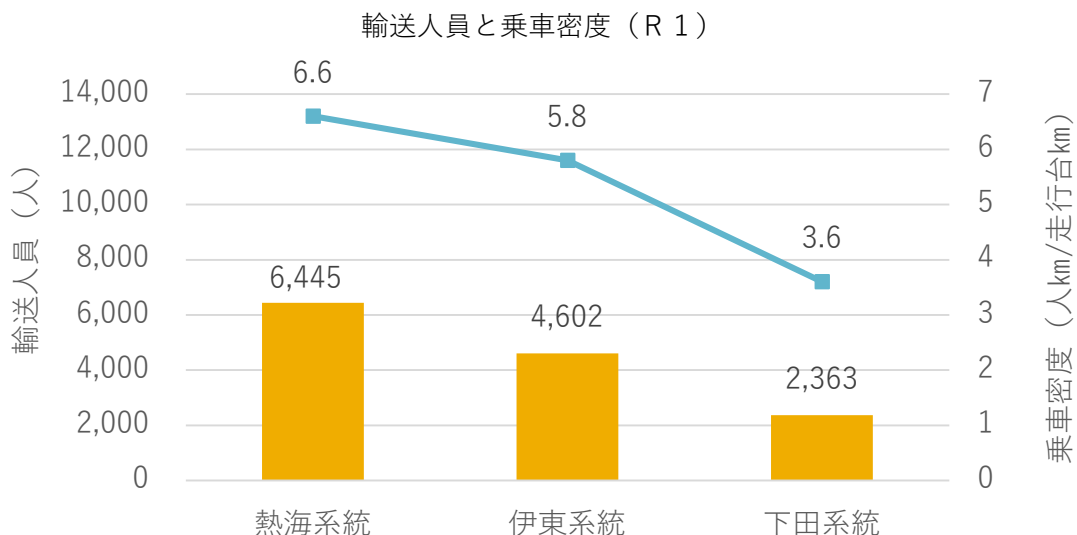


出典) 各社提供データ

- ※1：駅で列車に乗車する旅客数（乗車人員）と、降車する旅客数（降車人員）の合計
- ※2：路線平均の断面旅客数（通過人員）

②路線バスの利用状況

- 路線バスの輸送人員は、熱海系統で6,445人、伊東系統で4,602人、下田系統で2,363人となっています。
- 乗車密度は、熱海系統や伊東系統では、1便当たり5人以上の乗車があるのに対し、下田系統では3.6人となっています。

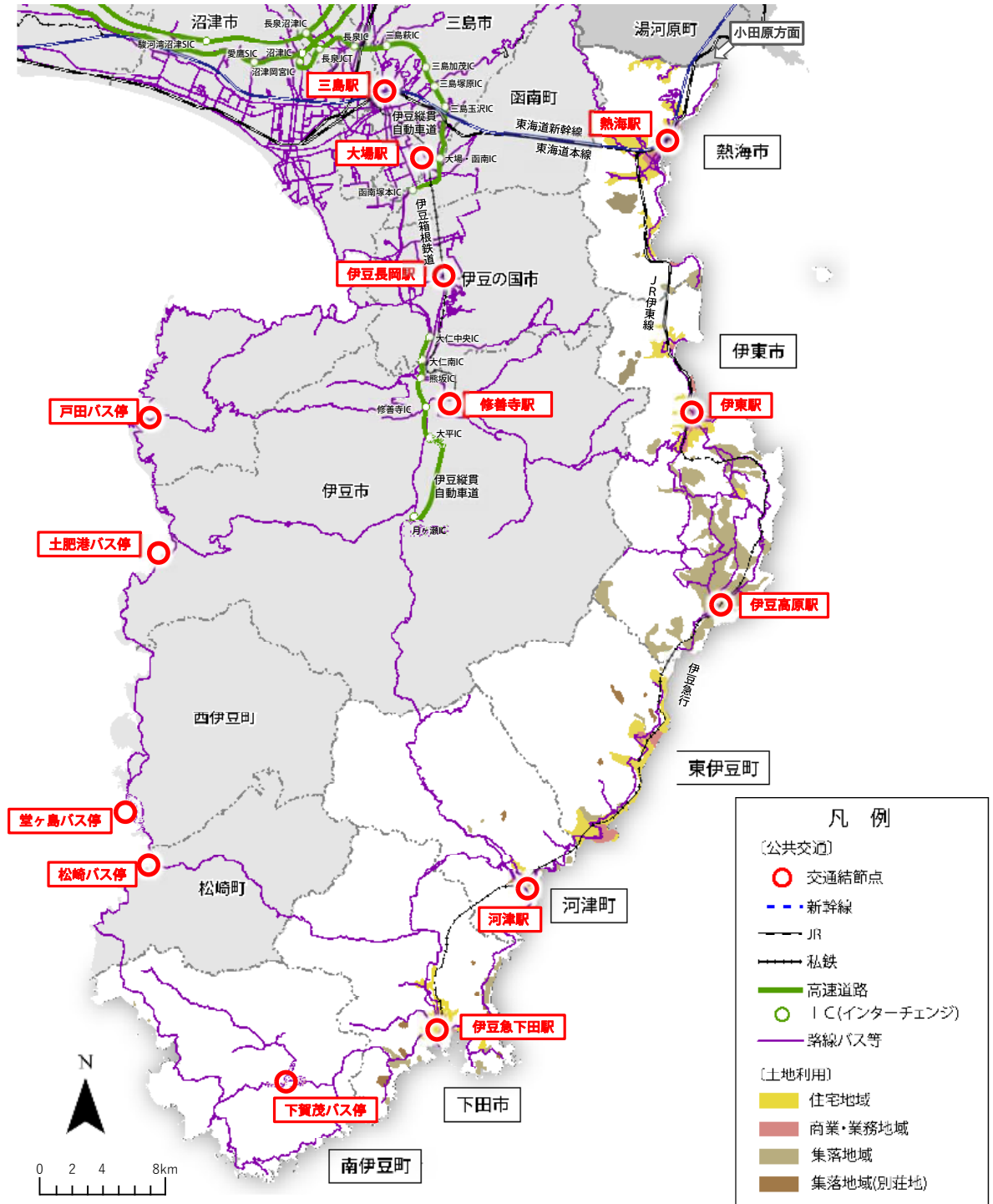


出典) 東海自動車株式会社提供データ

(3) 交通結節点の状況

- 伊豆東海岸都市圏の鉄道や路線バスの起点となっている主な交通結節点は、熱海駅（熱海市）、伊東駅（伊東市）、伊豆高原駅（伊東市）、河津駅（河津町）、伊豆急下田駅（下田市）、下賀茂バス停（南伊豆町）などがあります。
- これら交通結節点における鉄道・バス等の乗り継ぎでは、伊東駅、河津駅、伊豆急下田駅で乗り継ぎ時間が30分以上を要するケースがあります。

【交通結節点の位置】



出典) 国土交通省国土数値情報ダウンロード、東海バスHP、伊豆箱根バスHP、各市町HP
 ※路線バス、コミュニティバス、デマンド交通は重複している区間がある

(4) 鉄道駅の人口カバー状況

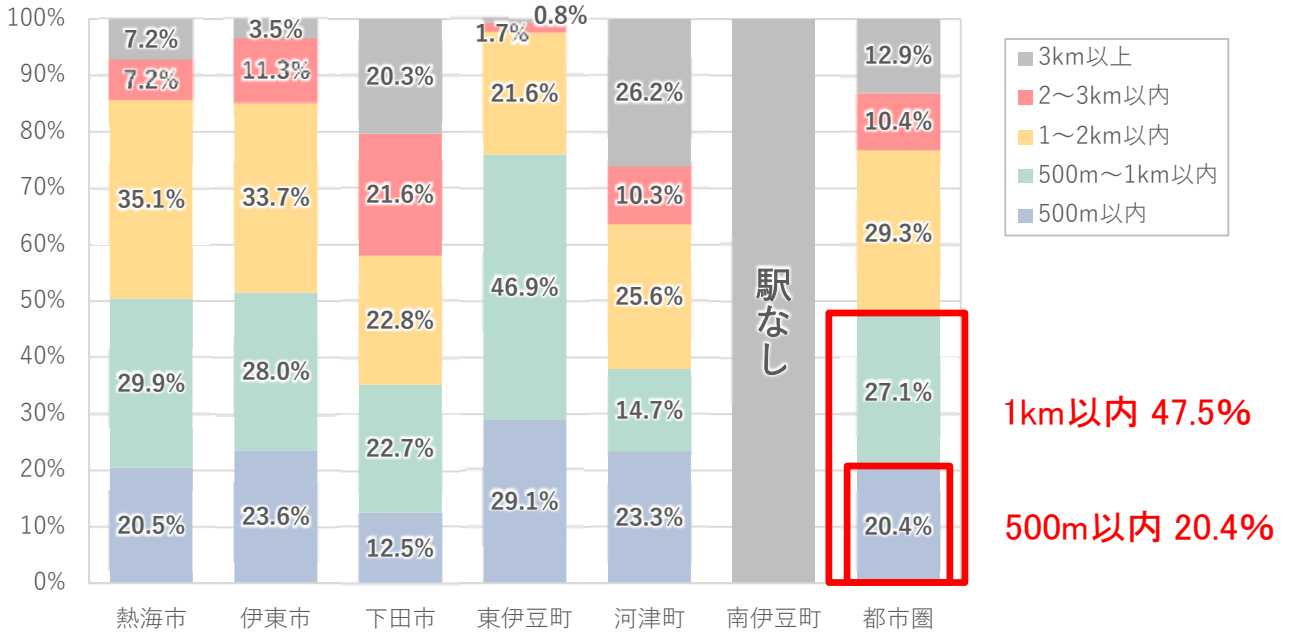
- 伊豆東海岸都市圏全体では、鉄道駅1km圏内に約5割、500m圏内に約2割が居住しています。
- 平成17年から27年の10年間で、鉄道駅1km及び500m圏内の居住率に大きな変化はありません。

【鉄道駅からの距離別人口(H27)】



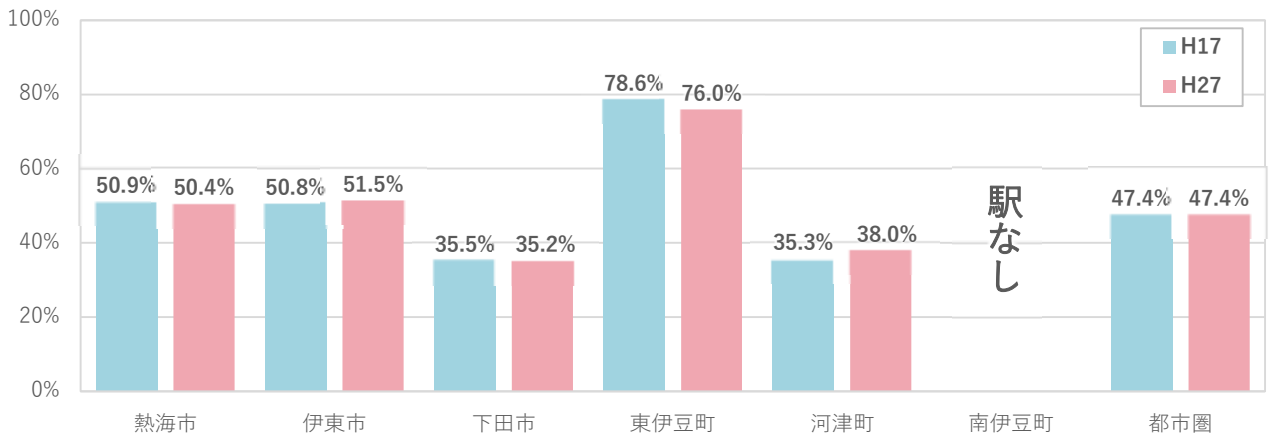
出典) 国勢調査、国土数値情報ダウンロード

【鉄道駅からの距離別人口(H27)】

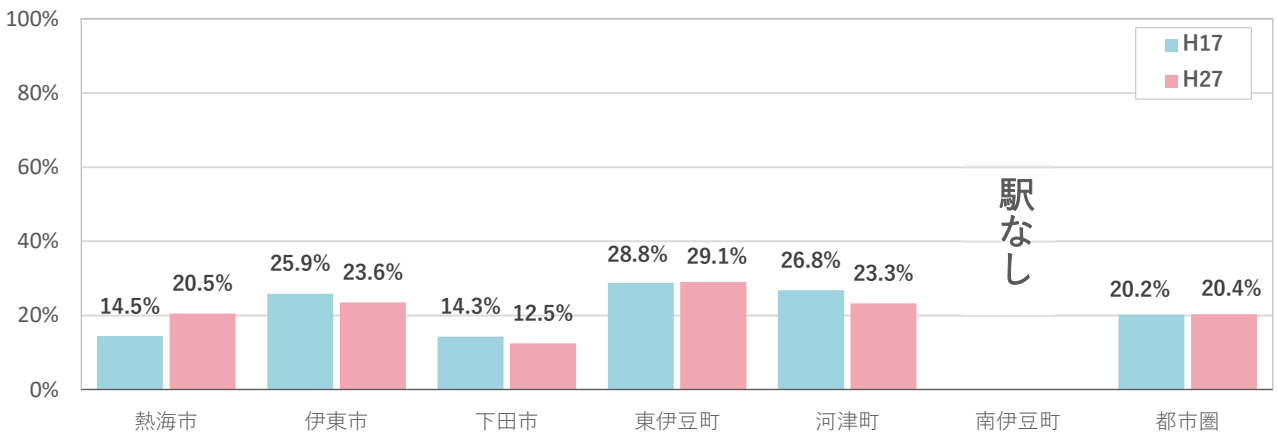


出典) 国勢調査
 ※合計値は表示桁数の関係で一致しないことがある

【鉄道駅1km圏内人口割合の変化(H17~H27)】



【鉄道駅500m圏内人口割合の変化(H17~H27)】

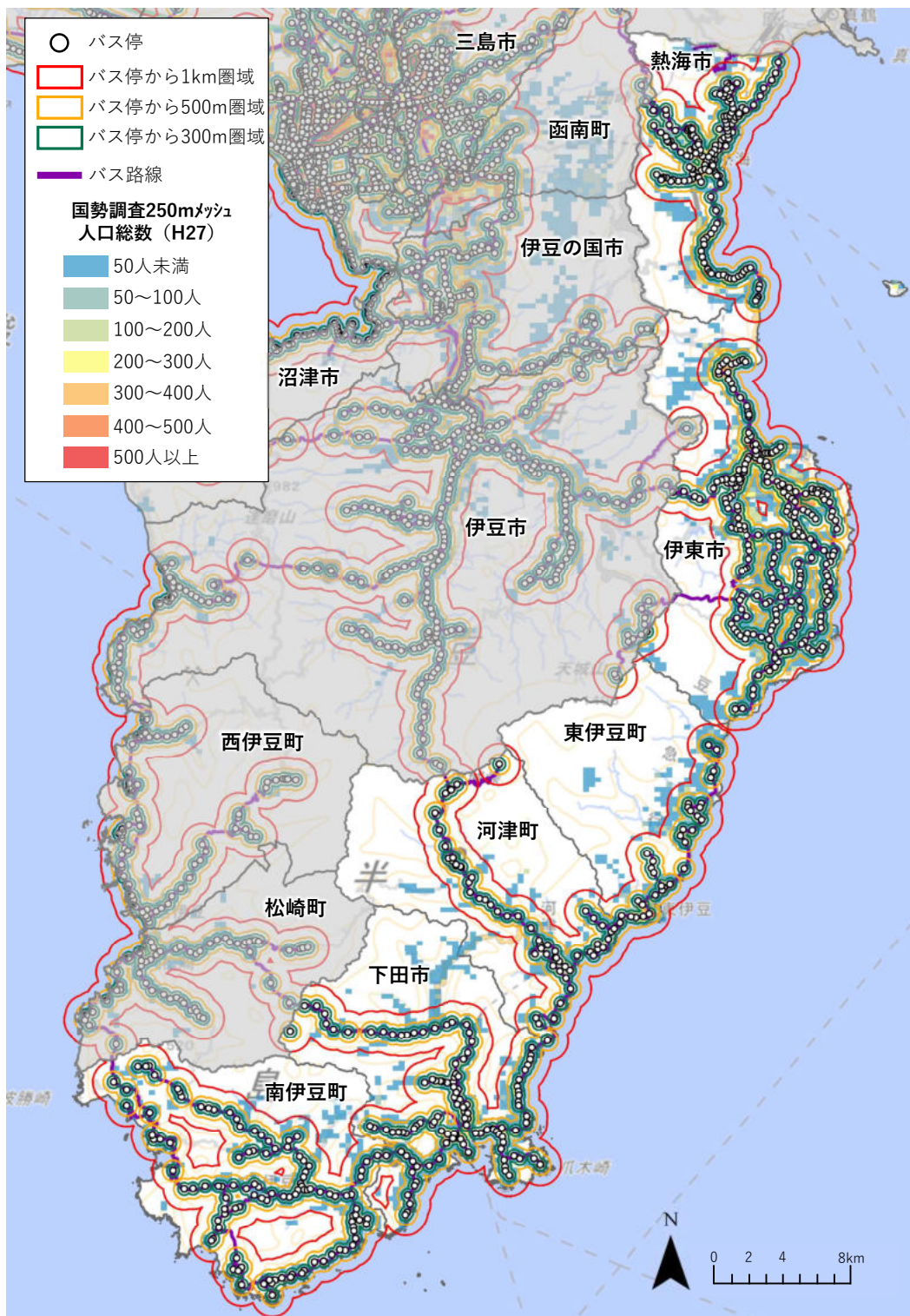


出典) 国勢調査
 ※H17：4次メッシュ(500mメッシュ)人口、H27：5次メッシュ(250mメッシュ)人口

(5) バス停の人口カバー状況

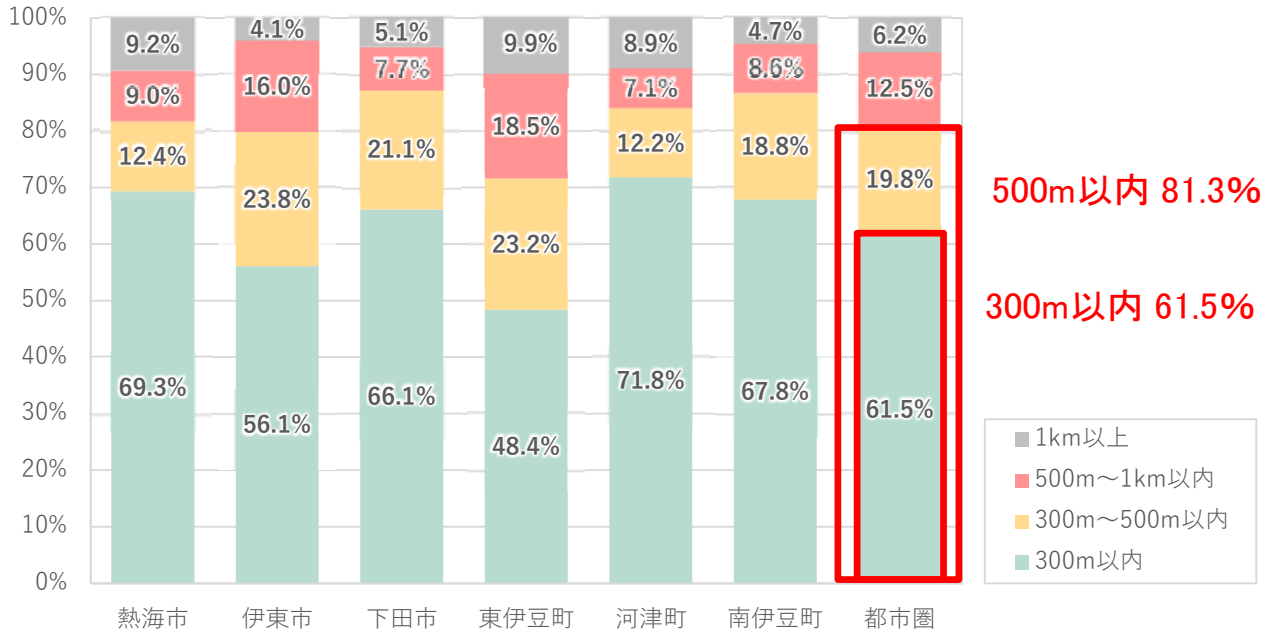
- 伊豆東海岸都市圏全体では、バス停500m圏内に約8割、300m圏内に約6割が居住しています。
- 平成17年から27年の10年間で、バス停500m圏内の居住率は12.1ポイント減少し、300m圏内は3.5ポイント減少しています。

【バス停からの距離別人口(H27)】



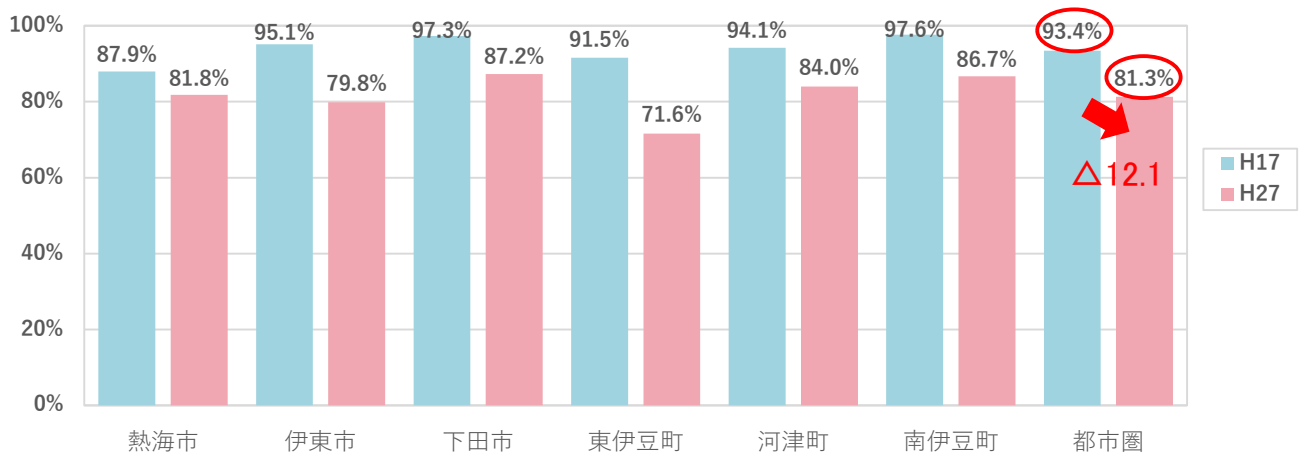
出典) 国勢調査、国土数値情報ダウンロード、
東海バスHP、伊豆箱根バスHP、各市町HP

【バス停からの距離別人口(H27)】

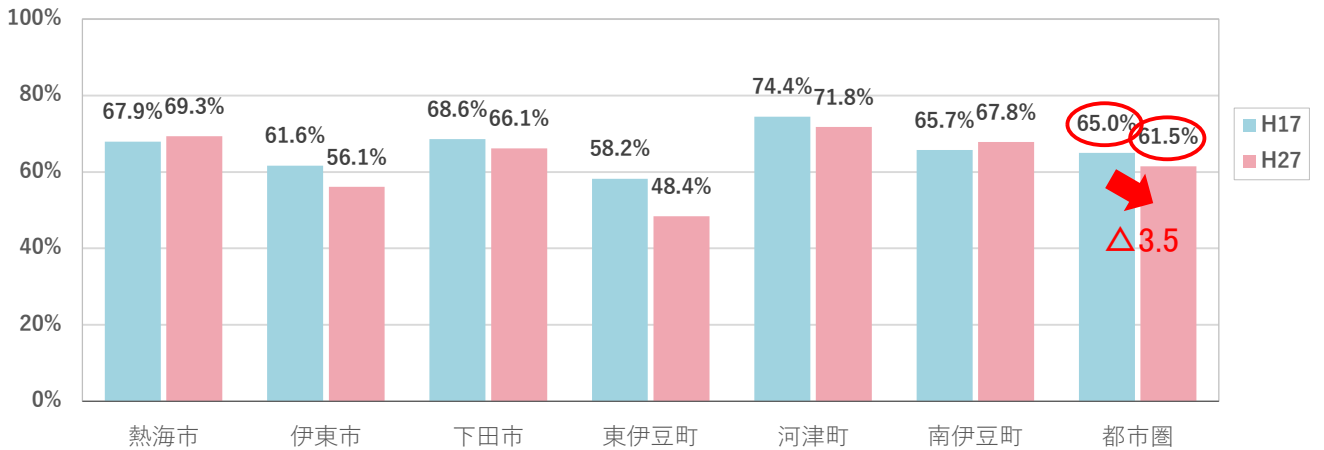


出典) 国勢調査
※合計値は表示桁数の関係で一致しないことがある

【バス停500m圏内人口割合の変化(H17～H27)】



【バス停300m圏内人口割合の変化(H17～H27)】



出典) 国勢調査
※H17：4次メッシュ(500mメッシュ)人口、H27：5次メッシュ(250mメッシュ)人口

(6) バス路線の経年変化

- 伊豆東海岸都市圏においては、近年の都市構造の変化にあわせて、バス路線の新設や廃止が進められています。

【バス路線(H23)】



【バス路線(R2)】



出典) 国勢調査、国土数値情報ダウンロード、東海バスHP、伊豆箱根バスHP、各市町HP

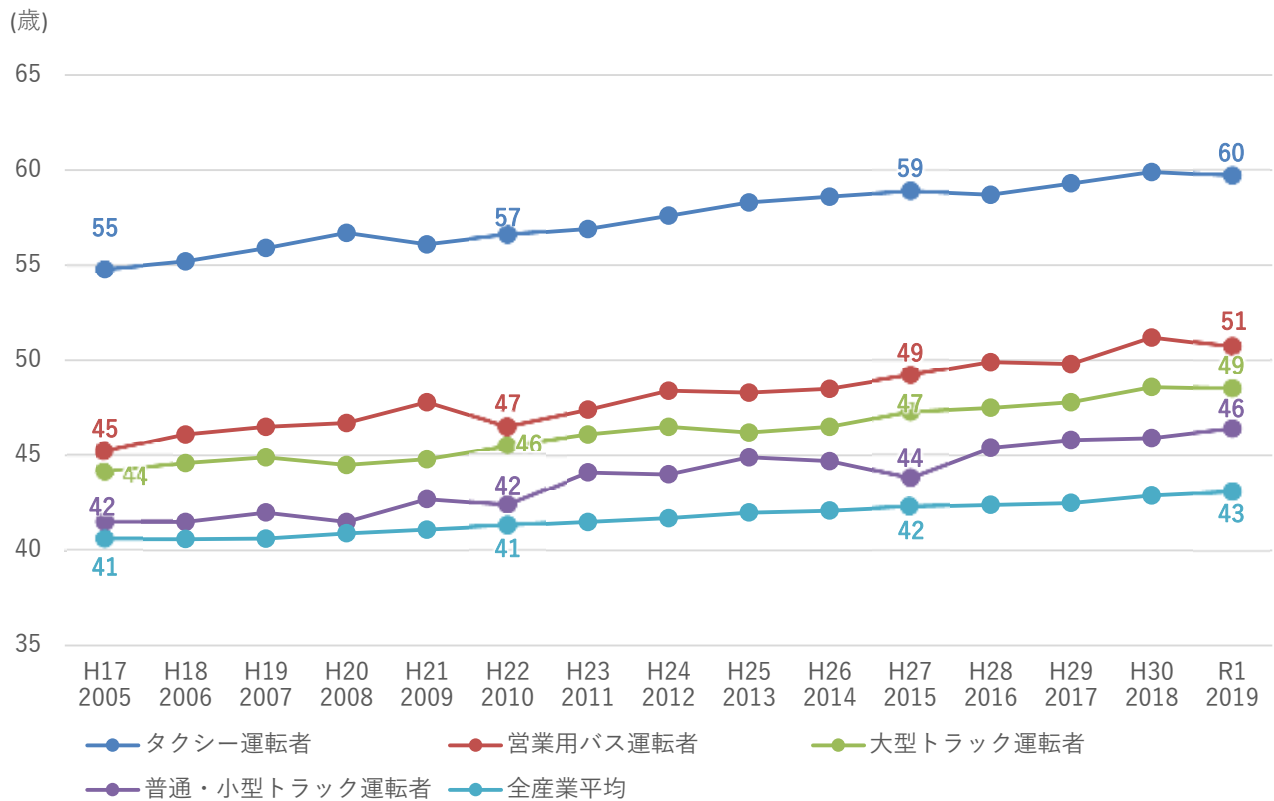
【バス路線 新設・廃止路線 延長】

市町名	新設路線(m)	廃止路線(m)
伊東市	7,328.0	—
下田市	764.8	8,557.8
河津町	7,403.3	2,998.0
南伊豆町	5,633.2	4,912.4
都市圏合計	21,129.3	16,468.2

(7) 交通の担い手不足

- 令和元年（2019年）における公共交通ドライバーの平均年齢は51～60歳、物流ドライバーは46～49歳であり、全産業平均（43歳）と比べて高く、高齢化が進展しています。
- 将来的に、現役世代の引退に伴う担い手不足により、公共交通の維持が困難になることが懸念されます。

【ドライバーの平均年齢の推移】



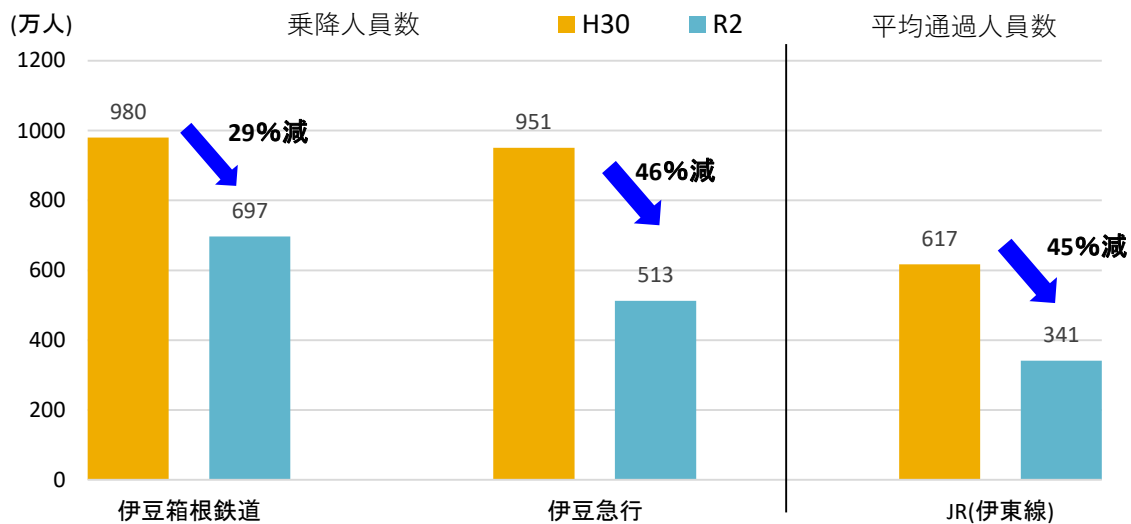
出典) 賃金構造基本統計調査

(8) コロナ禍における利用者数の変化

①鉄道の状況

- 乗降人員（通過人員）の減少率（H30⇒R2）は、伊豆箱根鉄道では29%でした。一方で、伊豆急行では46%、JR伊東線は45%となっており、より大きな影響がありました。
- 三島駅・熱海駅の南側断面における通過人員数の減少率（H30⇒R2）は、断面合計で33%でした。

鉄道各社の乗降人員数※1、平均通過人員数※2（H30⇒R2）

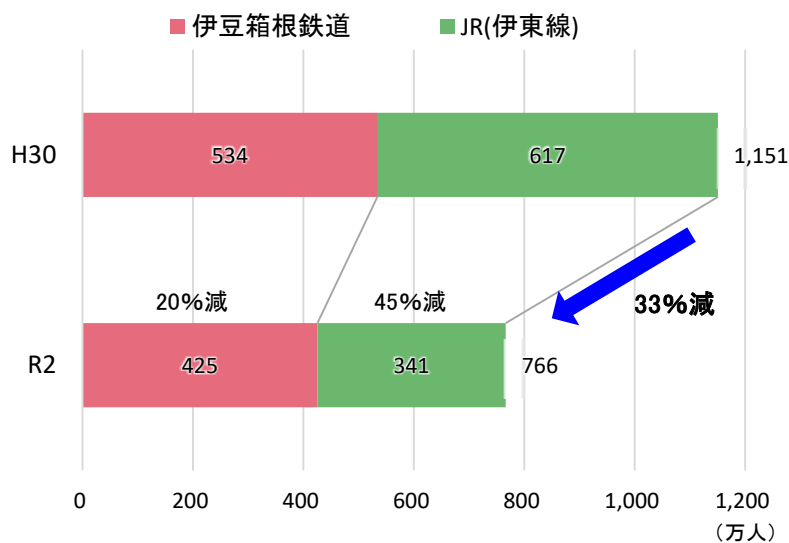


出典) 各社提供データ

※1：駅で列車に乗車する旅客数（乗車人員）と、降車する旅客数（降車人員）の合計

※2：路線平均の断面旅客数（通過人員）

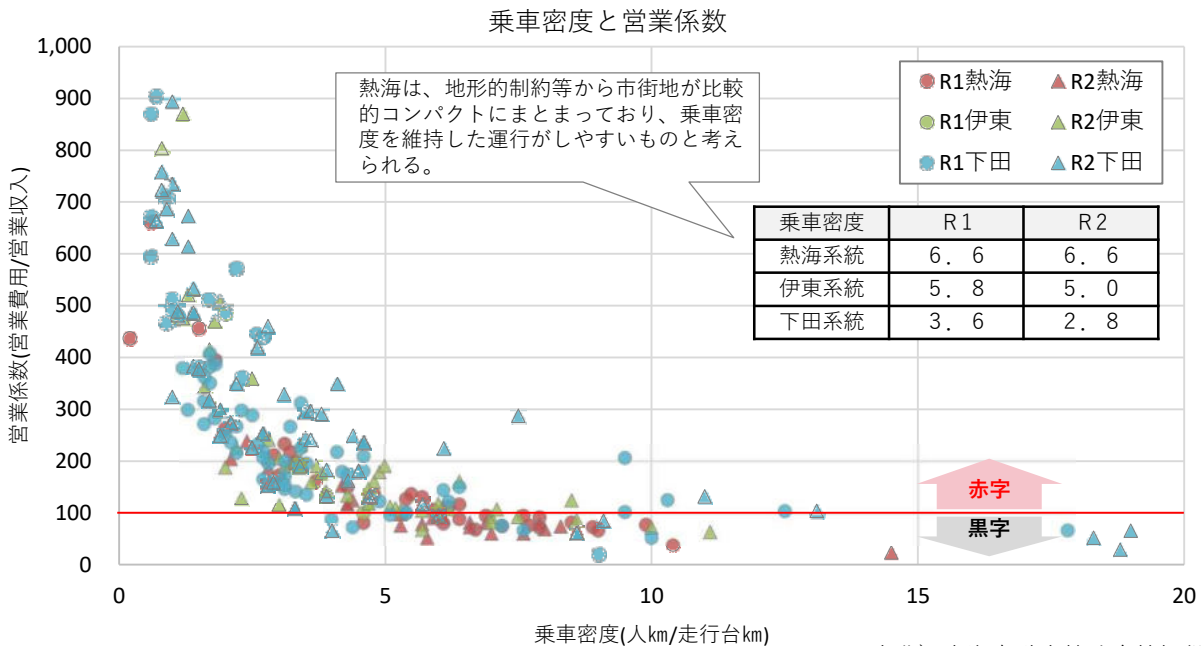
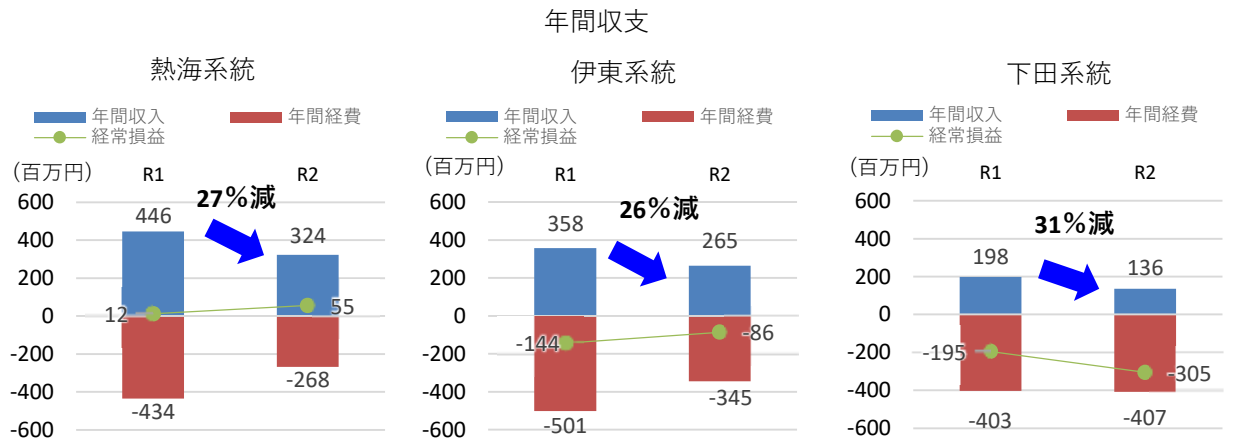
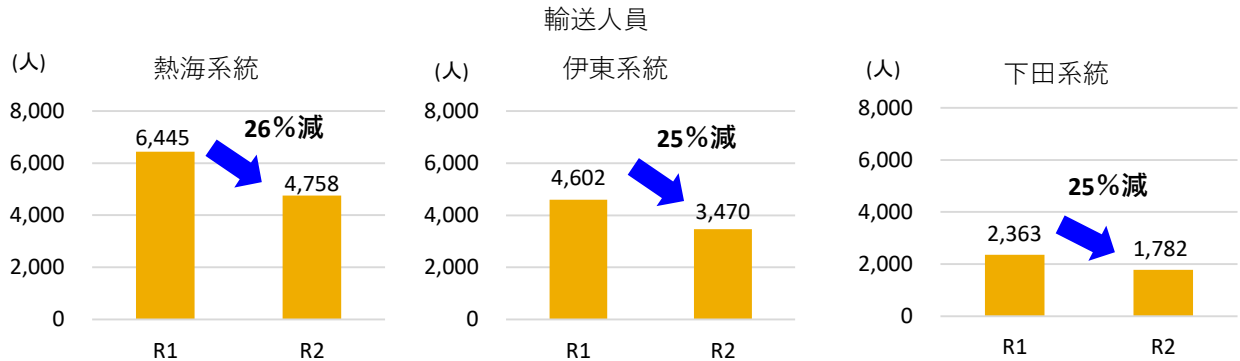
三島駅・熱海駅の南側断面における鉄道各社の乗降人員数※1、平均通過人員数※2



出典) 各社提供データ

②路線バスの状況

- 東海バスの輸送人員は、各系統ともに3割弱の減少となりました。
- 年間収支では、各系統ともに年間収入が約3割減少し、熱海、伊東系統では年間経費が削減されたことから、経常損益は改善が見られましたが、下田系統では年間経費の微増により、経常損益が悪化しています。
- 乗車密度と営業係数の関係から、乗車密度5人以上の黒字路線(営業係数100未満)は熱海系統で多く見られ、乗車密度5人未満の赤字路線(営業係数100以上)は下田系統で多くなっています。



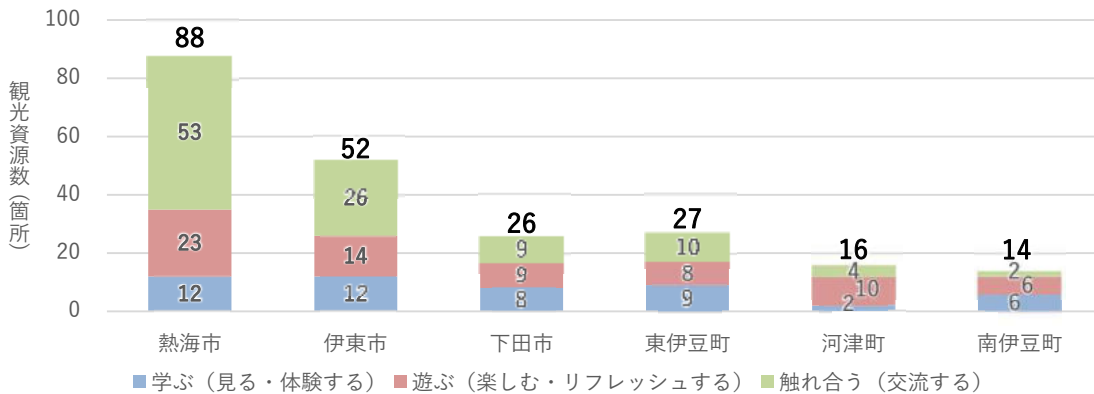
出典) 東海自動車株式会社提供データ

2-4 観光交通特性

(1) 観光資源分布

□ 伊豆東海岸都市圏内の観光資源は、熱海市が88箇所と最も多く、次いで伊東市が52箇所と2番目に多い状況となっています。

【主な観光資源】



市町名	大分類	施設・行祭事等一覧
熱海市	学ぶ (見る・体験する)	中山晋平記念館、澤田政廣記念美術館、アカオハーブ&ローズガーデン、起雲閣、伊豆山郷土資料館、池田満寿夫佐藤陽子 創作の家、旧日向別邸
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	マリンスパあたま、サンビーチ、長浜海水浴場、網代温泉、大縄海水浴場、姫の沢公園、初島アイランドリゾート、南熱海マリナーズホール、家康の湯、熱海港海釣り施設、日曜朝市、ながはま特設市(ニューサマー、長月、神無月、霜月、師走、弥生、新年、如月、卯月、皐月)、熱海GC、西熱海GC
	触れ合う (交流する)	こがし祭り山車コンクール、来宮神社初詣、伊豆山神社初詣、熱海海上花火大会、網代温泉海上花火大会、熱海梅園梅まつり、多賀わかめまつり、伊豆山さざえまつり、アタミアロハフェスティバル、伊豆湯河原温泉夏まつり(サンパ・花火)、網代ふるさとまつり、百八体流灯祭・伊豆多賀温泉花火大会、もみじまつり(熱海梅園)、初島ところ天祭り、湯かけまつり、湯めまをどり「華の舞」、熱海ビールまつり、網代ひものまつり、熱海で遊ぼう(かたて遊ぼう)、薪能、姫の沢公園花まつり、ぼたる観賞の夕べ、阿治古神社例大祭・網代ベイフェスティバル、熱海湯まつり、初島・熱海間遠泳、初島花火大会、伊豆山花火大会、熱海おさかなフェスティバル、それ伊豆山伊勢海老磯まつり、ATAMI ジャカランダフェスティバル
伊東市	学ぶ (見る・体験する)	城ヶ崎海岸、小室山リフト、大室山リフト、ねこの博物館、池田20世紀美術館、伊豆シャボテン動物公園、みかん狩り、東海館、木下奎太郎記念館
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	伊東オレンジビーチ、宇佐美海水浴場、川奈海水浴場、川奈いるか浜公園、ニューヨーククラブミュージアム&フラワーガーデン、さくらの里、伊豆ぐらんぱる公園、伊東マリントウン、伊豆高原旅の駅ぐらんぱるほーと、サザンクロスCC、ゴールド川奈CC(伊東パーク)、伊東CC、川奈ホテルGコース(富士、大島)
	触れ合う (交流する)	伊東温泉めちやくちや市、小室山つばき観賞会、大室山山焼き、伊豆高原桜まつり、サクラ交流会、フジサンケイレディスクラシック、小室山つばきまつり、祐親まつり、ぼたる観賞会、松川タライ乗り競走、伊東温泉夢花火、宇佐美夏祭り・花火大会、按針祭花火大会(松川灯籠流し、太鼓合戦、海)、やんもの里花火大会、川奈港いるか浜花火大会、伊東温泉箸まつり、伊豆高原クラフトの森フェスティバル、伊豆高原秋の森の露天市、伊東温泉とっておき冬花火大会、オレンジビーチマラソン、尻つみまつり、伊東温泉夢花火、伊東温泉シャイニークリスマス
下田市	学ぶ (見る・体験する)	伊豆クルーズ、下田ロープウェイ、豆州下田郷土資料館、了仙寺宝物館、下田海中水族館、ベイ・ステージ下田ハーバーミュージアム、宝福寺お吉記念館
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	白浜中央海水浴場、白浜大浜海水浴場、外浦海水浴場、九十浜海水浴場、鍋田浜海水浴場、多々戸浜海水浴場、入田浜海水浴場、吉佐美大浜海水浴場、田牛海水浴場
	触れ合う (交流する)	下田太鼓まつり、黒船祭、あじさい祭、水仙まつり、ピックシャワー、白浜海の祭典、風の花祭り、香りの花まつり、マリナーフェスタ下田
東伊豆町	学ぶ (見る・体験する)	熱川バナナワ二園、収穫体験農園ふたつぼり、山菜狩り、太田農園、いちごらんど中西、稲取細野高原すすきイベント、樋の口園(みかん狩り)、樋の口園(いちご狩り)、金指園(いちご狩り)
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	熱川海水浴場、伊豆アニマルキングダム、高磯の湯、北川露天風呂、港の朝市、池尻海岸、大川露天風呂、稲取GC
	触れ合う (交流する)	熱川温泉海上花火大会、雛のつるし飾りまつり、大川竹ヶ沢公園ぼたる観賞の夕べ、どんつく祭、稲取ちびっこ緑日、レインボーディスコクラブ、けやき公園ぼたる観賞会、雛のつるし飾り 秋の特別展示、キンメマラソン
河津町	学ぶ (見る・体験する)	—
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	KawaZoo、河津バガテル公園、河津浜海水浴場、今井浜海水浴場、踊り子温泉会館、伊豆見高入谷高原温泉、舟戸の番屋(露天風呂)
	触れ合う (交流する)	今井浜打上花火大会、河津桜まつり、天城路もみじまつり、かわづカーネーション見本園
南伊豆町	学ぶ (見る・体験する)	波勝崎苑、南伊豆町ジオパークビジターセンター、道の駅下賀茂温泉湯の花
	遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	弓ヶ浜海水浴場、子浦海水浴場、みなと湯、銀の湯会館、弓ヶ浜スプラッシュウォーターパーク、伊豆下田CC
	触れ合う (交流する)	みなみの桜と菜の花まつり、南伊豆町伊勢えびまつり

出典) 平成30年度静岡県観光交流の動向

【主な観光資源の位置】



資料) 「伊豆市まるごとガイドMAP」 (伊豆市観光協会作成) より観光地を整理

(2) 観光来訪者数

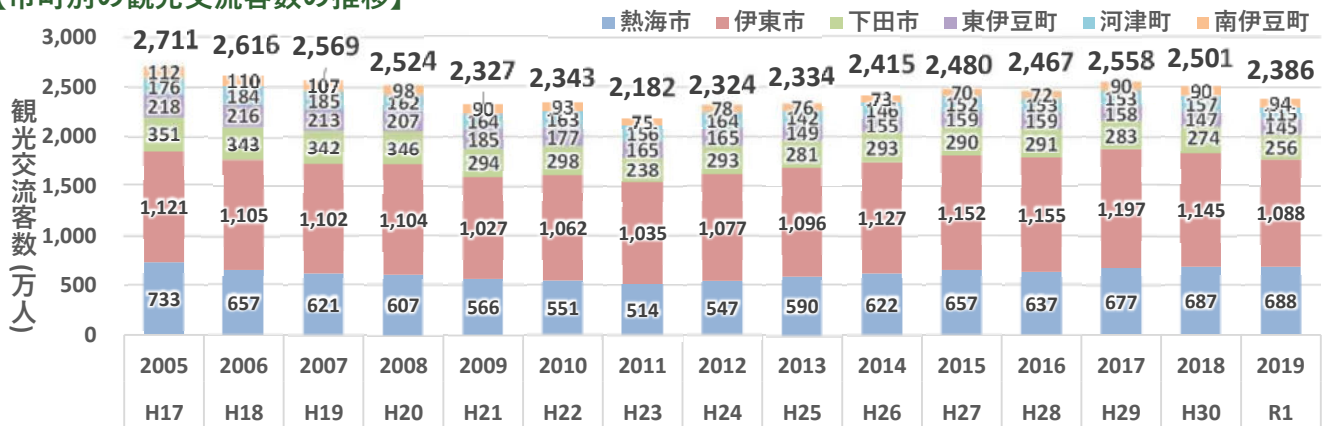
□ 伊豆東海岸都市圏の観光交流客数は、平成23年度（2011年度）を下限として緩やかに推移している状況で、新型コロナウイルス感染症の拡大により先行きは不透明であるものの、近年は熱海市と南伊豆町の増加が大きい状況です。

（熱海市：24ポイント（H23→H30）、南伊豆町：18ポイント（H27→H30））

□ 伊豆東海岸都市圏の宿泊客数は、静岡県全体数の約4割を占めており、他の都市圏と比べ、宿泊での観光客が多い都市圏であることが確認できます。

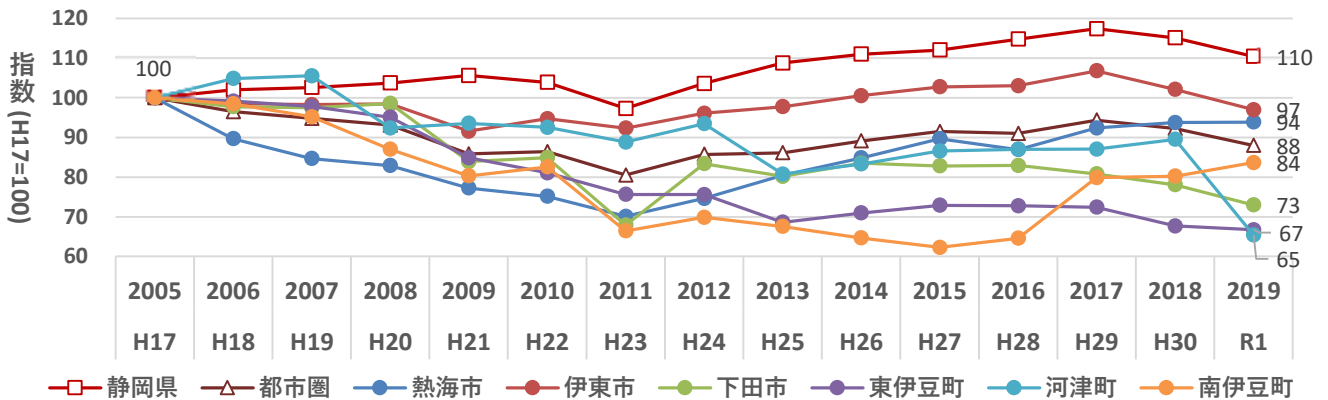
□ 伊豆東海岸都市圏は、海水浴や花火大会、花見などを通じた集客ポテンシャルが高い地域です。

【市町別の観光交流客数の推移】



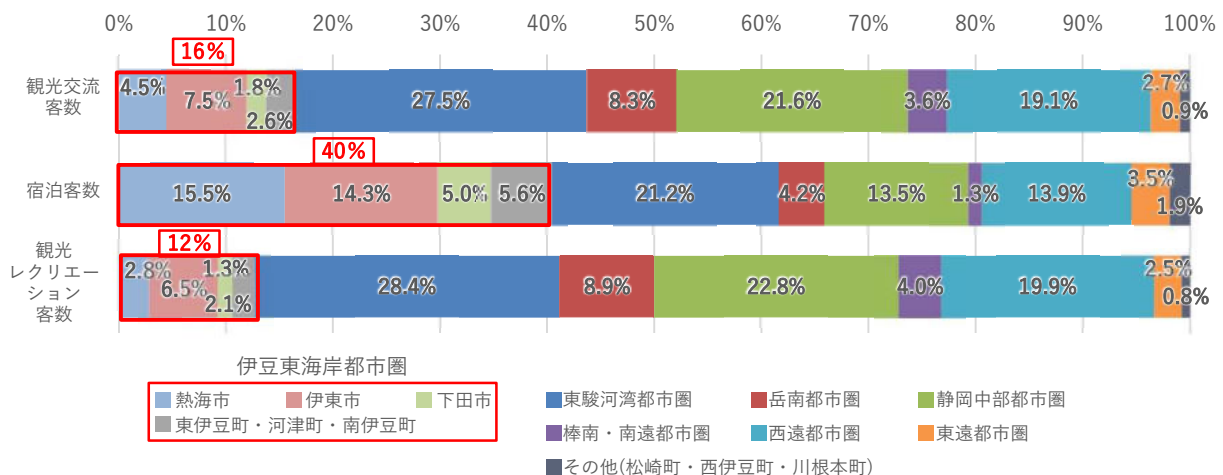
出典) 静岡県観光交流の動向

【市町別の観光交流客数の指数の推移】



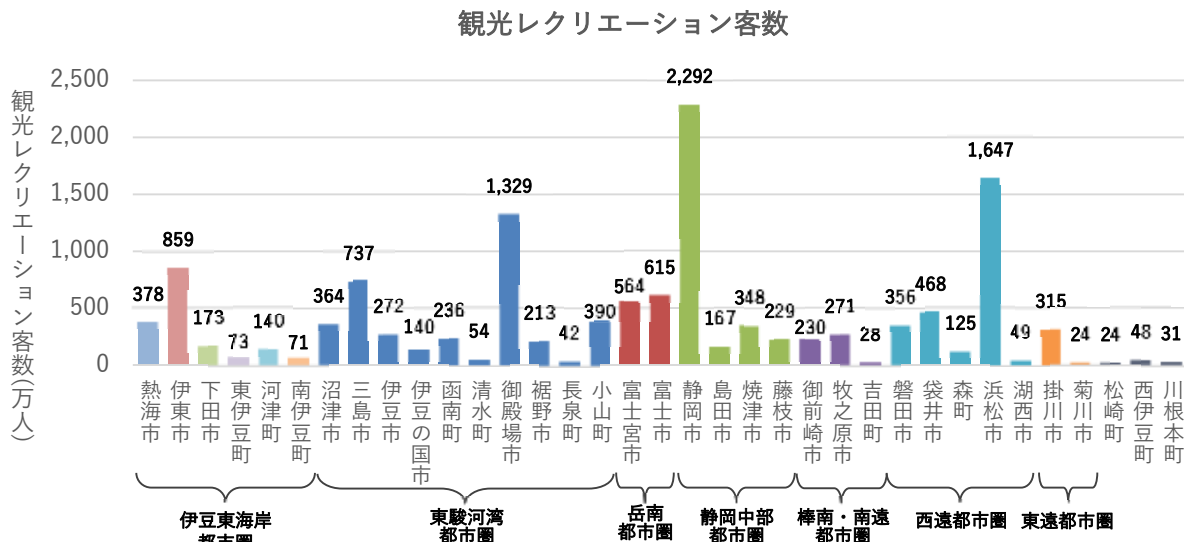
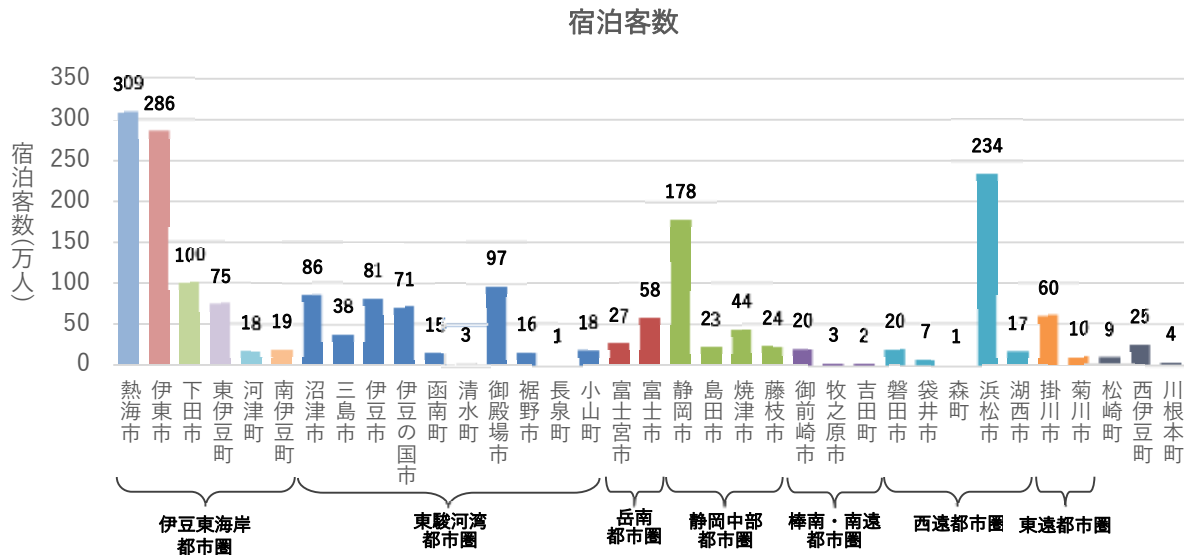
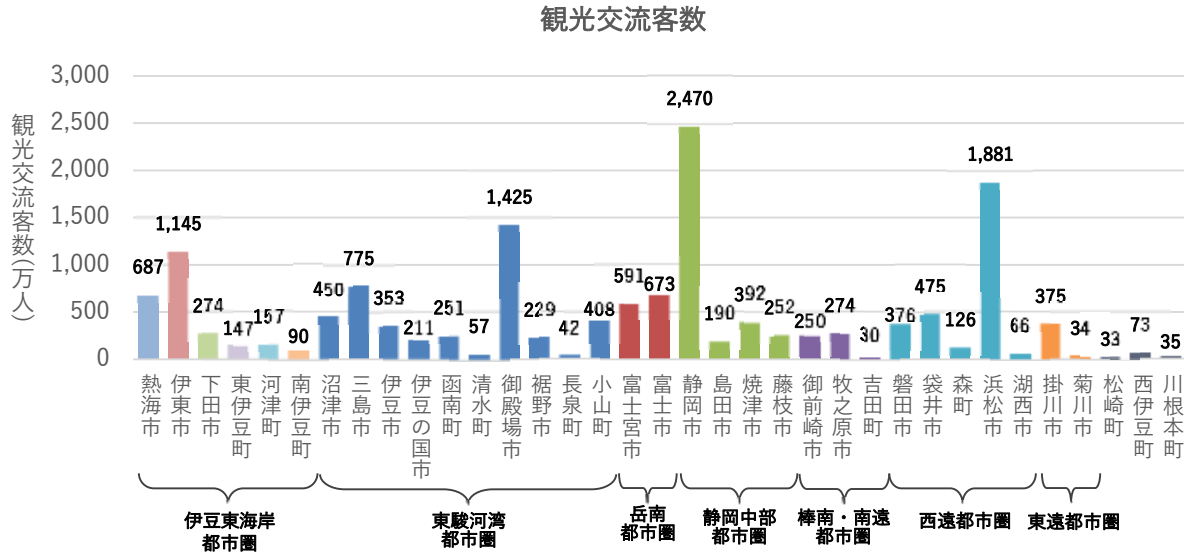
出典) 静岡県観光交流の動向

【静岡県の観光来訪者数の地域別構成比 (H30)】



出典) 平成30年度静岡県観光交流の動向

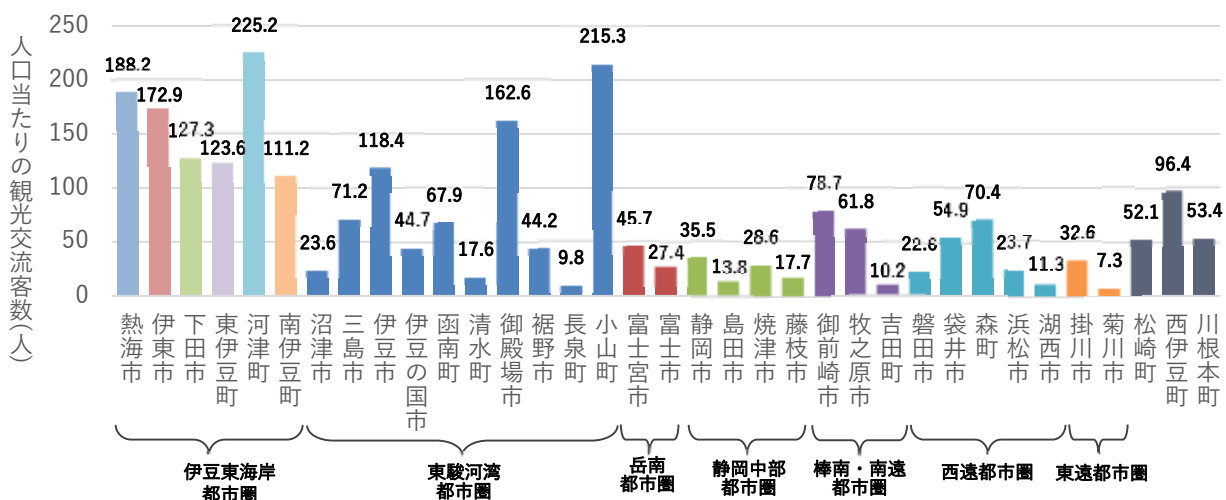
【市町別の観光来訪者数（H30）】



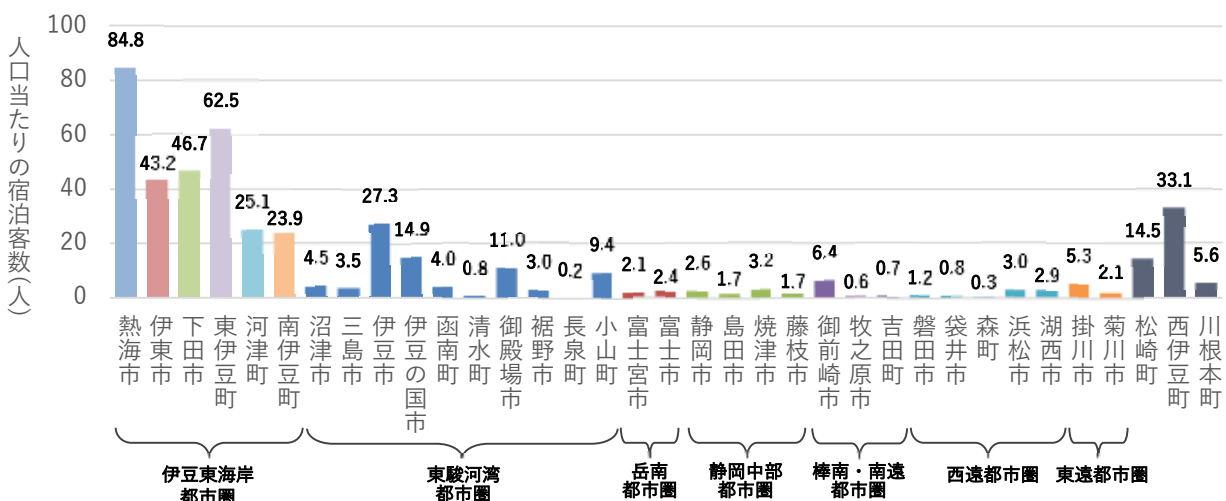
出典) 平成30年度静岡県観光交流の動向

【市町別の人口当たりの観光来訪者数（H30）】

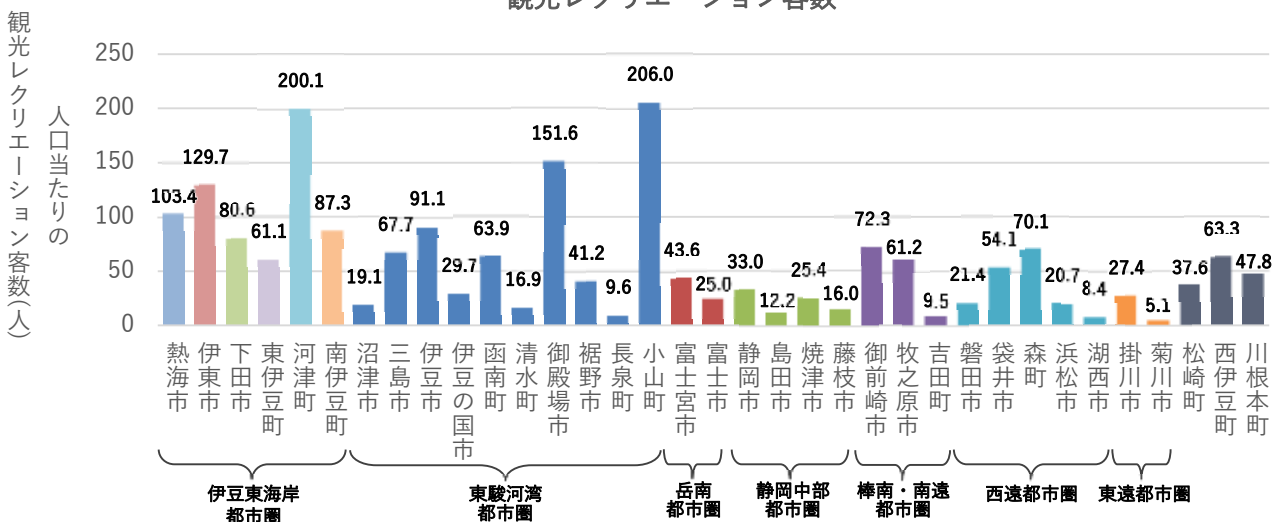
観光交流客数



宿泊客数



観光レクリエーション客数



出典) 令和元年度静岡県観光交流の動向

【伊豆東海岸都市圏の海水浴客・主な行祭事ベスト10 (H30)】

(単位：万人)

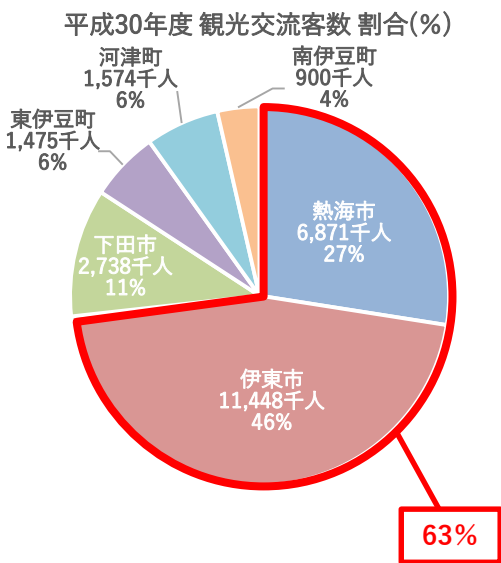
海水浴		花火大会		花見		
1位	下田市	49.6	袋井市 ふくろい遠州の花火	40.0	河津町 河津桜まつり	90.7
2位	牧之原市	43.9	熱海市 熱海海上花火大会	38.7	藤枝市 藤枝蓮華寺池公園藤まつり	21.2
3位	熱海市	18.0	伊東市 按針祭花火大会	28.2	南伊豆町 みなみの桜と菜の花まつり	21.2
4位	沼津市	13.1	焼津市 焼津海上花火大会	28.0	下田市 水仙まつり	18.9
5位	伊豆市	7.6	藤枝市 藤枝花火大会	16.8	熱海市 熱海梅園梅まつり	18.4
6位	伊東市	7.2	沼津市 沼津夏まつり・狩野川花火大会	13.0	伊東市 伊豆高原桜まつり	15.7
7位	南伊豆町	6.3	浜松市 鹿島の花火	9.0	下田市 あじさい祭	14.9
8位	河津町	4.2	伊豆市 土肥サマーフェスティバル	4.4	松崎町 田んぼをつかった花畑	8.0
9位	西伊豆町	3.8	浜松市 館山寺花火大会	4.0	熱海市 もみじまつり (熱海梅園)	5.7
10位	御前崎市	3.1	熱海市 百八体流祭・伊豆多賀温泉花火大会	3.3	伊豆市 修善寺もみじまつり	4.9
静岡県 静岡県全体		167.6	静岡県全体	249.1	静岡県全体	278.5

※塗りつぶしは、伊豆東海岸都市圏
出典) 平成30年度静岡県観光交流の動向

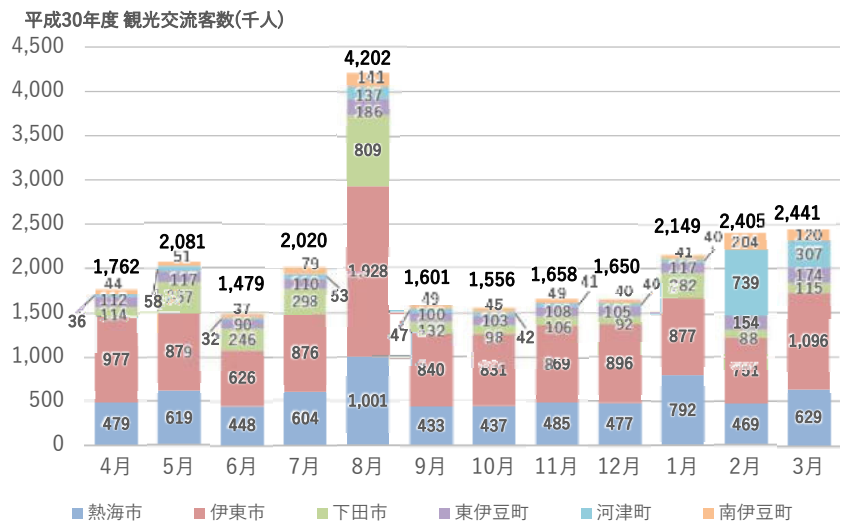
(3) 観光の訪問地、時期の偏り

- 伊豆東海岸都市圏の観光交流客は、熱海市・伊東市の都市圏北側で全体の63%を占めており、都市圏南部においては少ない状況です。
- 特に、夏季（8月）には、海水浴客を中心に観光交流客が集中する傾向があります。

【市町別の観光交流客数】



【月別の観光交流客数】

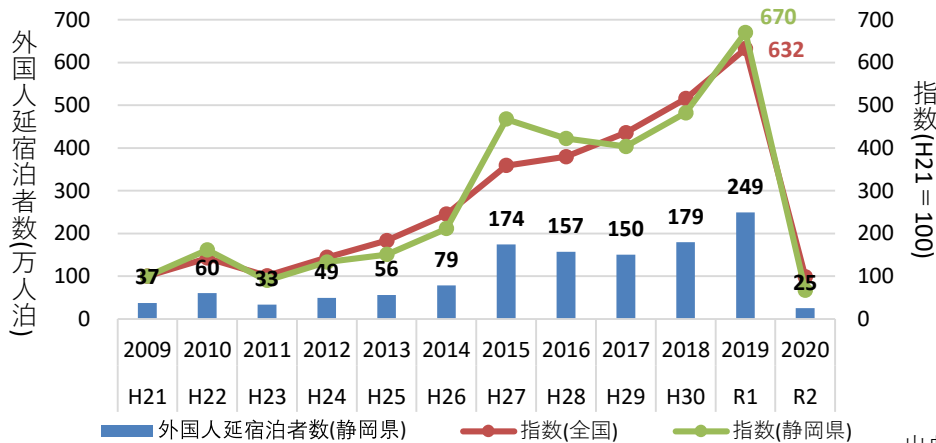


出典) 平成30年度静岡県観光交流の動向

(4) インバウンド

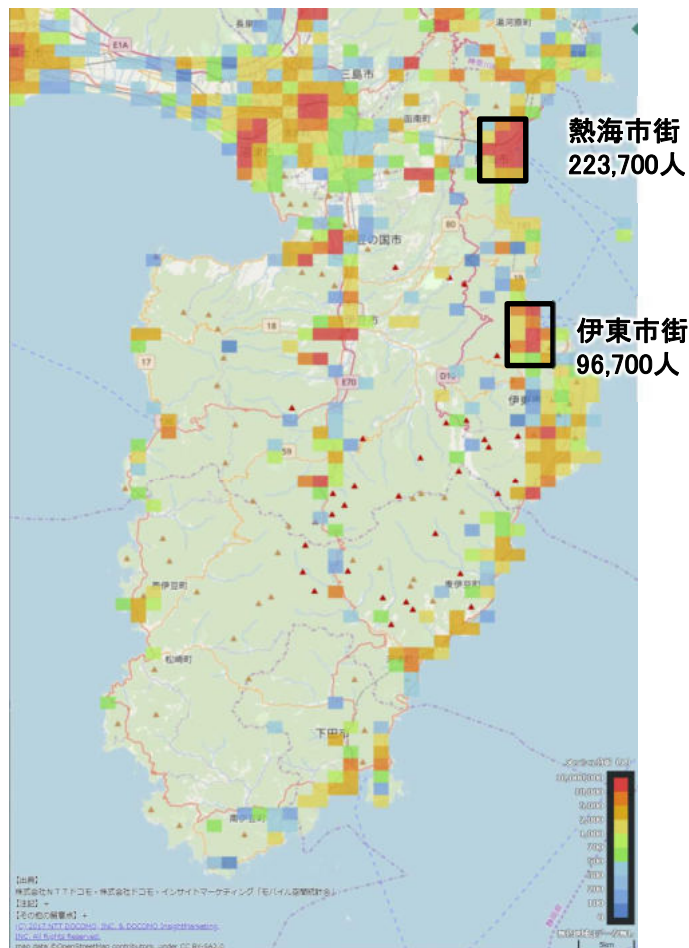
- 外国人旅行客数は、政府のインバウンド推進策を背景に近年増加の傾向が著しく、平成21年（2009年）から令和元年（2019年）にかけて約6～7倍増加していました。
- しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、外国人の入国禁止措置などの影響もあり、先行きが不透明な状況です。
- 伊豆東海岸都市圏では、熱海市や伊東市の中心市街地に外国人の滞在が多く、外国人に人気のエリアとなっています。

【静岡県の外国人延べ宿泊客数の推移】



出典) 宿泊旅行統計調査

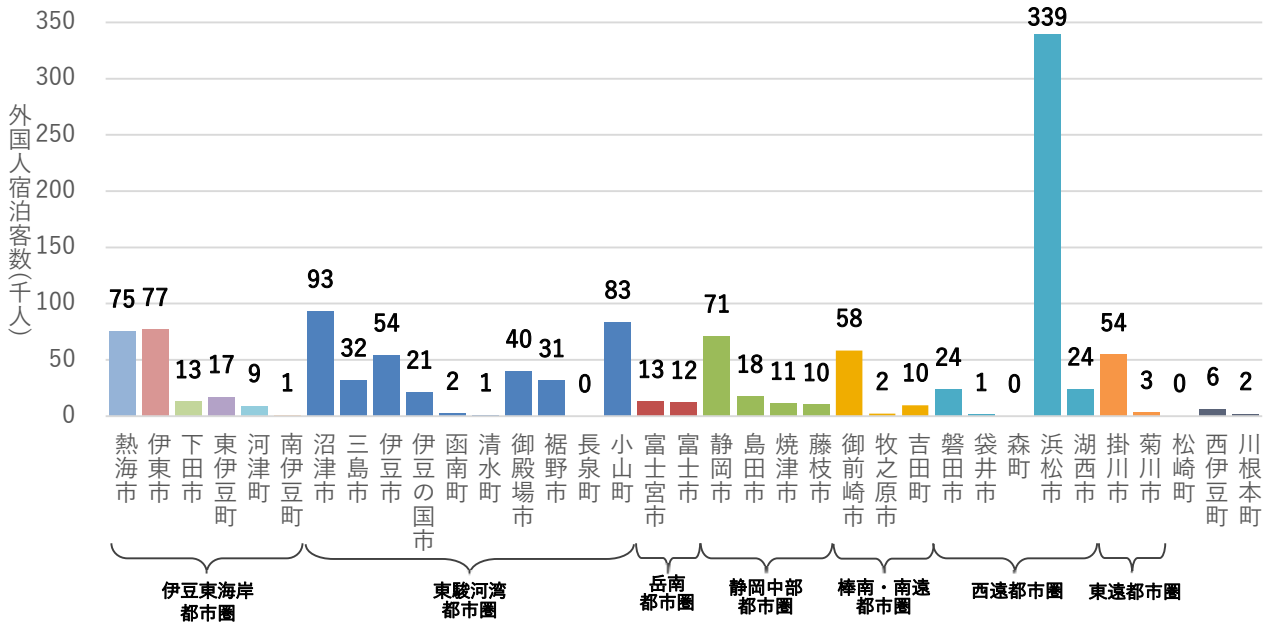
【外国人の滞在状況（2017年8月～2018年7月）】



※外国人メッシュ滞在者数
1kmメッシュに連続して1時間以上滞在した外国人数を日別に算出し、対象期間の日数分を積算した延べ人数を表している。同一人物が複数のメッシュに滞在した場合や複数日に跨って滞在した場合、複数カウントしている。

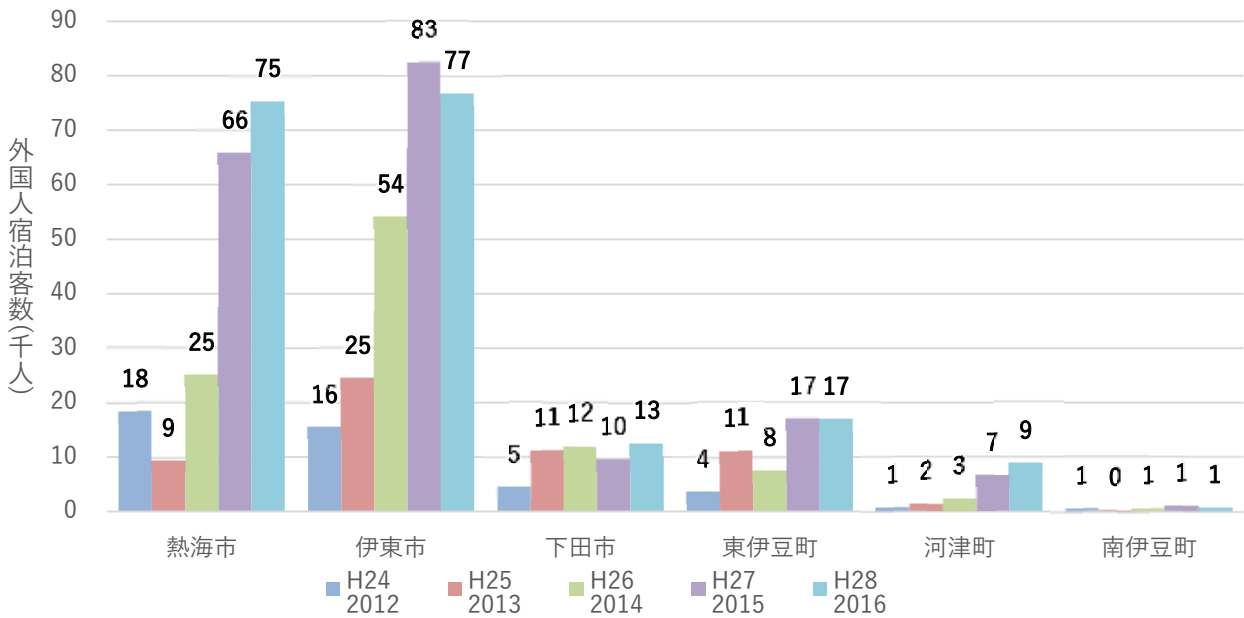
出典) RESAS 観光マップ 外国人メッシュ（2017年8月～2018年7月）

【外国人宿泊客数（H28）】



出典) 訪日外国人旅行者の受入れに関する調査(平成30年9月7日)

【都市圏の外国人宿泊客数】



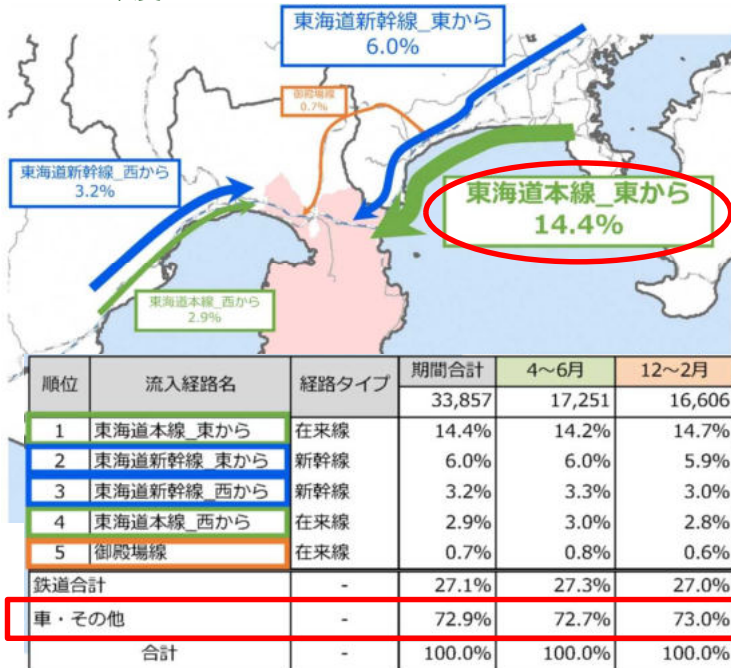
出典) 訪日外国人旅行者の受入れに関する調査(平成30年9月7日)

(5) 観光周遊特性

- 伊豆半島来訪者の流入交通手段は自動車約7割と最も多く、鉄道利用者は関東方面からの東海道本線利用者が約1割となっています。
- 伊豆半島来訪者の周遊ルートは、熱海市と伊東市の周遊が最も人気であり、伊豆東海岸都市圏内では伊東市と東伊豆町の周遊ルートも人気となっています。
- 熱海市は来訪者の半数以上が他エリアを訪れていませんが、伊豆東海岸都市圏南部のエリアは他エリアとの周遊で訪れる人が多くなっています。

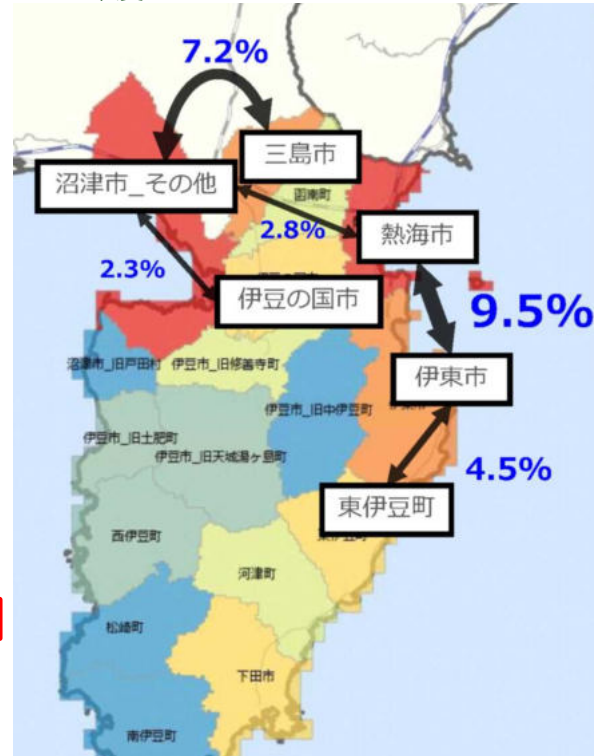
【伊豆半島来訪者の流入交通手段と経路】

<2019年度>



【伊豆半島来訪者の周遊ルートTOP5】

<2019年度>



【伊豆半島来訪者の平均周遊箇所数】

<2019年度>

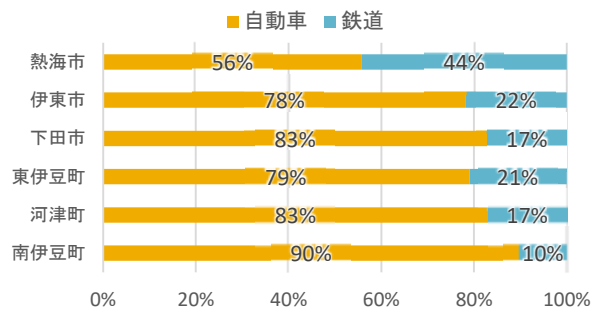
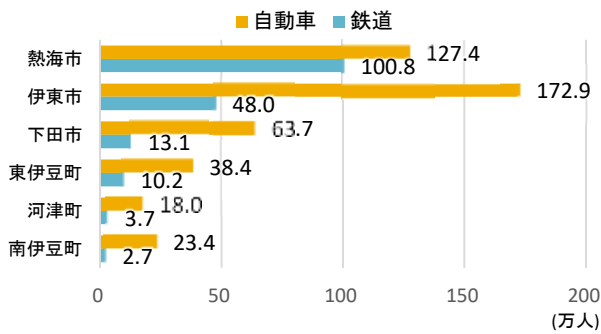


資料) 伊豆地域公共交通利用状況分析 報告書 (2019年度調査 (株) ジェイアール東日本企画) に加筆して作成

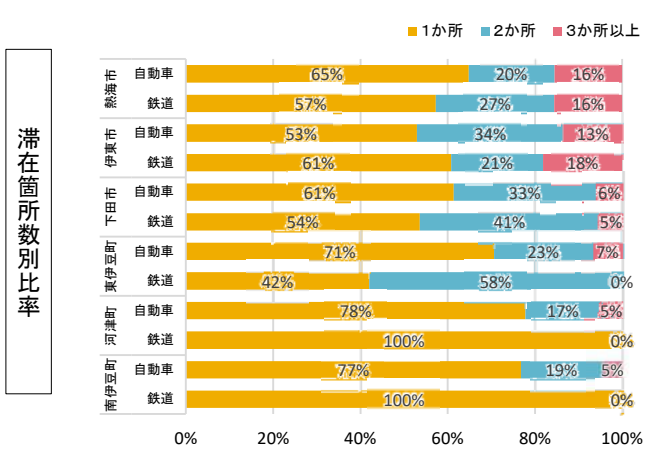
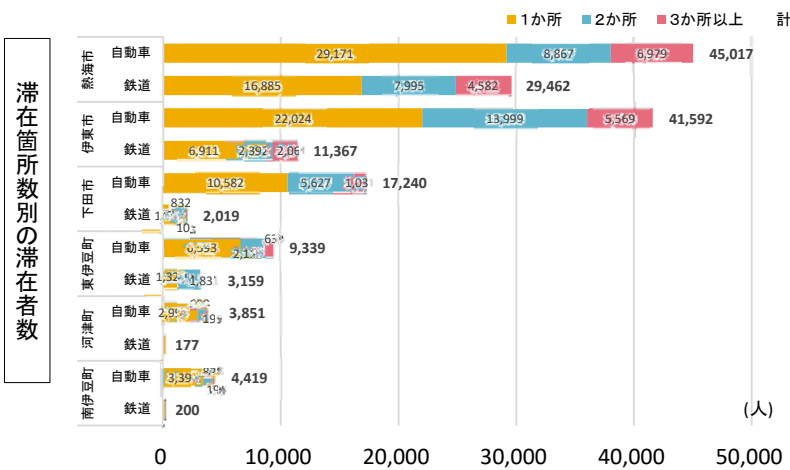
【伊豆東海岸都市圏の周遊状況（令和元年7～9月の休日）】

- 都市圏内の最初の来訪地は、自動車では、伊東市が173万人と最も多く、次いで熱海市が127万人と多くなっています。鉄道では、熱海市が101万人と最も多く、次いで伊東市が48万人と多くなっています。交通手段比率は、熱海市は新幹線駅があるため鉄道の割合が約4割と高くなっています。
- 各市町内の周遊は、滞在者数は鉄道よりも自動車の方が多いものの、滞在箇所数2～3箇所以上の周遊比率は、自動車よりも鉄道の方が多くなっています。また、熱海市や伊東市では3箇所以上の周遊が1～2割みられるものの、その他の地域では少なくなっています。
- 次の行き先における周遊の比率は、自動車で49%、鉄道で38%となっており、都市圏内や静岡県内での周遊比率についても、自動車よりも鉄道の方が低い状況となっています。

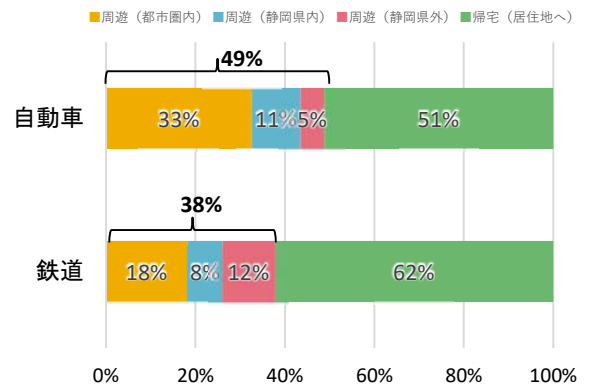
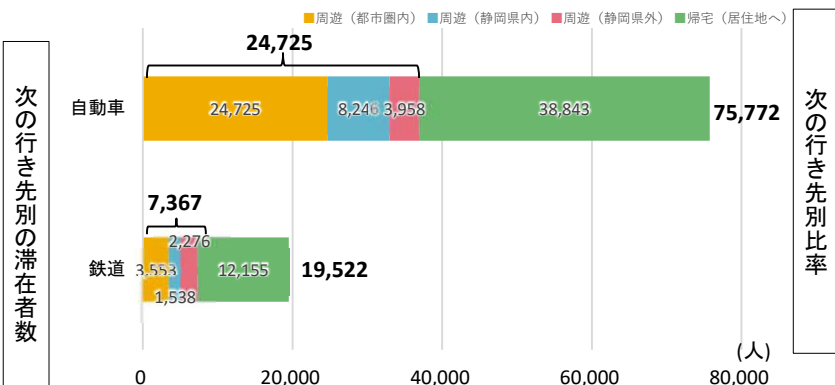
①都市圏に入ってくる時の最初の来訪地（自動車、鉄道）



②各市町内における周遊箇所数（自動車、鉄道）



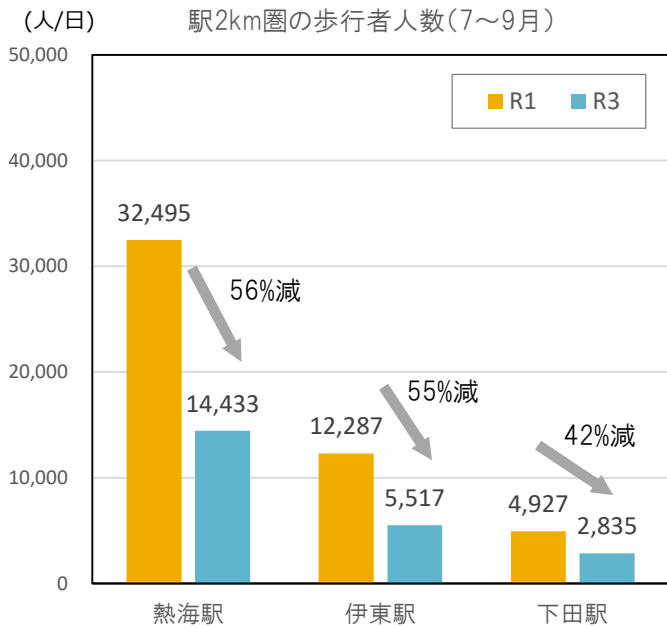
③各市町から出ていく時の次の行き先（自動車、鉄道）



出典) 「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

② 駅周辺の歩行者数の変化

- 令和元年夏季における駅周辺の歩行者数は、熱海駅で3.2万人、伊東駅で1.2万人、下田駅で0.5万人でしたが、令和3年夏季には約半数に減少しました。
- 歩行者の経路は、駅から主要観光地間で多くなっており、概ね駅から1kmの範囲で分布しています。



出典) KDDI Location Analyzer (位置情報から集計された全体推計値)

【熱海駅周辺】 来訪者の通行人口分布 (令和元年7~9月)



【伊東駅周辺】 来訪者の通行人口分布 (令和元年7~9月)

歩行者は、湯の花通り商店街を中心に周辺の観光地や宿泊施設への経路で多くなっている。



【下田駅周辺】 来訪者の通行人口分布 (令和元年7~9月)

歩行者は、駅前から道の駅開国下田みなと周辺が多く、ペリーロード周辺や下田海中水族館周辺まで分布している。



出典) KDDI Location Analyzer (位置情報から集計された全体推計値)